

■ 前提条件および注意事項

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。
ミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。
※SQL Serverについては、本手順にて移行先環境構築やDB移行を行います。
- 本手順では、データ移行にデータボリュームを利用します。
- バックアップおよびリストア作業に、Arcserve Unified Data Protectionを利用します。
- 本手順では、SQL Server Management Studio(以降「SSMS」と記載)および「sqlcmd」を利用します。
以下の構成を前提として手順を記載しています。
 - ・ サーバ : 1 台
 - ・ SqlServerインスタンス : 1 つ
 - ・ 操作対象のデータベース : 1 つお客様環境において、同一サーバ上に複数のSqlServerインスタンスまたは各インスタンス配下に、複数のデータベースが存在する場合は、手順内で示す「インスタンス名」および「データベース名」をお客様環境の構成に合わせて読み替えて実行してください。
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。

1.1.4 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server+SQL Server）データ移行手順

■ 移行作業内容

1. 移行先環境の作成
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成
3. Arcserveの導入
4. バックアップ作業
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行
6. リストア作業
7. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

1. 移行先環境の作成

以下リンクを参照して、移行先サーバーを作成します。
サーバーインスタンス構築手順

下記を参照して、データボリュームを作成します。
データボリュームの新規作成方法

下記を参照して、NWインターフェイスを追加します。
インスタンスへNWインターフェイスを追加する

下記を参照して、NTPサーバへ接続します。
NTPサーバに接続する

下記を参照して、OSライセンスのアクティベーション実施します。
OSライセンスのアクティベーションを実施する

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

以下リンクを参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを作成します。
データボリュームの新規作成

作成するデータボリュームは、以下の通りです

- ・ボリュームソース : ソースの指定なし(空のボリューム)
- ・サイズ : 移行元インスタンス作成時のデータボリュームの容量
- ・ボリューム種別 : Type-A

以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを移行元サーバのインスタンスへ接続します。

4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル

※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

SDPFポータルへログインし、[仮想サーバー]>[サーバーインスタンス]>[インスタンス]メニューを開きます。



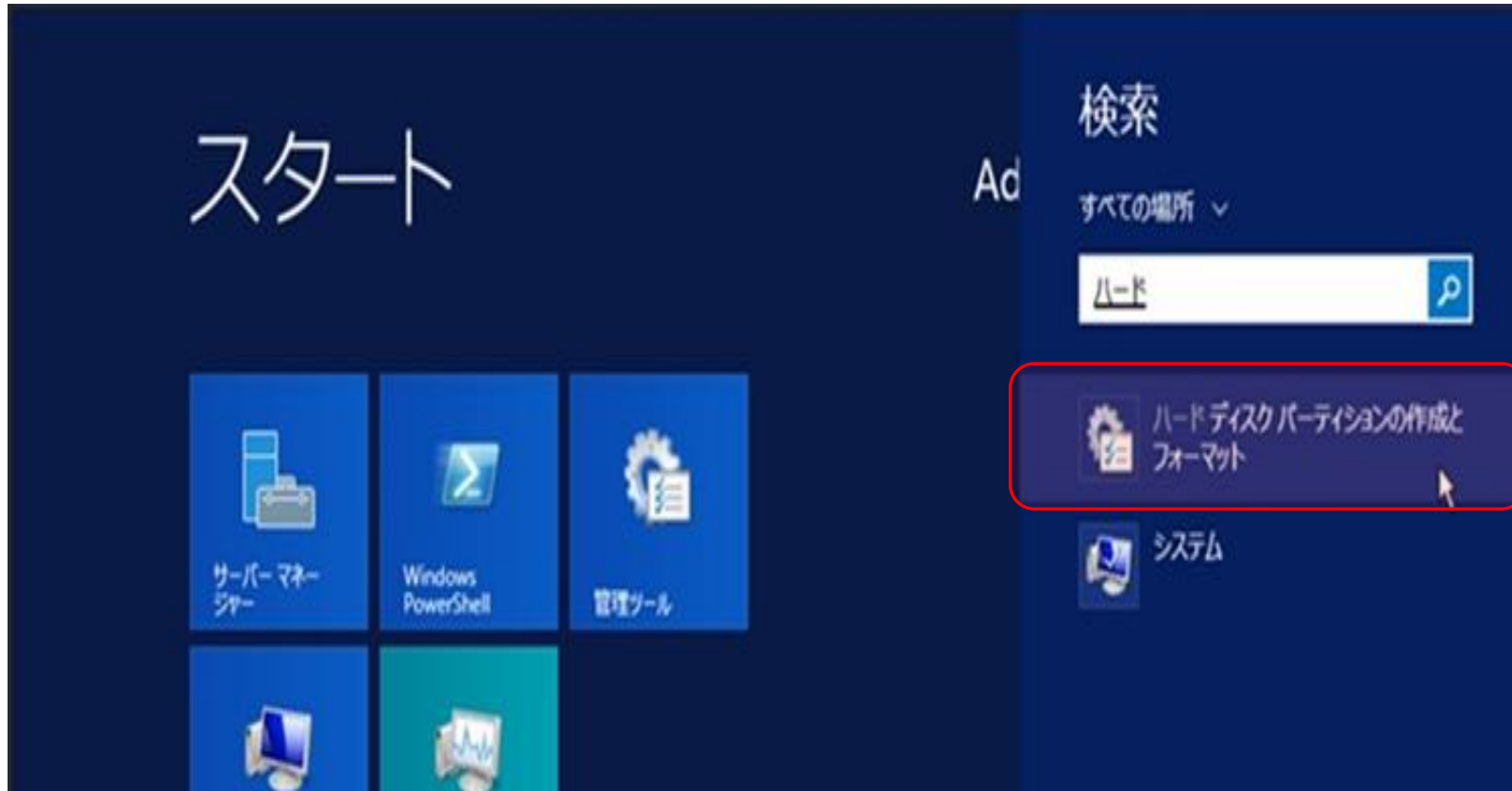
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバを選択し、詳細画面を開き、[コンソール]タブを選択します。



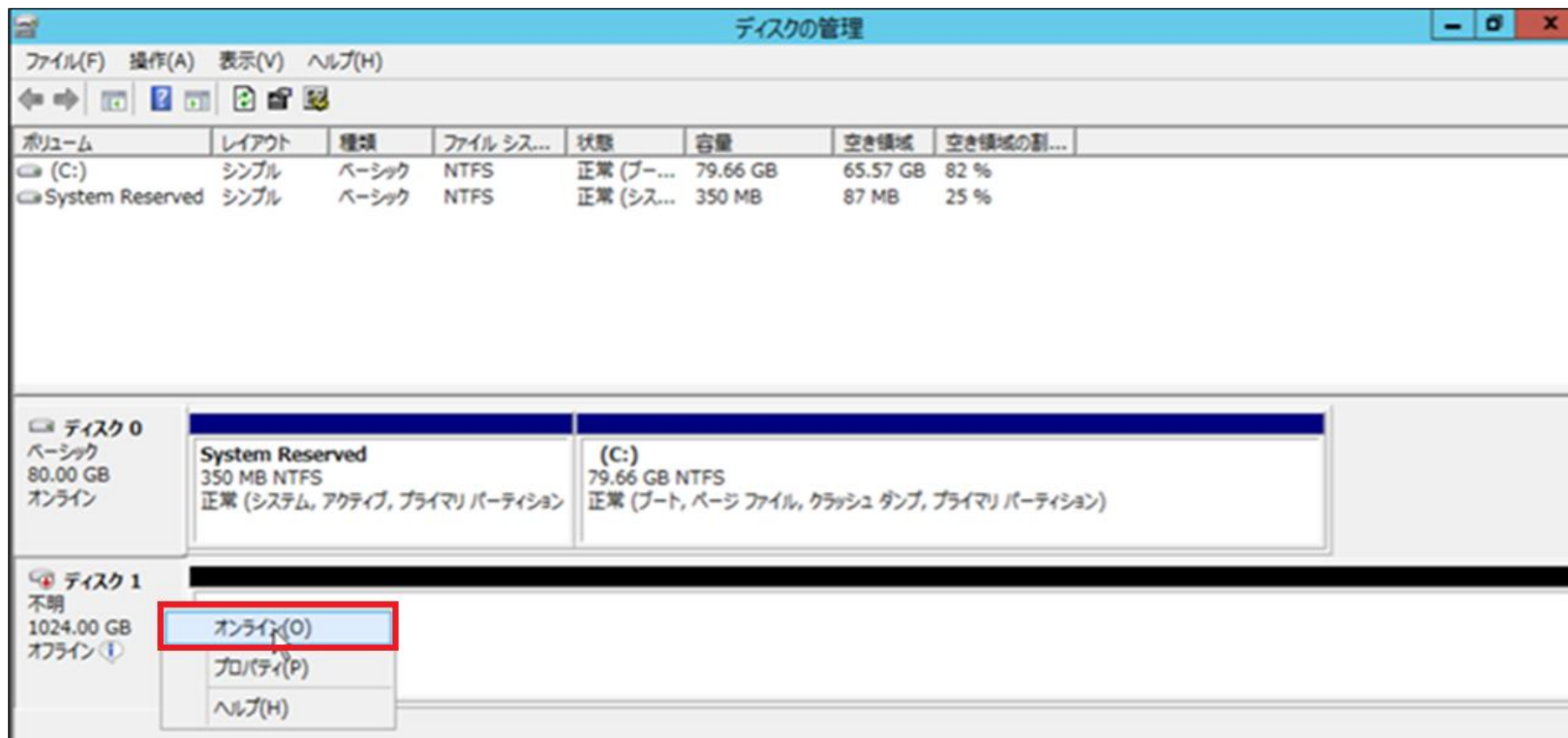
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバーにログインして、「検索」ボックスから「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



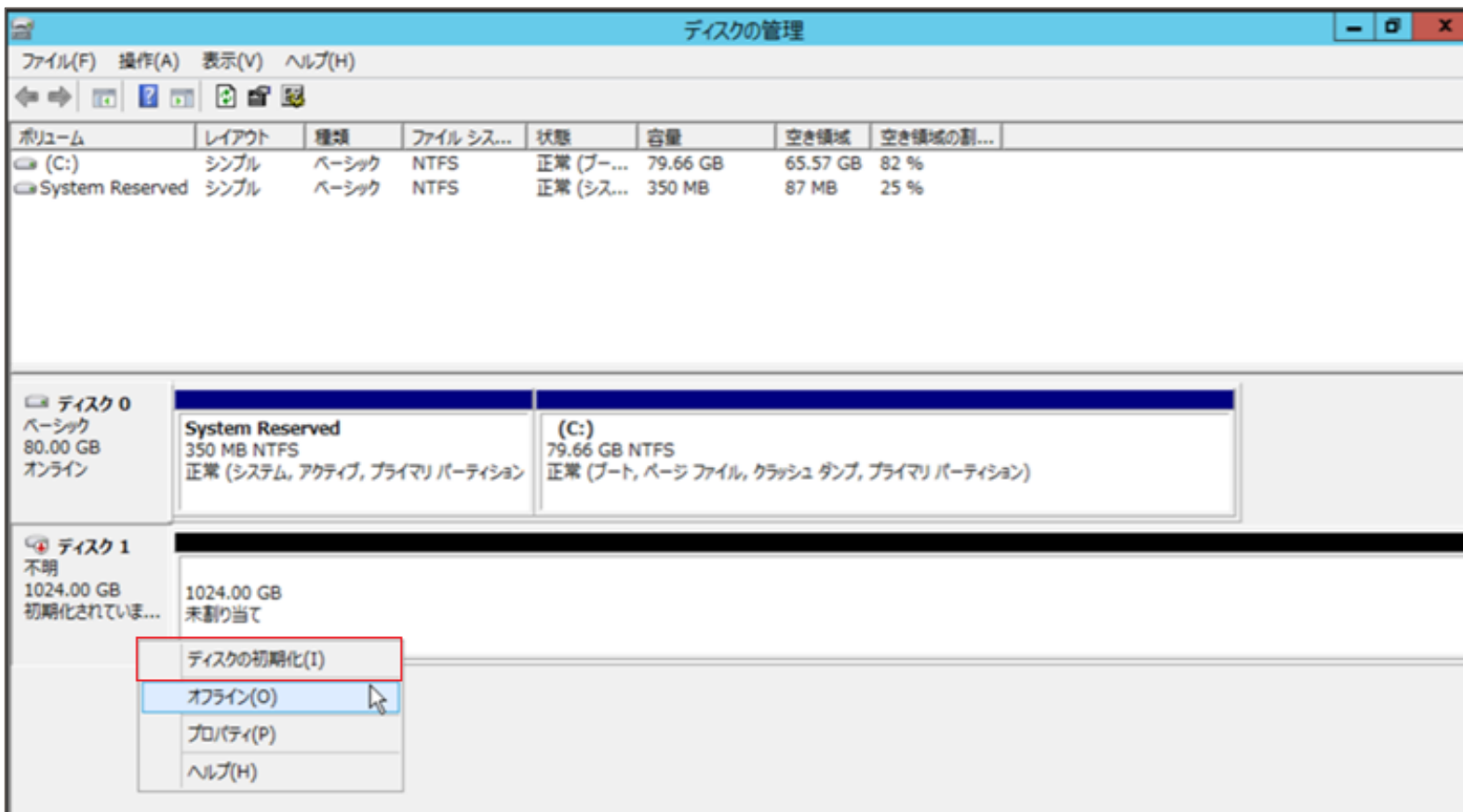
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの管理」が開くので、初期化するディスク上で右クリックをし、「オンライン」を押下します。



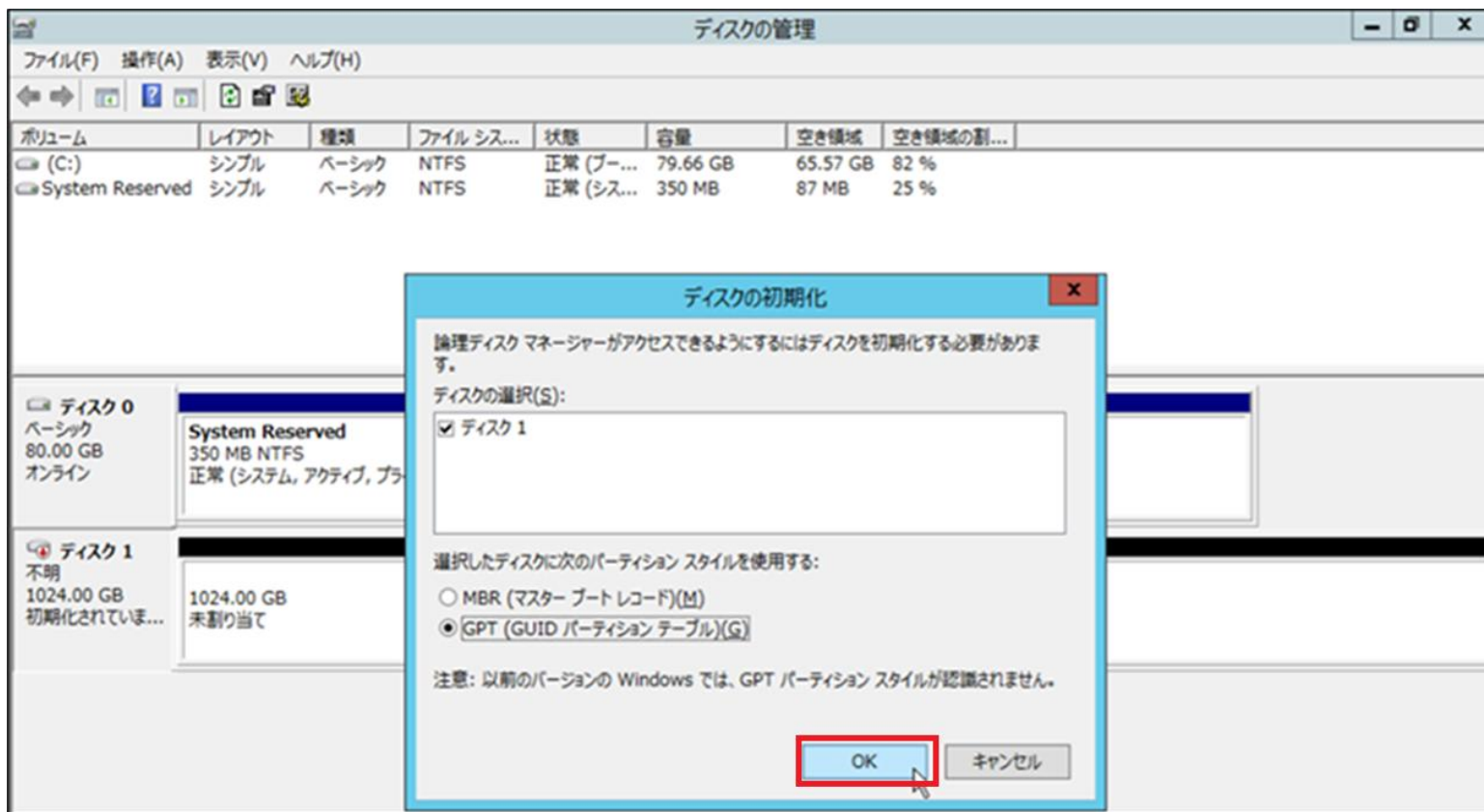
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「オンライン」押下後、再度、初期化するディスク上で右クリックをし、「ディスクの初期化」を押下します。



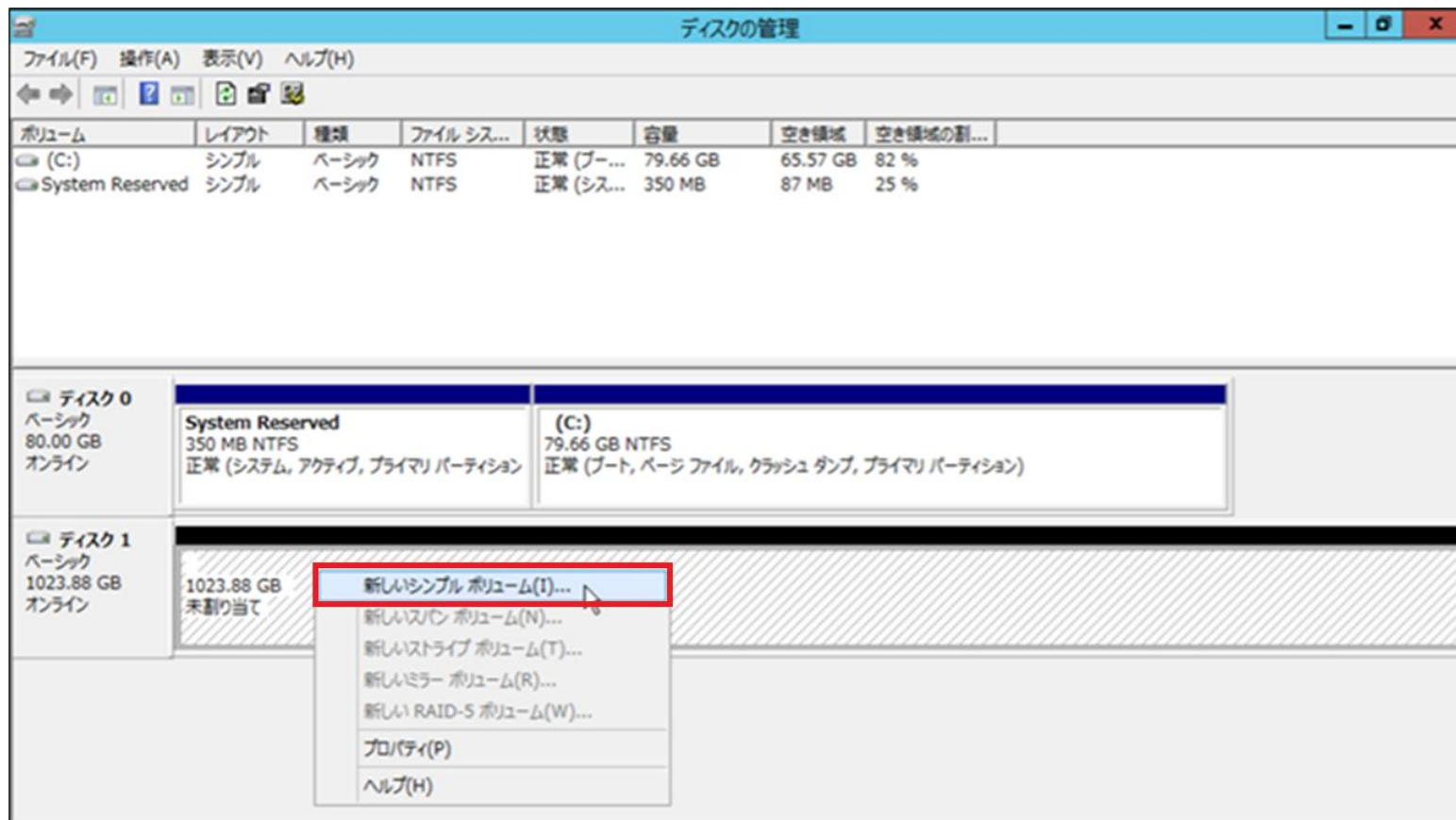
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの初期化」画面が表示されるので、「GPT（GUID パーティション テーブル）」を選択して、「OK」を押下します。



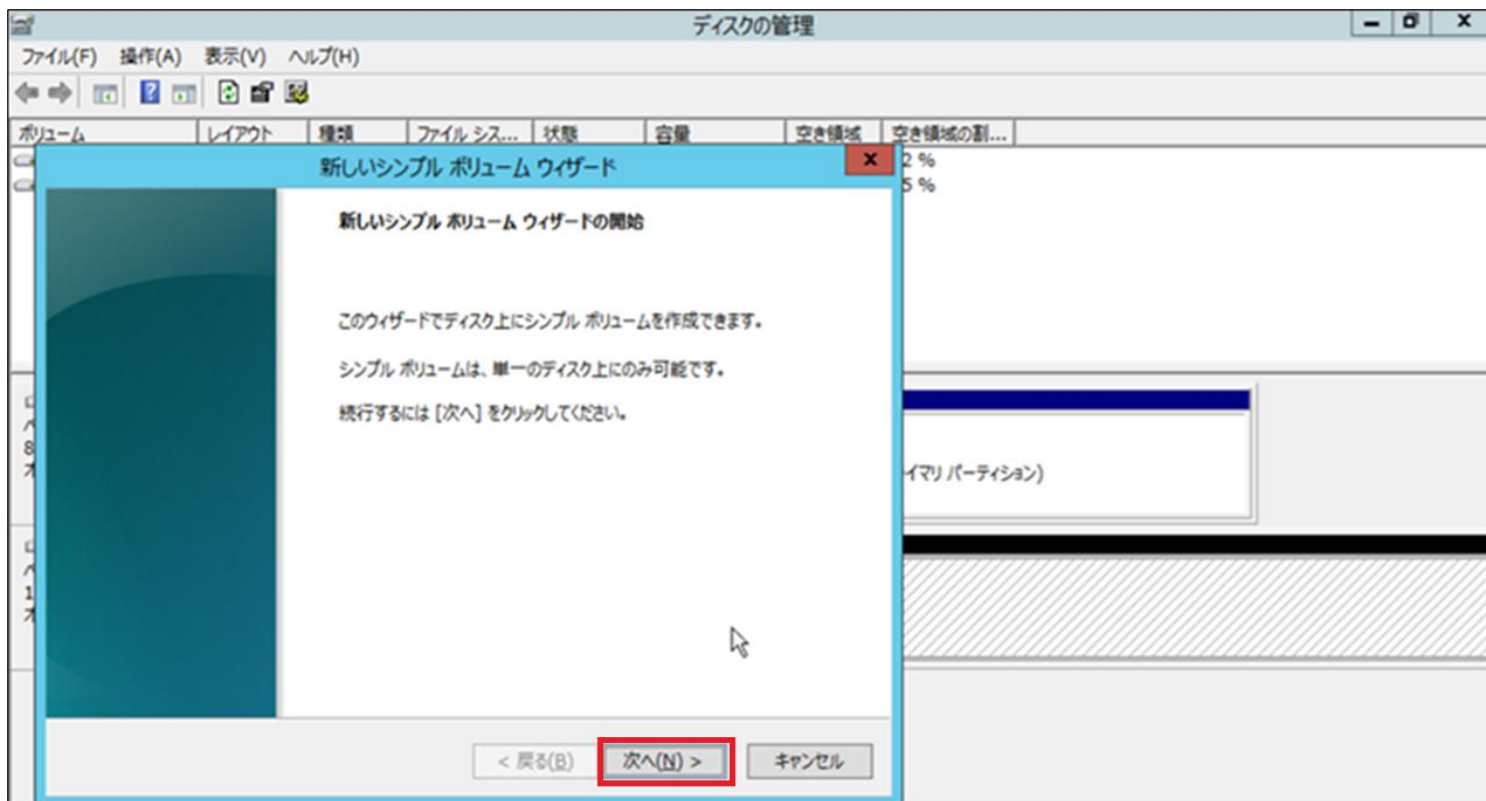
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

初期化するディスク上で右クリックをし、「新しいシンプルボリューム」を押下します。



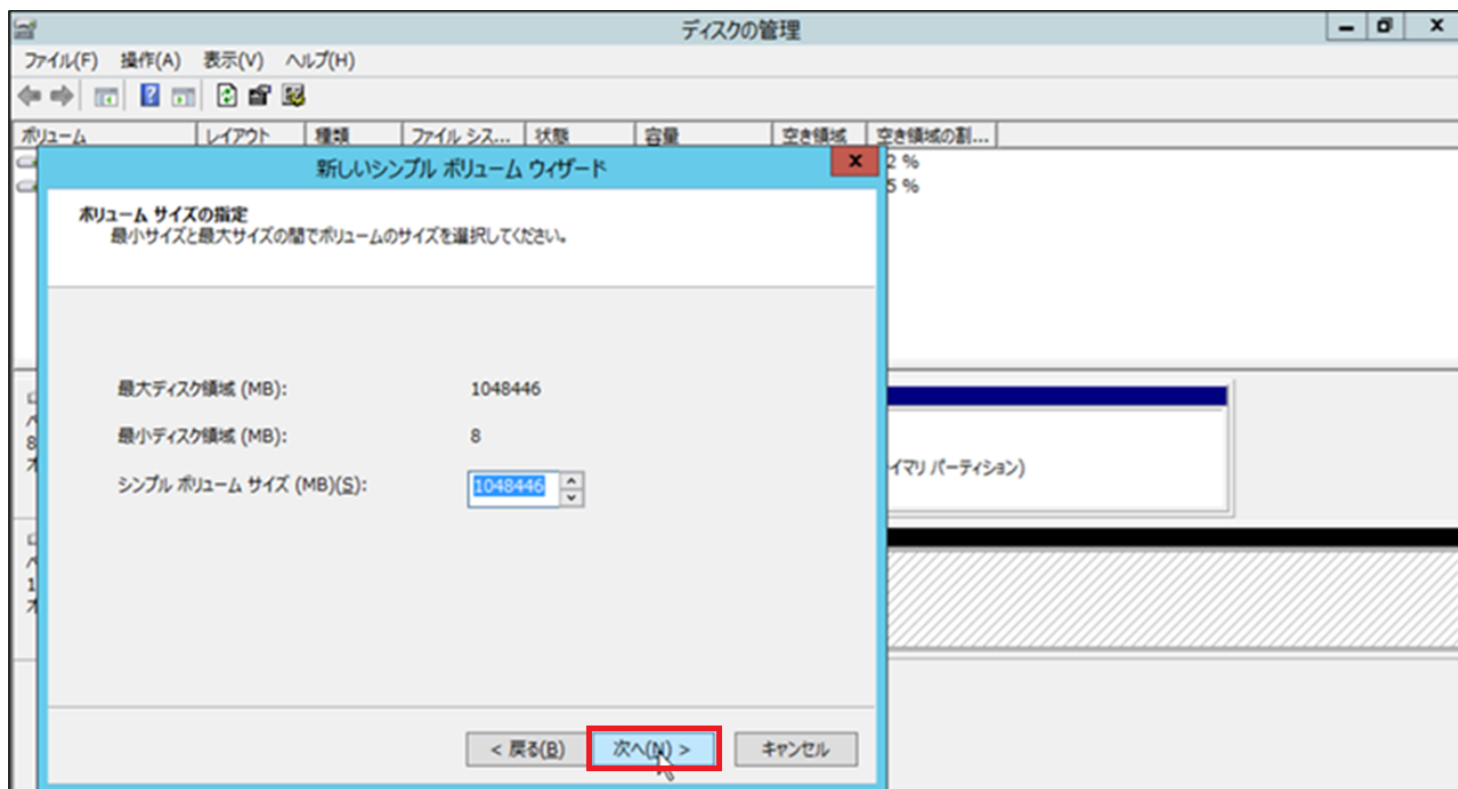
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「新しいシンプル ボリューム ウィザード」画面が表示されるので、「次へ」を押下します。



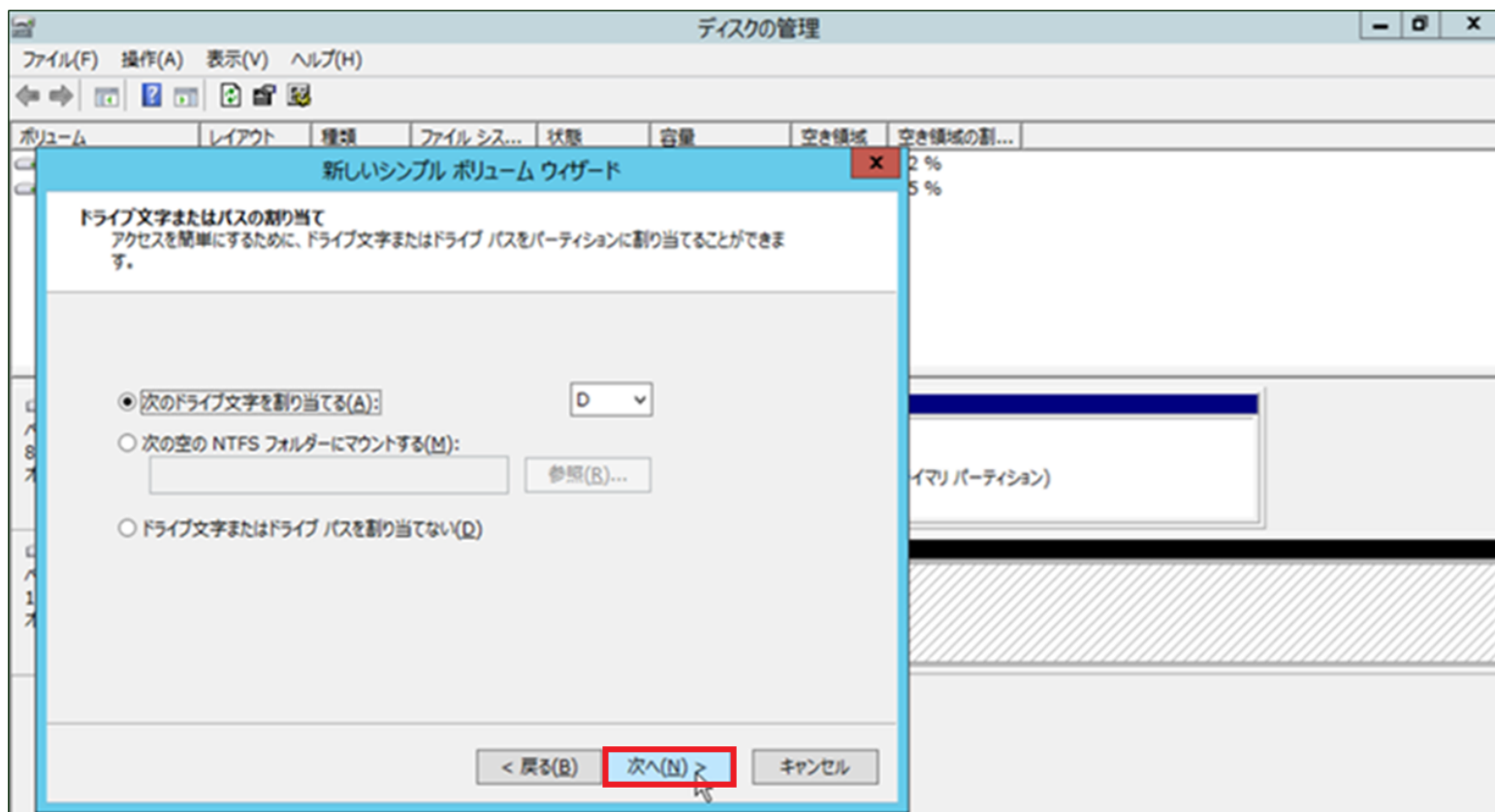
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「シンプルボリューム サイズ」を確認して、「次へ」を押下します。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「次のドライブ文字を割り当てる」でドライブ文字を指定して「次へ」を押下します。

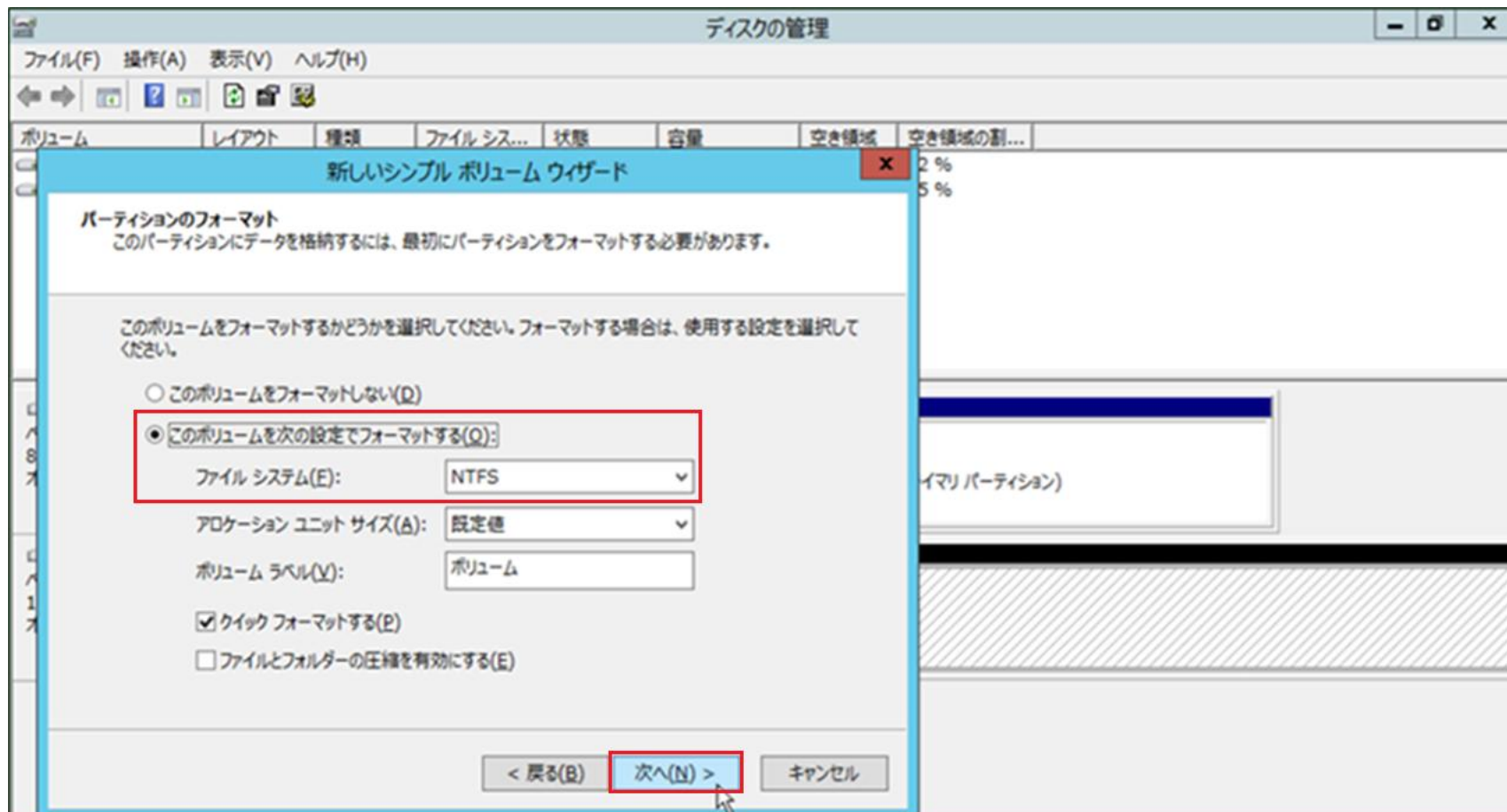


2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

つながろう。驚きを。幸せを。

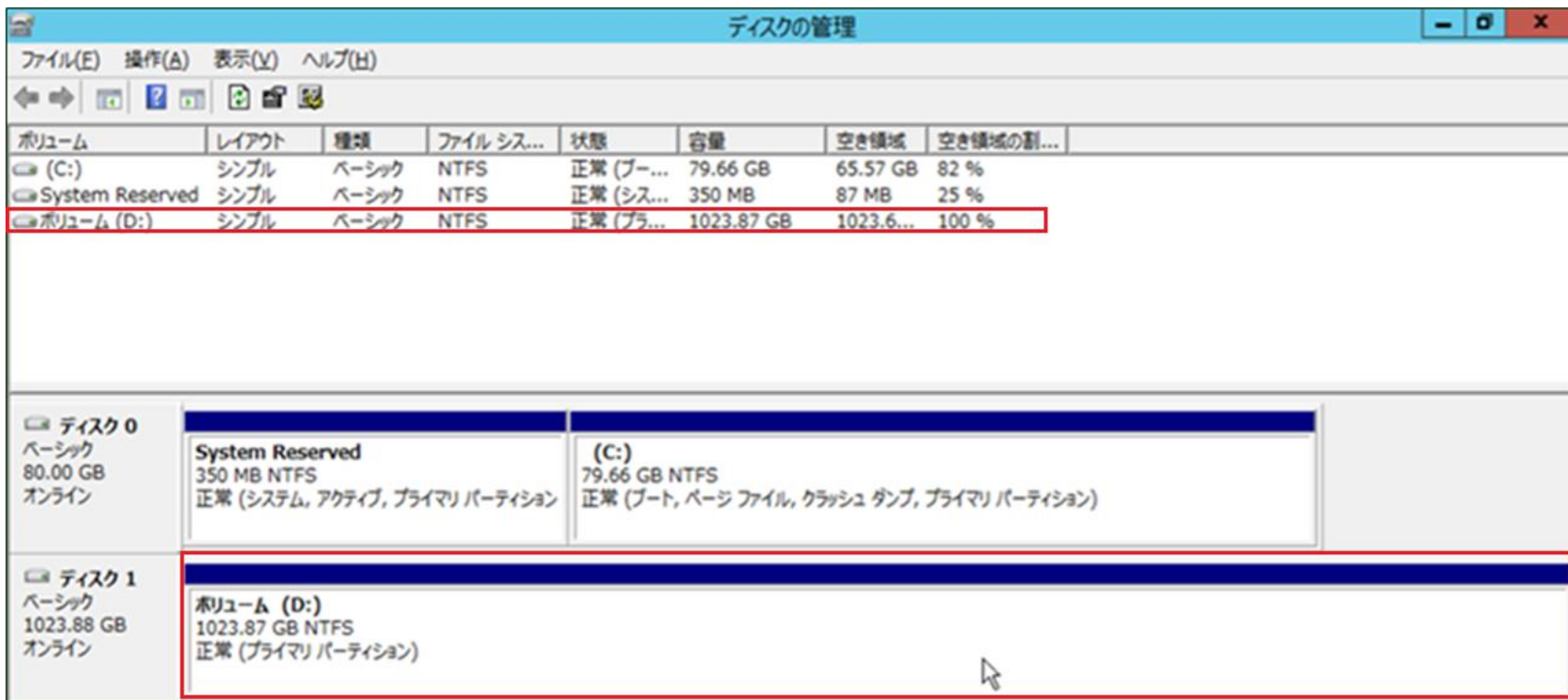
 **docomo Business**

「このボリュームを次の設定でフォーマットする」で任意のファイルシステムを選択し、「次へ」を押下します。
※手順では、NTFSを選択しています。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

一覧にフォーマット済のボリュームが追加された事を確認します。



3. Arcserveの導入

移行元サーバーで以下を実施します。

以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

3. Arcserveの導入

移行先サーバーに、Arcserveをダウンロード・インストールを実施します。

移行先サーバーにログインし、以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

4. バックアップ作業

Windows serverの場合

4. バックアップ作業

移行元サーバに移動し、バックアップデータ作成を行います。

以下ユースケースを参考に手順実施します。

4.6.1. Windows Server（単体型） - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center

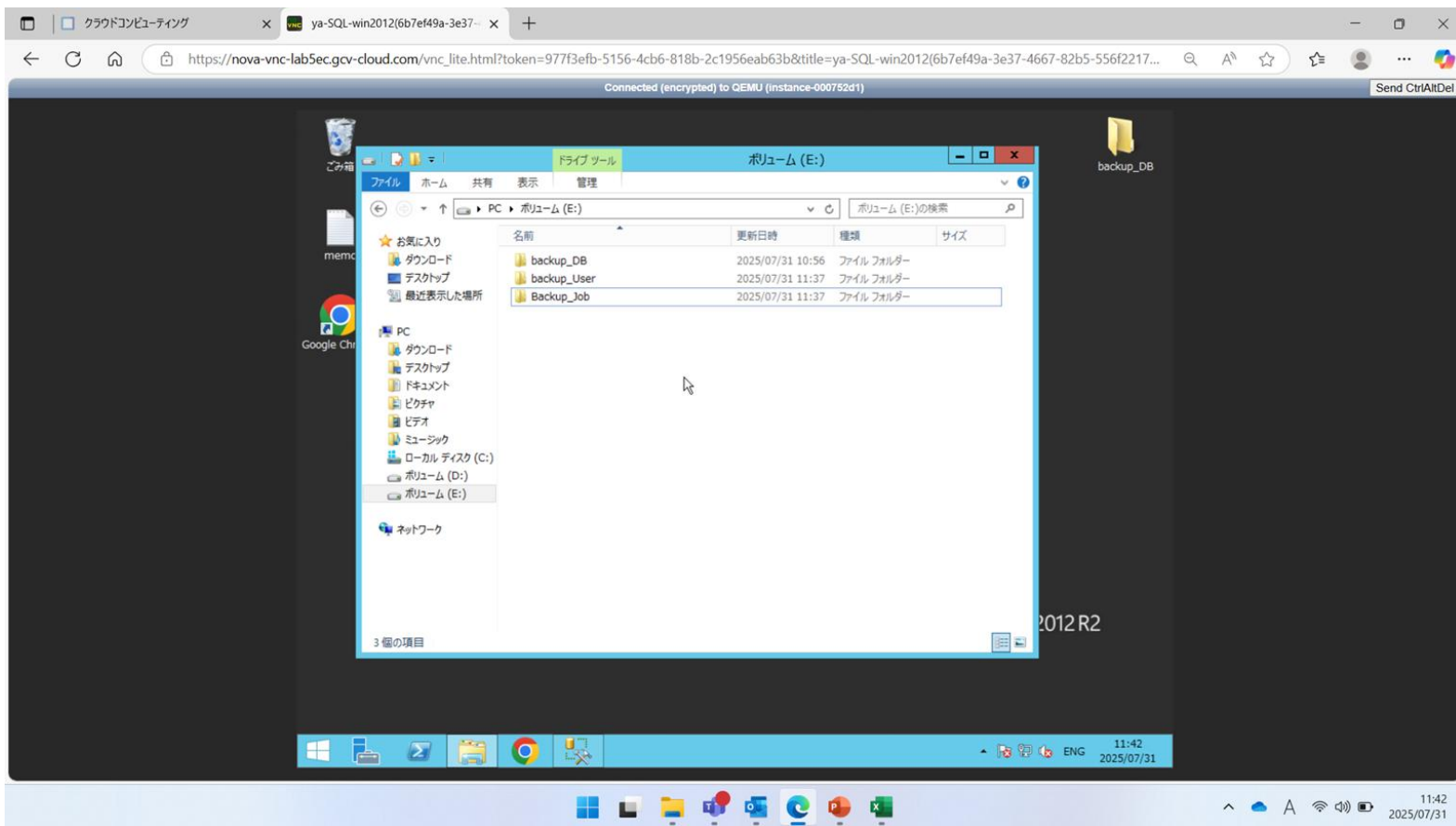
4. バックアップ作業

SQL Serverの場合

4. バックアップ作業

エクスプローラーから先ほど接続したバックアップデータ保存用ボリュームを開きます。
任意の名称で下記のフォルダを作成します。

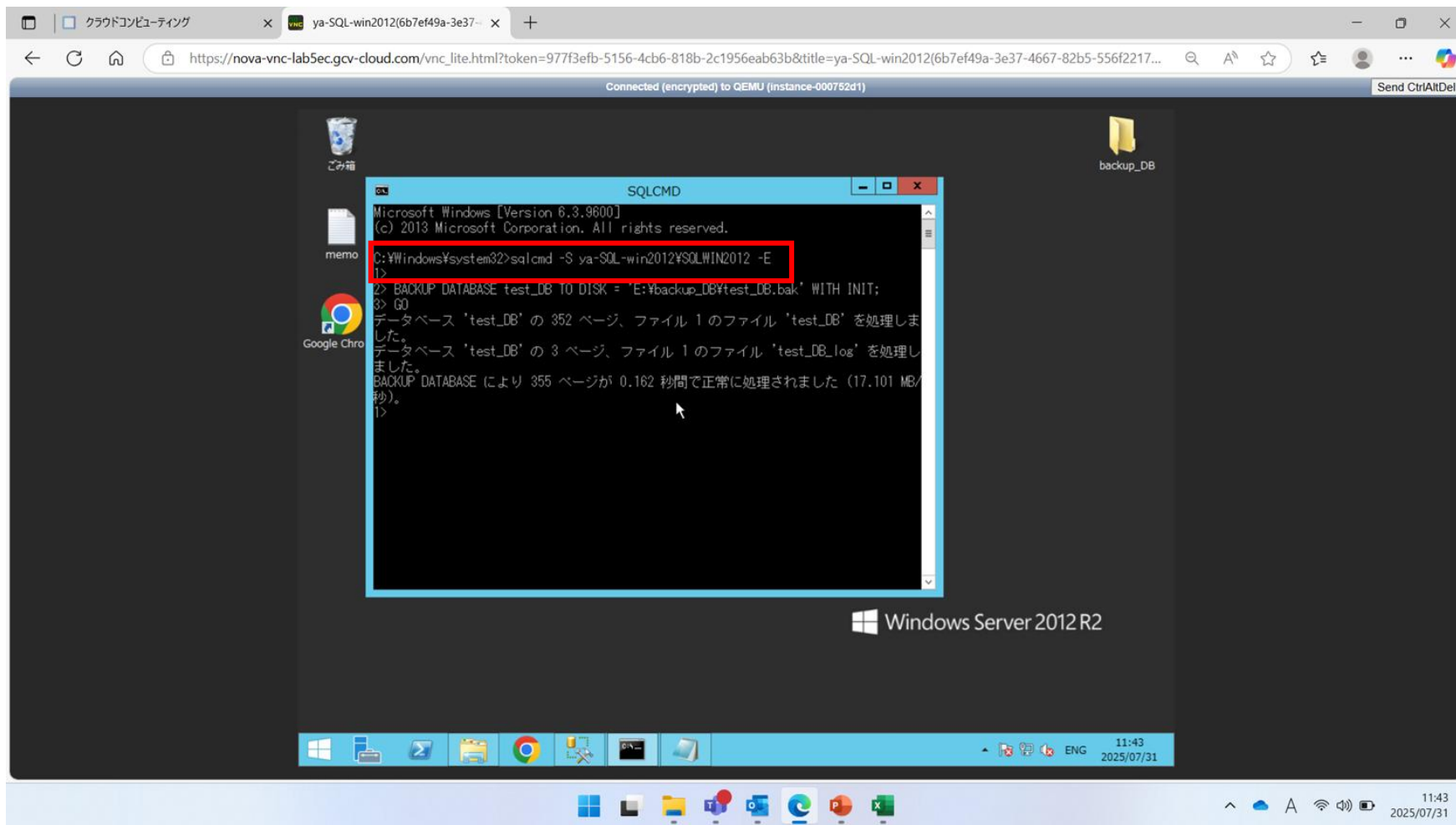
- ・DBのエクスポートデータ保存先
- ・ログイン情報のエクスポートデータ保存先
- ・ジョブのエクスポートデータ保存先



4. バックアップ作業

下記のコマンドを実行して、DBに接続します。

```
sqlcmd -S <サーバー名¥DB名> -E
```

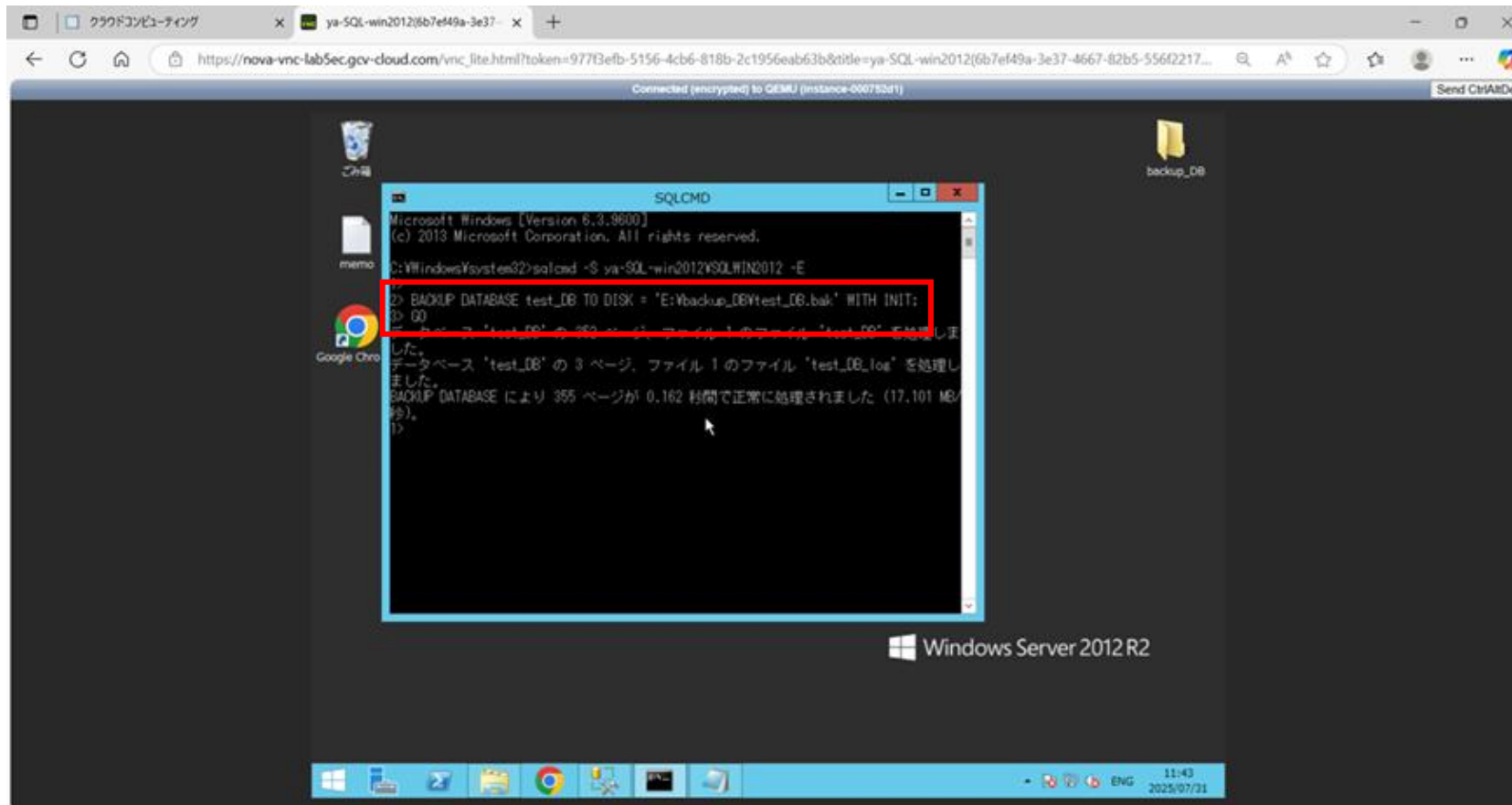


4. バックアップ作業

下記のコマンドを実行して、先ほど作成したフォルダへDBをエクスポートします。

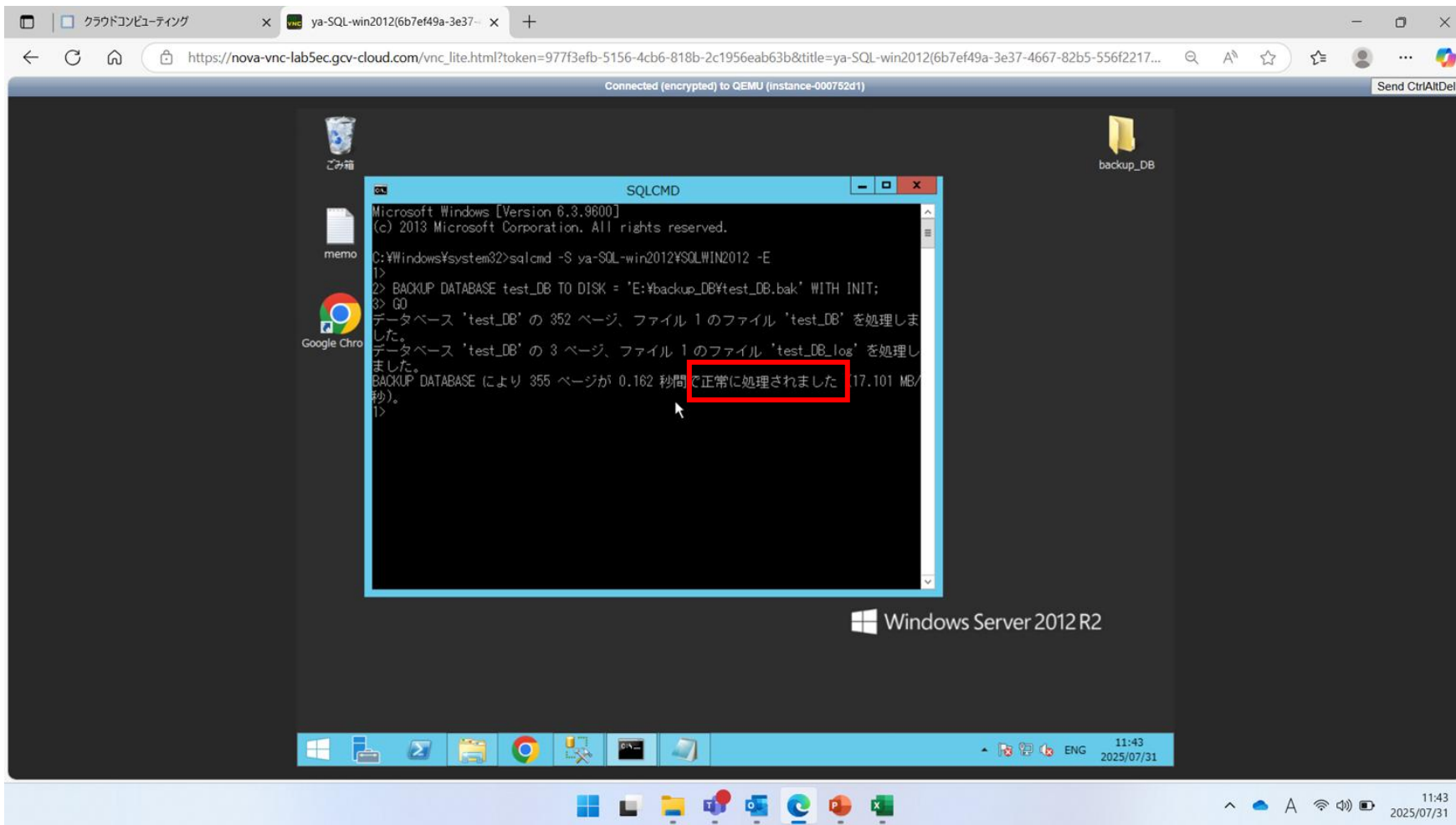
※複数のインスタンス（複数のデータベース）がある場合、データベース毎にコマンド実行してください。

```
BACKUP DATABASE [DB名] TO DISK = '<DBのエクスポートデータ保存先>%DB名.bak' WITH INIT;  
GO
```



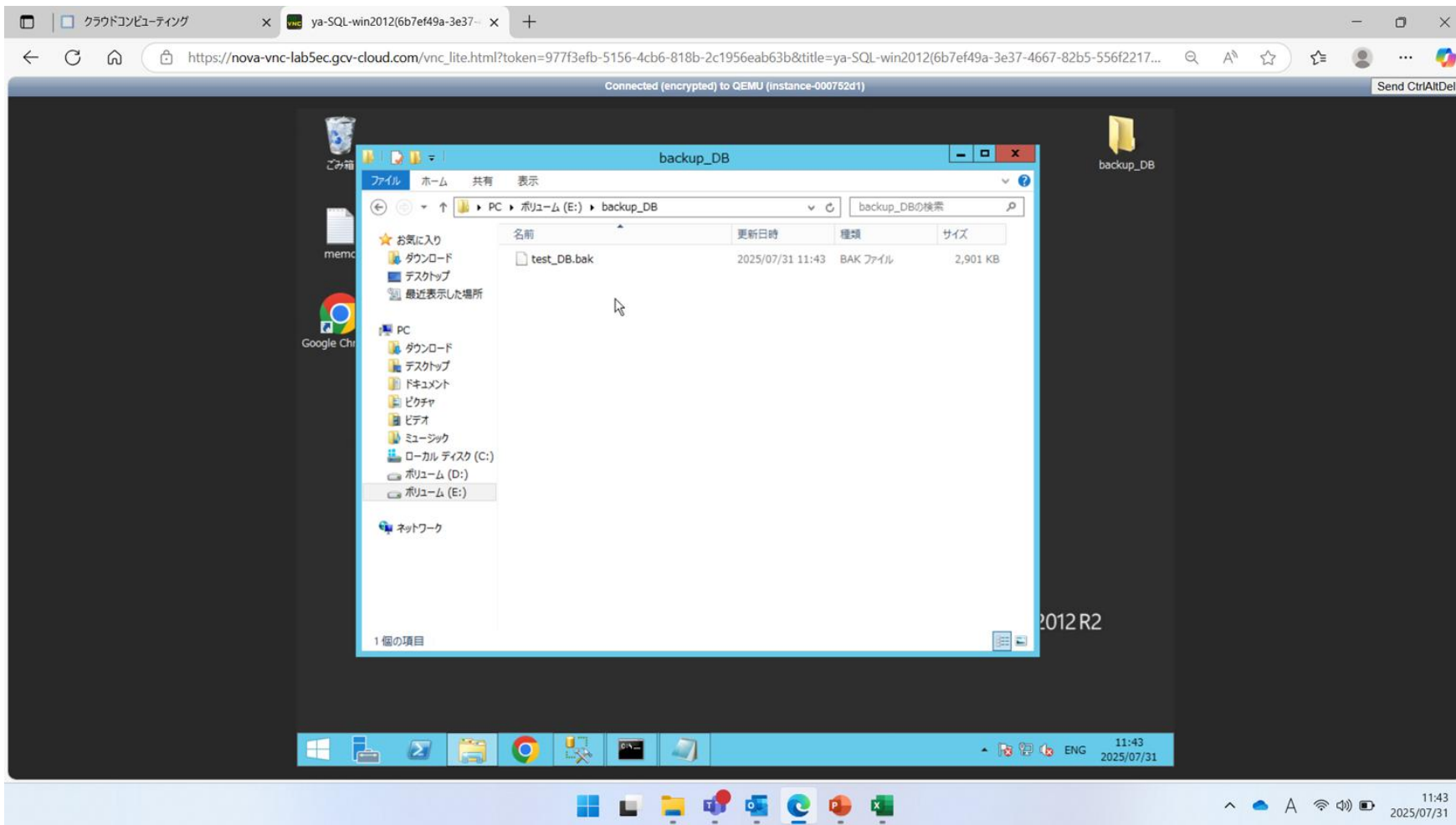
4. バックアップ作業

「正常に処理されました」のメッセージが表示されることを確認します。



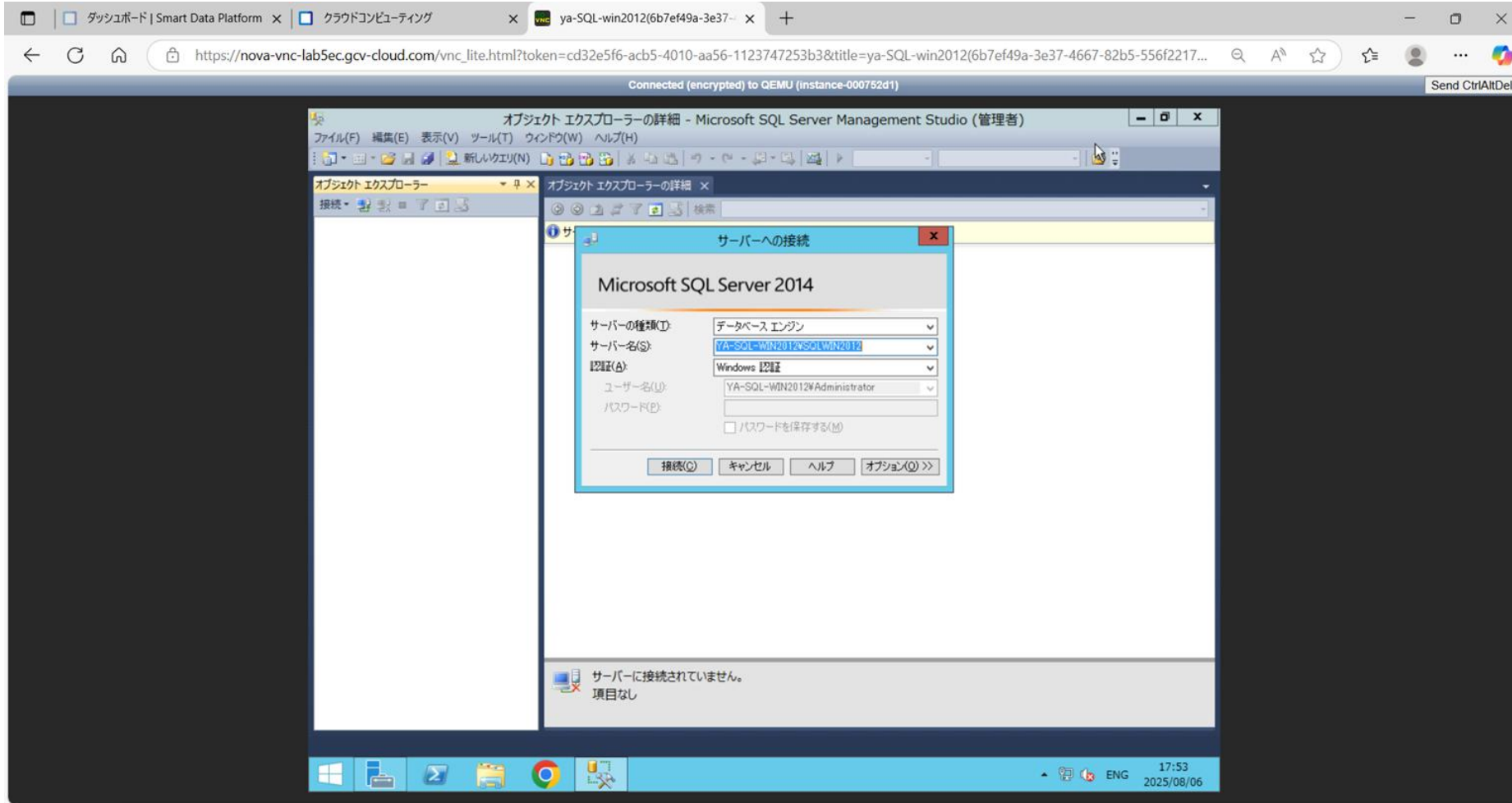
4. バックアップ作業

エクスプローラーからDBのエクスポートデータ保存先フォルダを開き、.bakファイルが保存されていることを確認します。



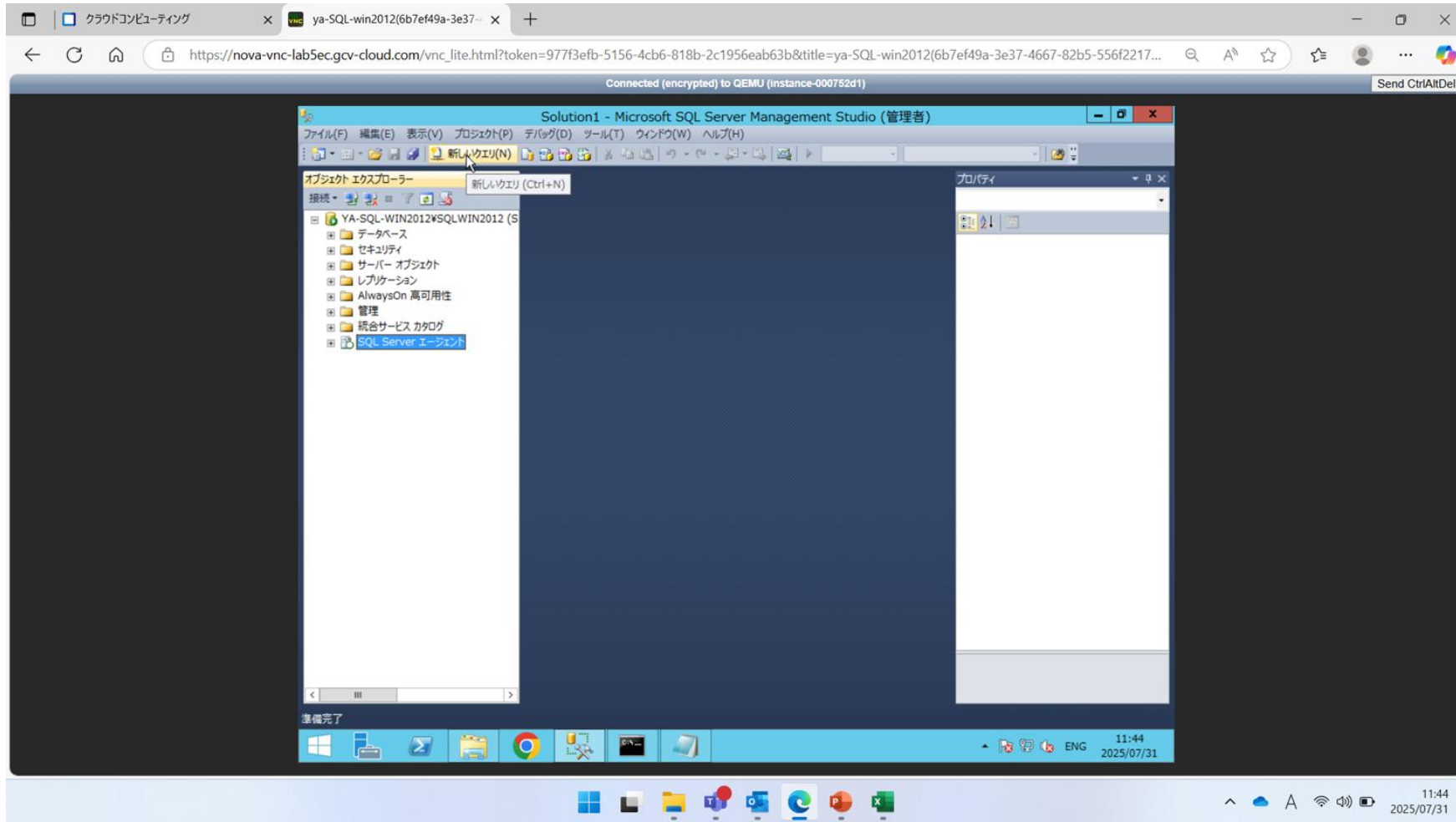
4. バックアップ作業

SQL Server Management Studioを起動し、必要な情報を入力し「接続」を選択する。



4. バックアップ作業

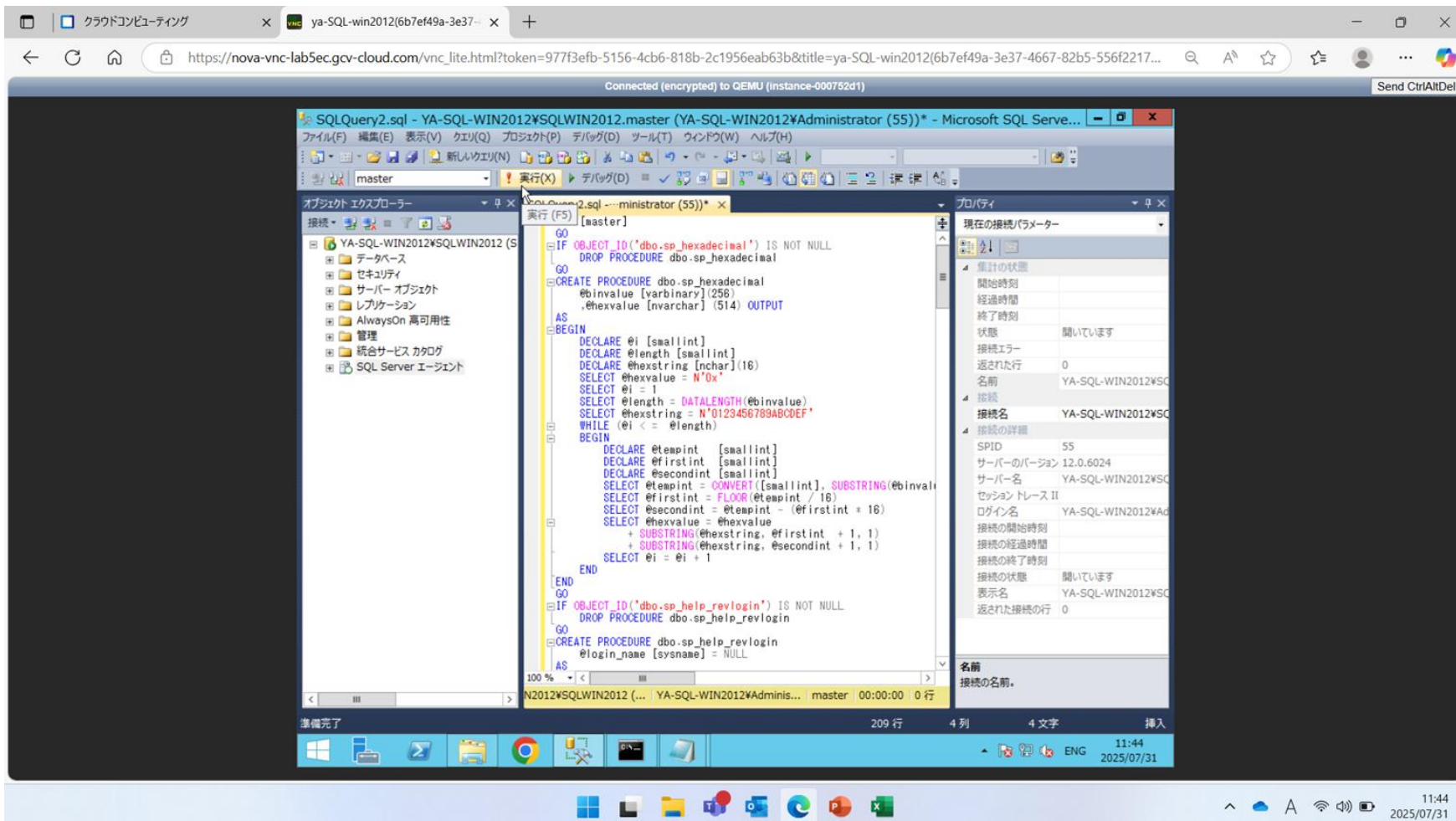
「新しいクエリ」を選択する。



4. バックアップ作業

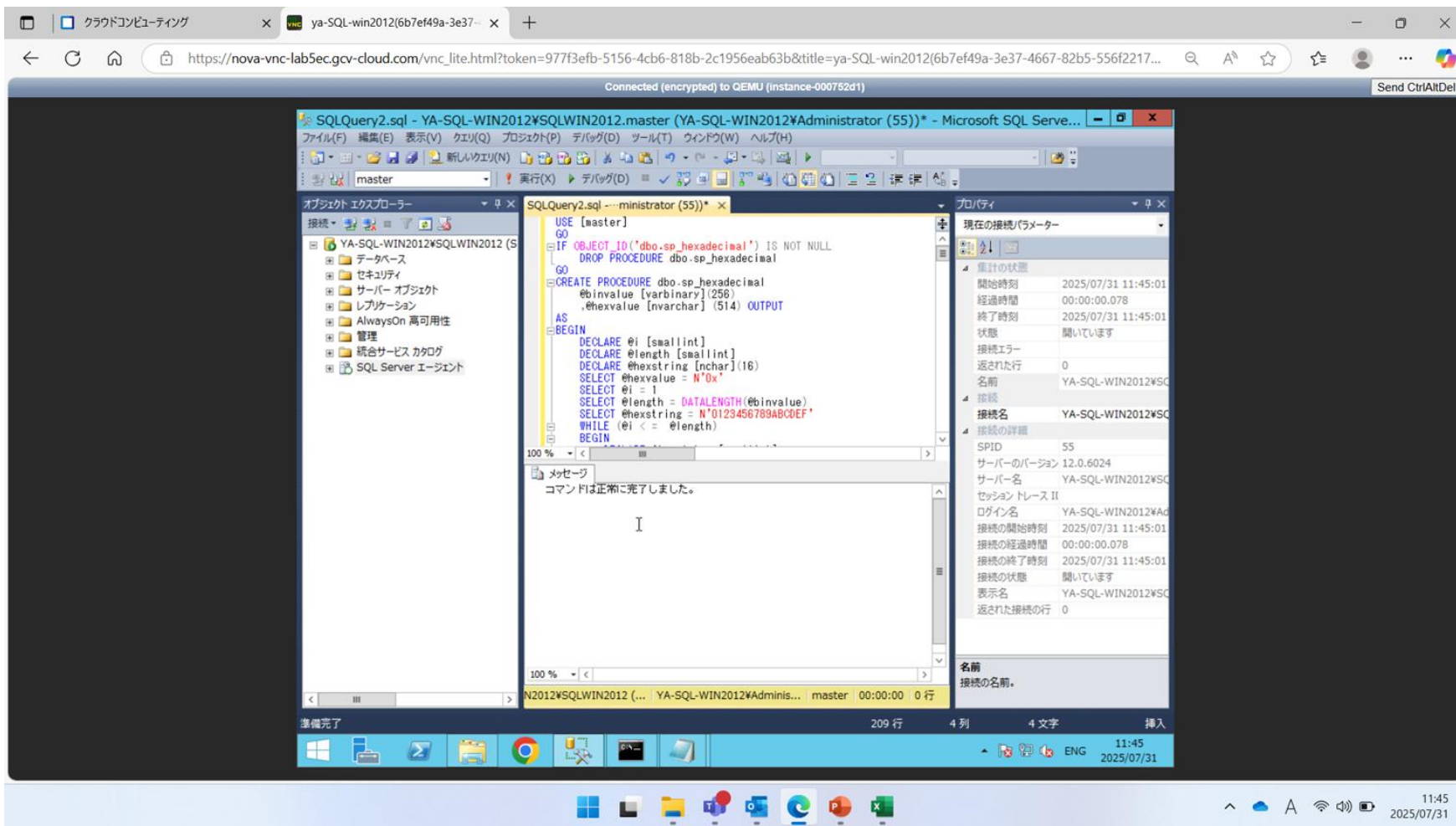
下記のサイトからスクリプトをコピーし貼り付け、「実行」を選択する。

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/sql/database-engine/security/transfer-logins-passwords-between-instances#method-2-transfer-logins-and-passwords-to-the-destination-server-server-b-using-scripts-generated-on-the-source-server-server-a>



4. バックアップ作業

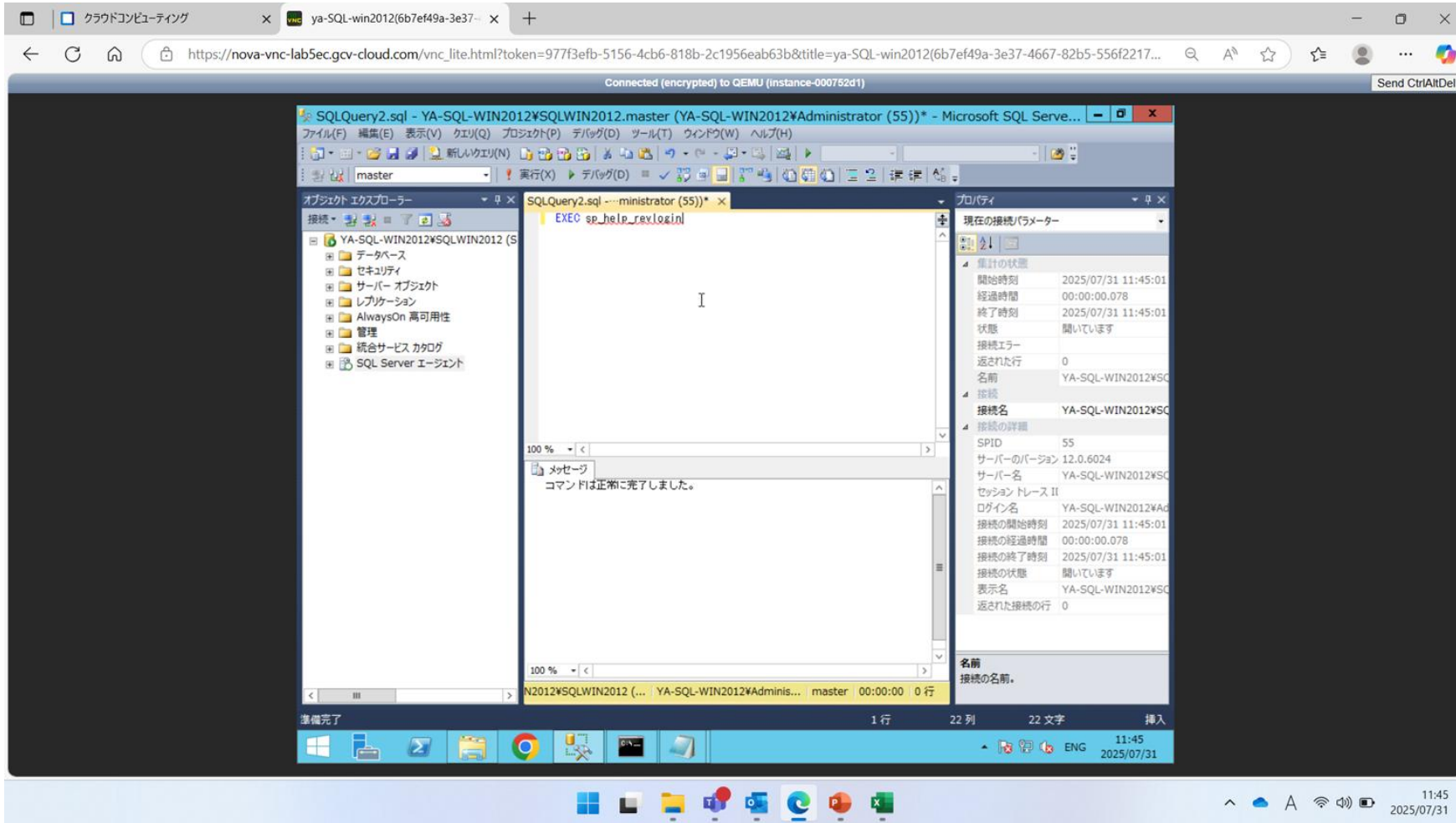
「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。



4. バックアップ作業

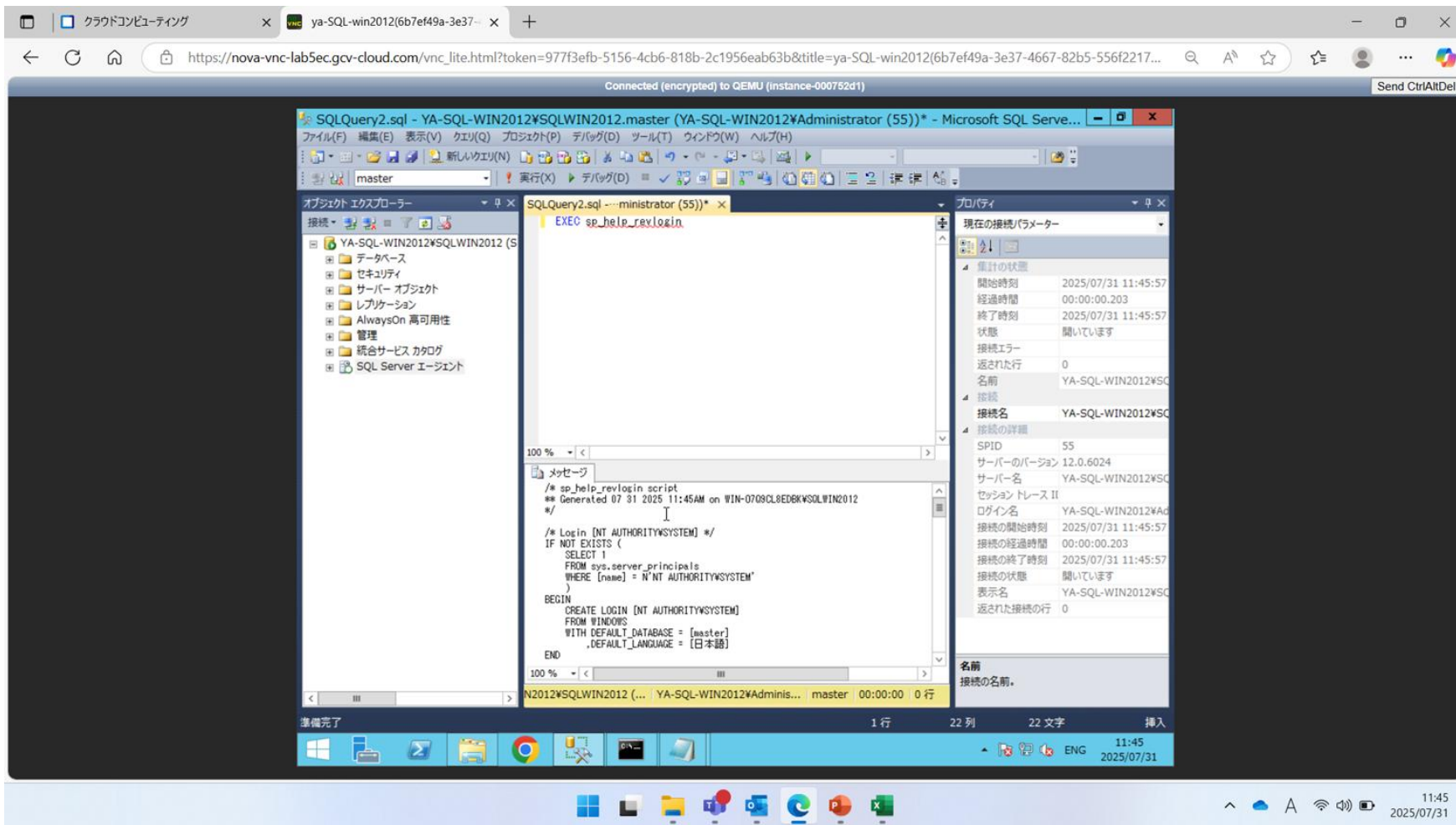
入力していた内容を削除し、下記のコマンドを入力する。

EXEC sp_help_revlogin



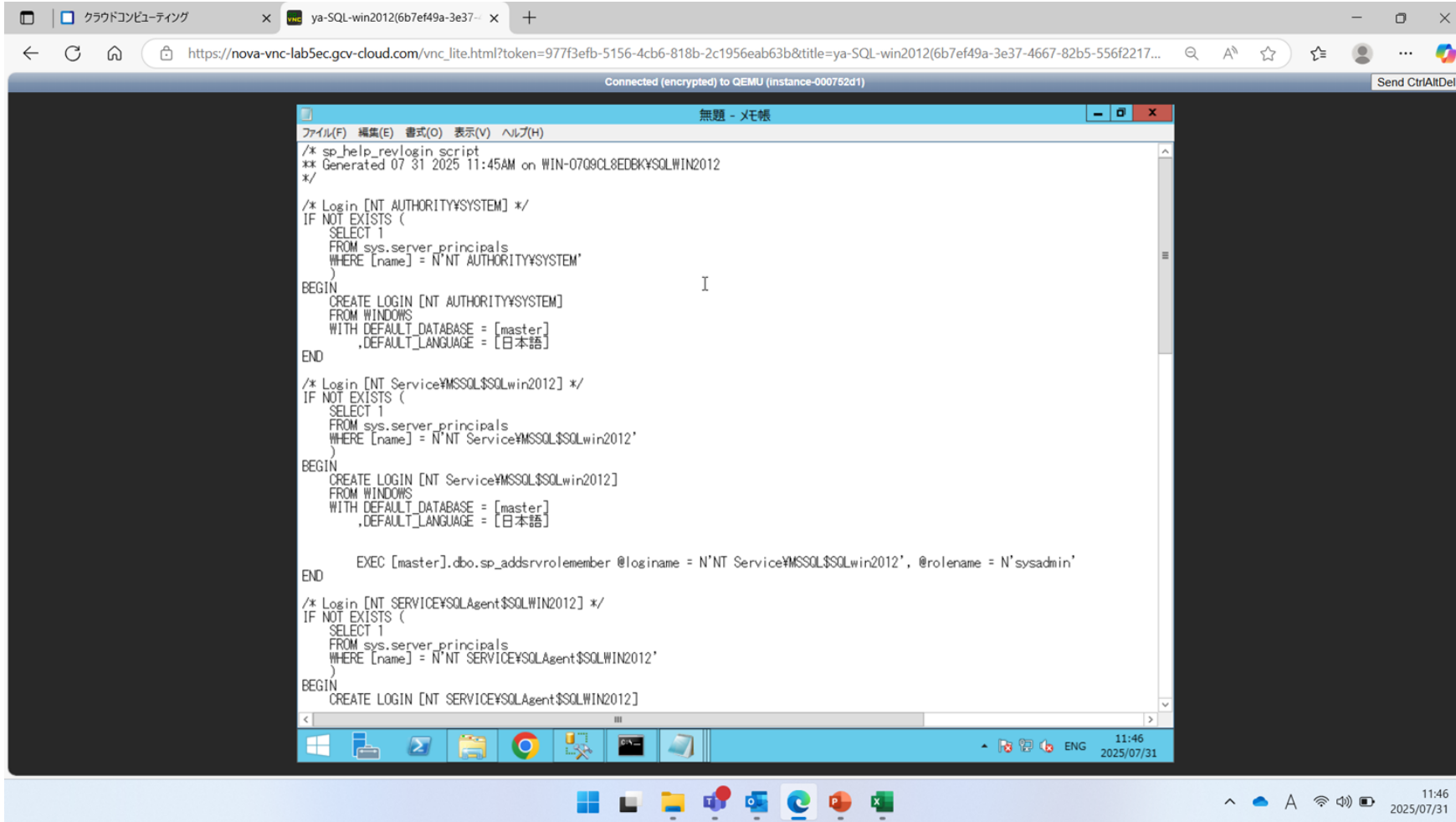
4. バックアップ作業

ログイン情報移行用スクリプトが出力されることを確認する。



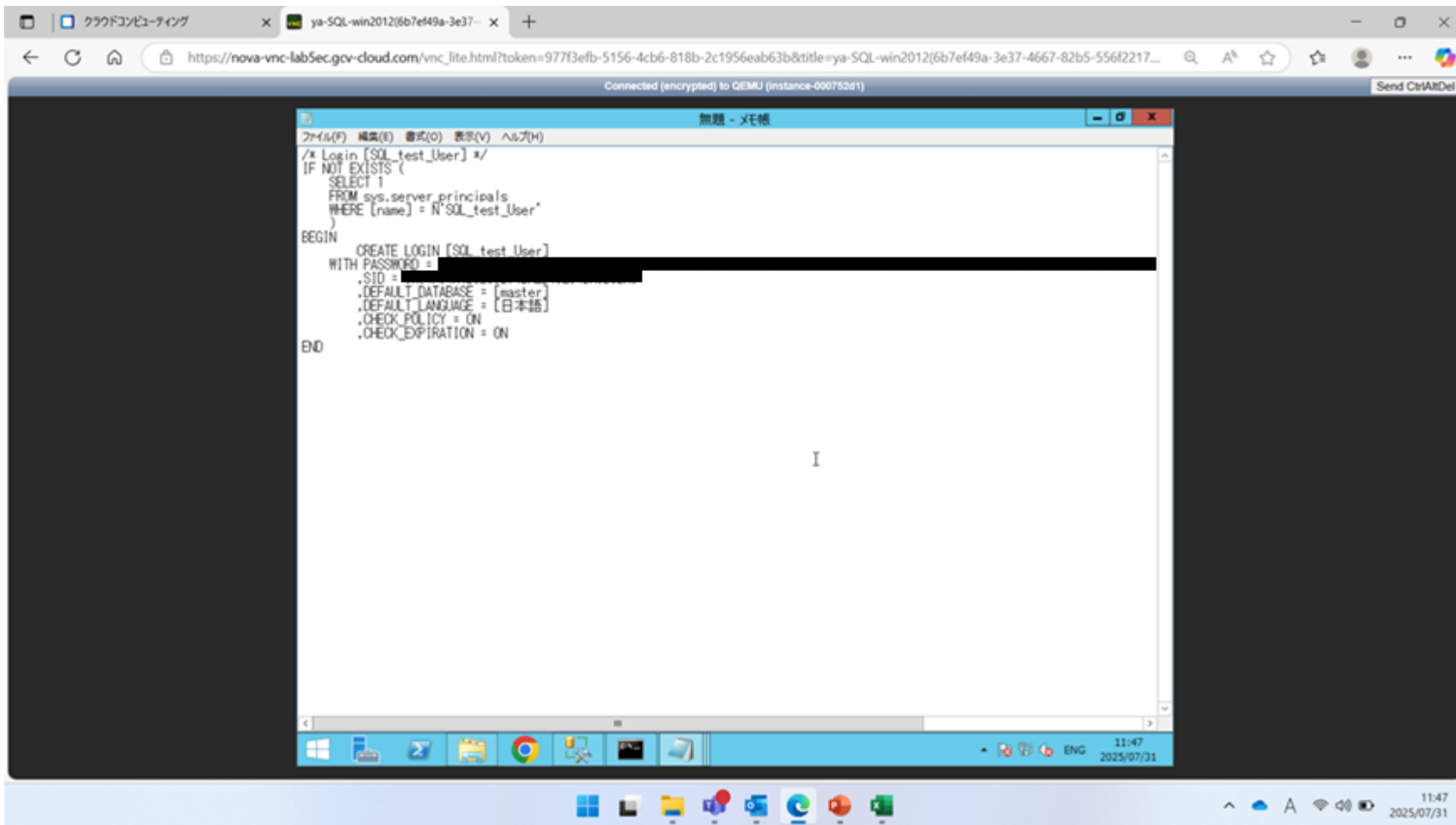
4. バックアップ作業

メモ帳を開き、出力された内容を全て張り付ける。



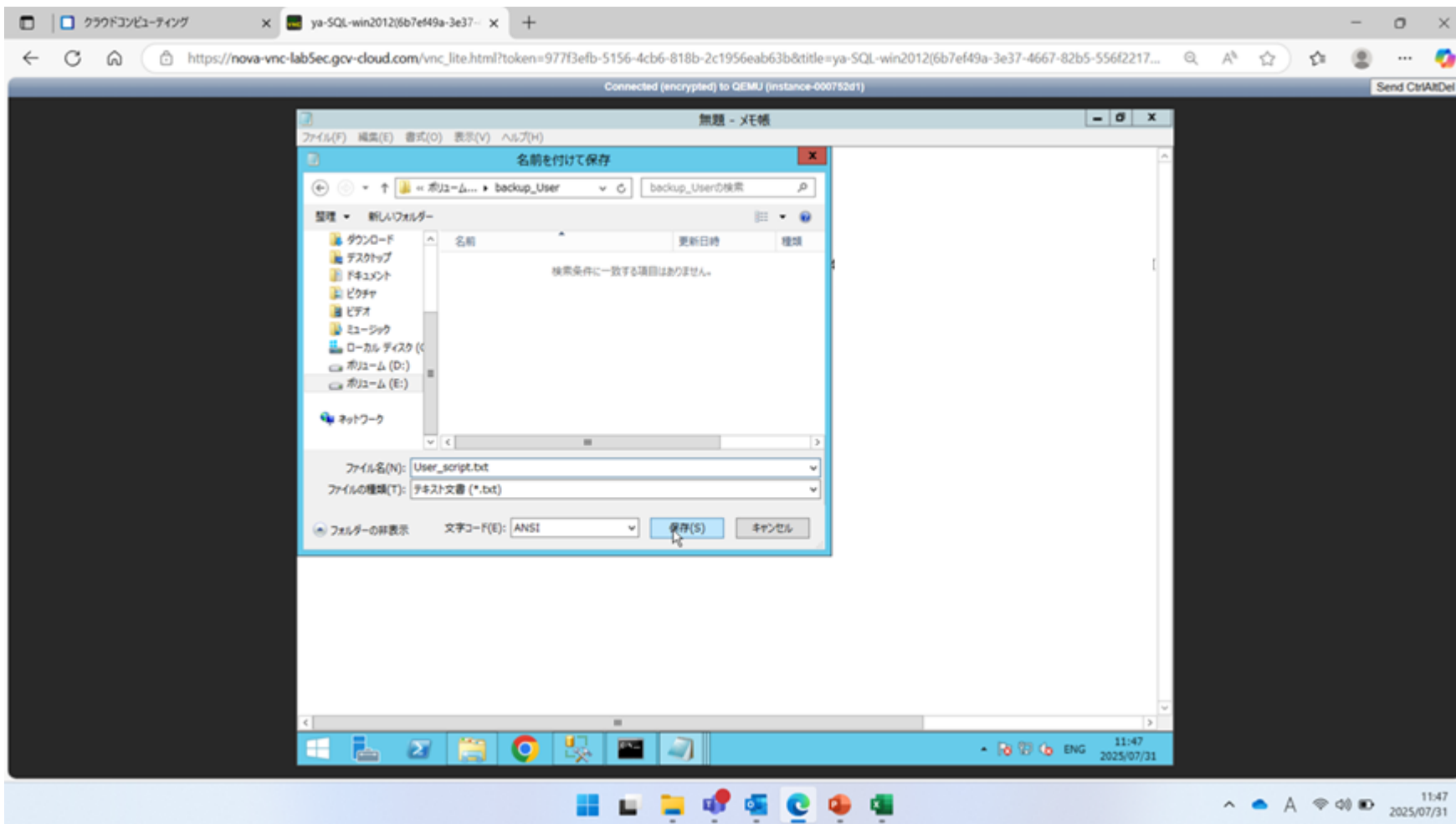
4. バックアップ作業

移行するログイン情報のみを残し、他のログイン情報は削除する。



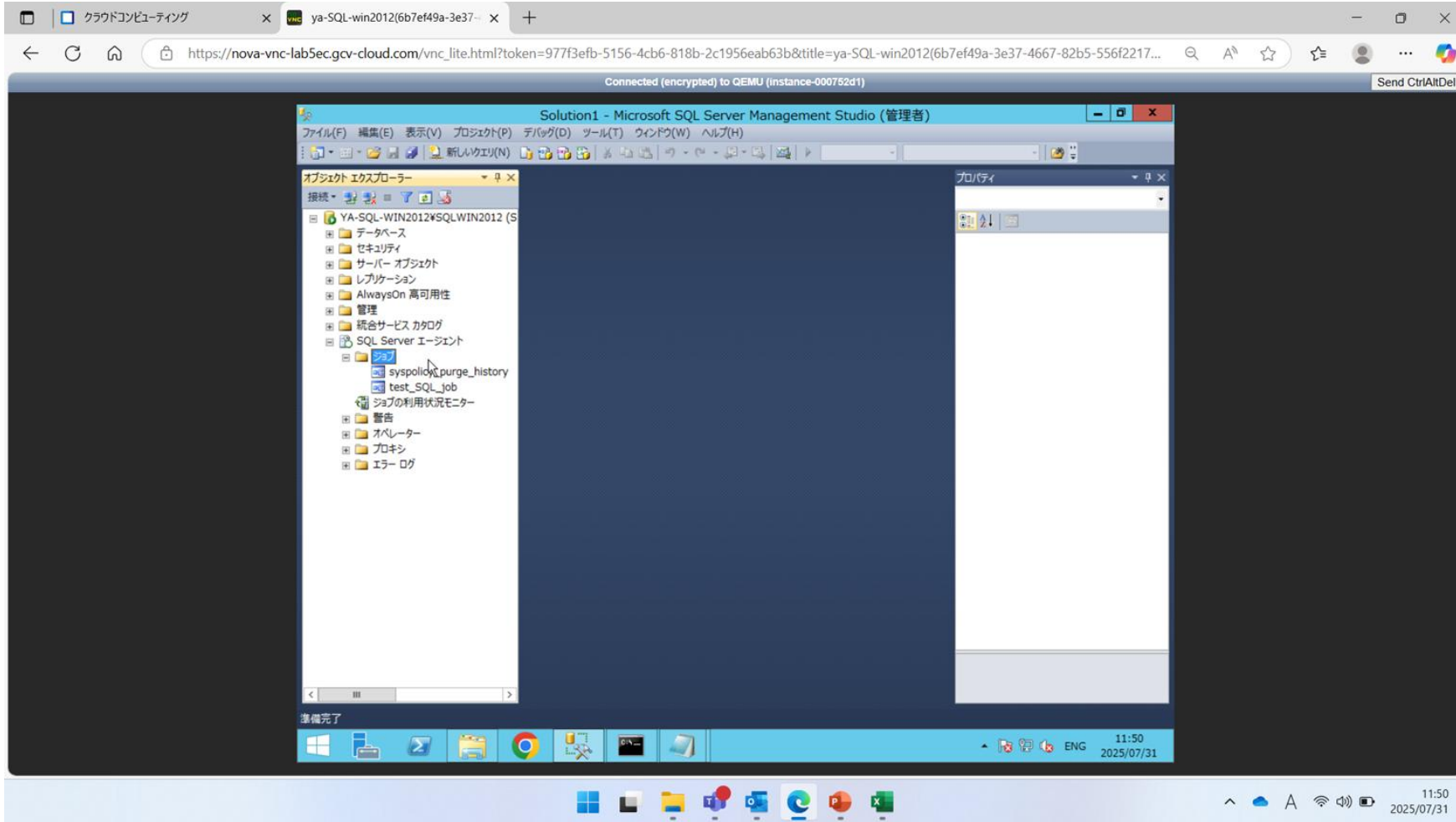
4. バックアップ作業

「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択する。
ログイン情報のエクスポートデータ保存先フォルダへ移動し、任意の名称で保存します。



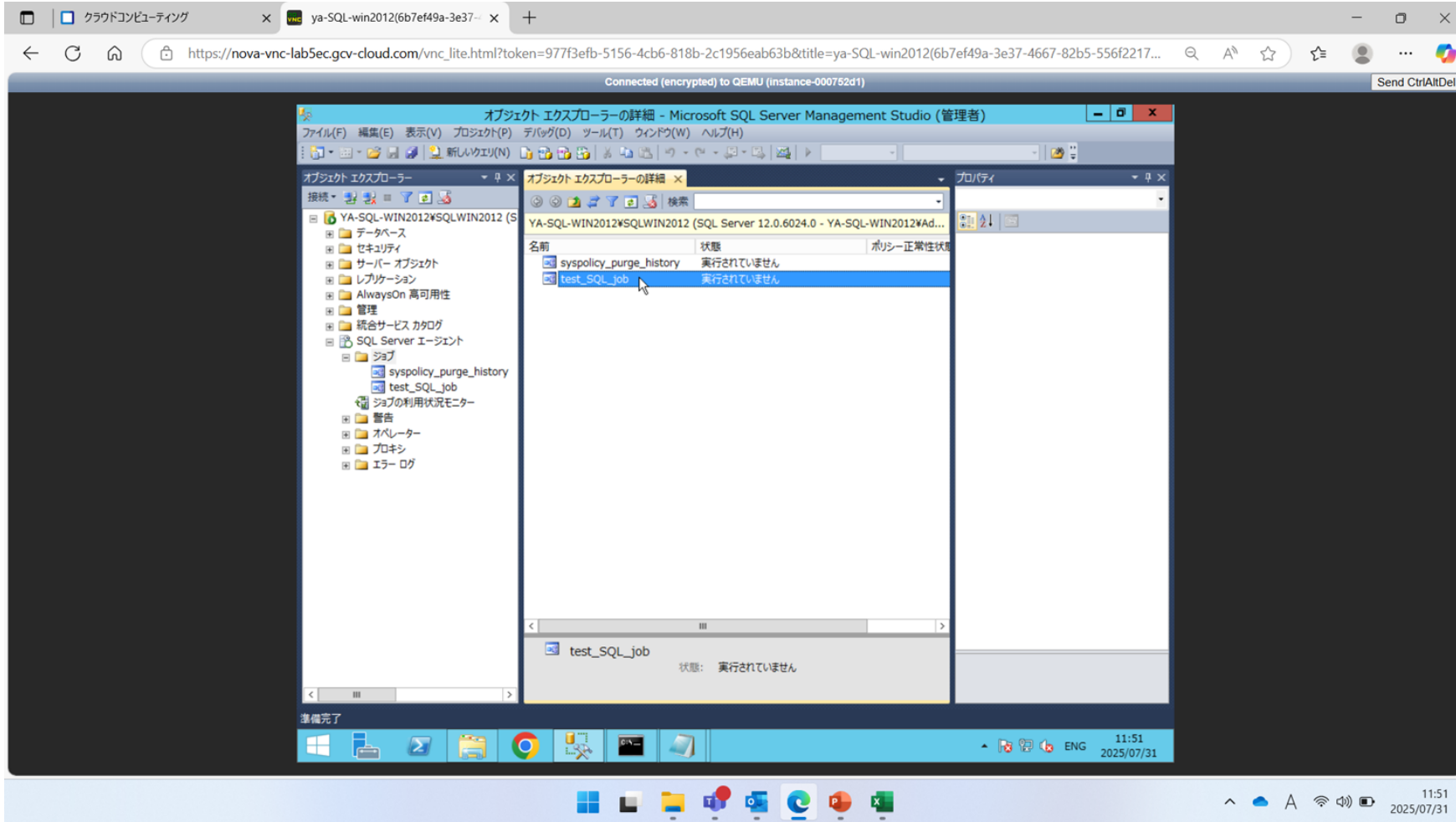
4. バックアップ作業

左側のカラムからジョブを選択した状態で「F7」を押下する。



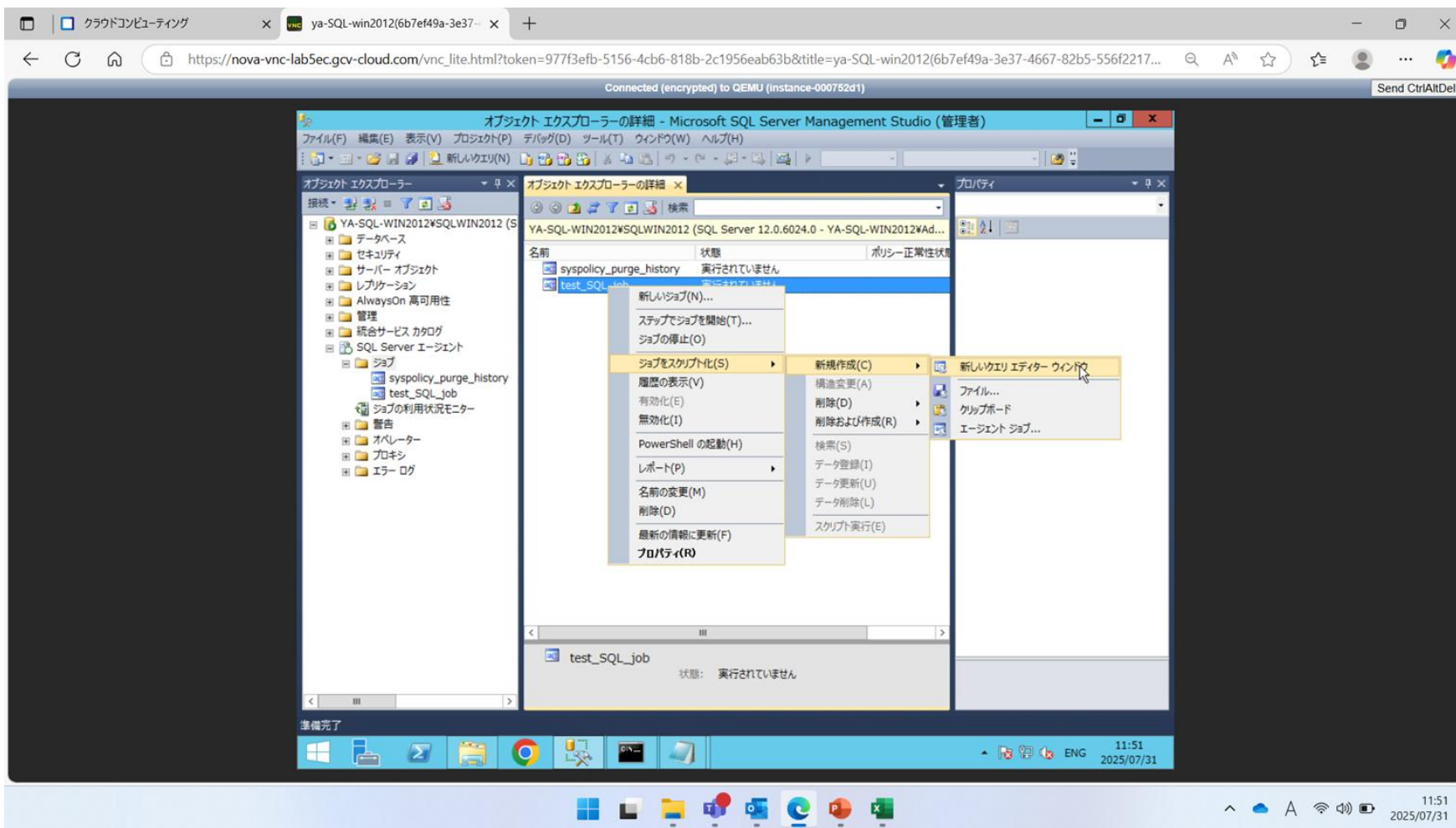
4. バックアップ作業

ジョブの一覧が表示されるため、移行したいジョブを選択する。(複数選択可)



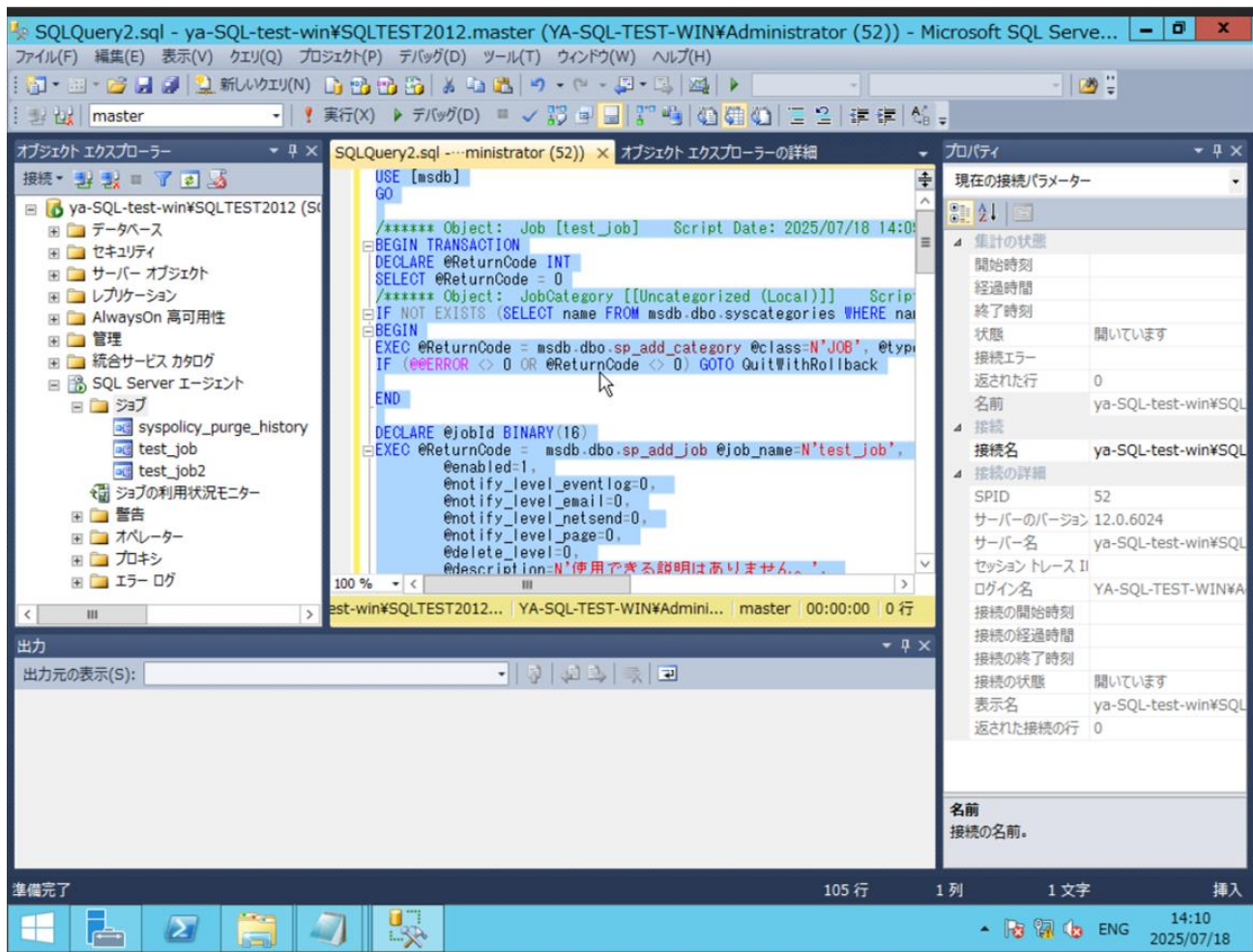
4. バックアップ作業

選択したジョブを右クリックし、「ジョブをスクリプト化」→「新規作成」→「新しいクエリエディター ウィンドウ」を選択する。



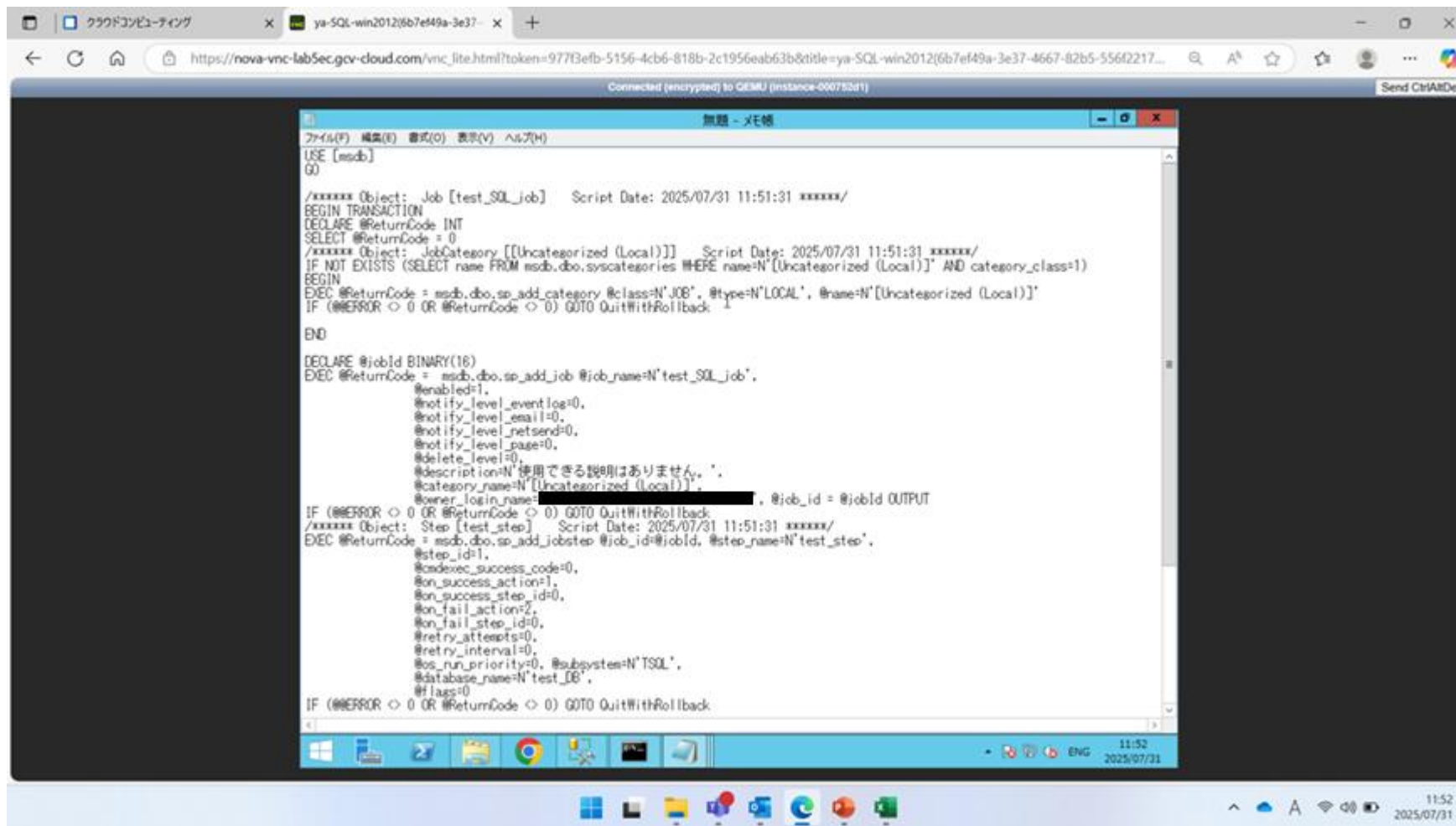
4. バックアップ作業

スクリプトが出力されるため、全て選択しコピーする。



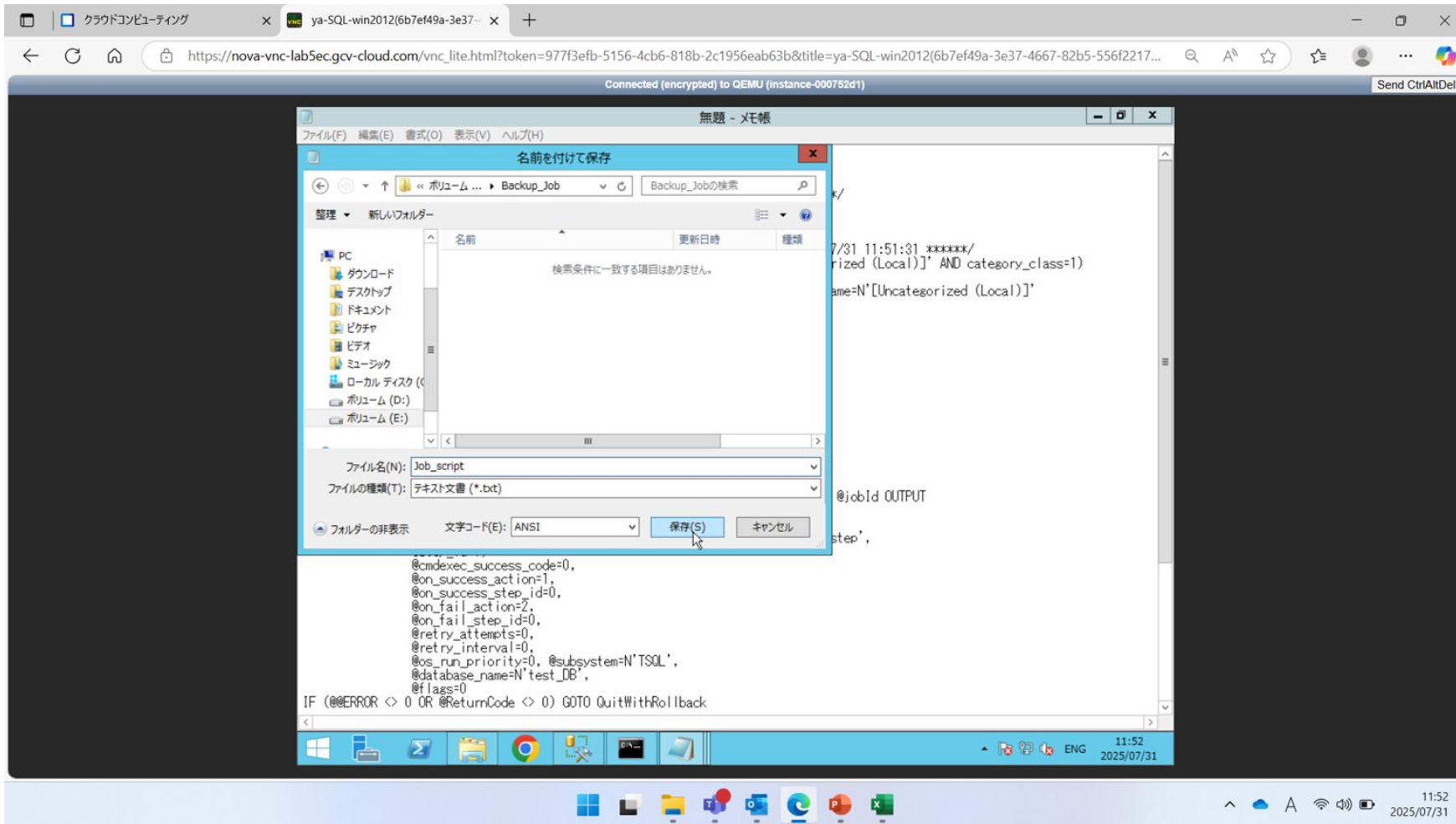
4. バックアップ作業

メモ帳を開き、出力された内容を全て張り付けます。



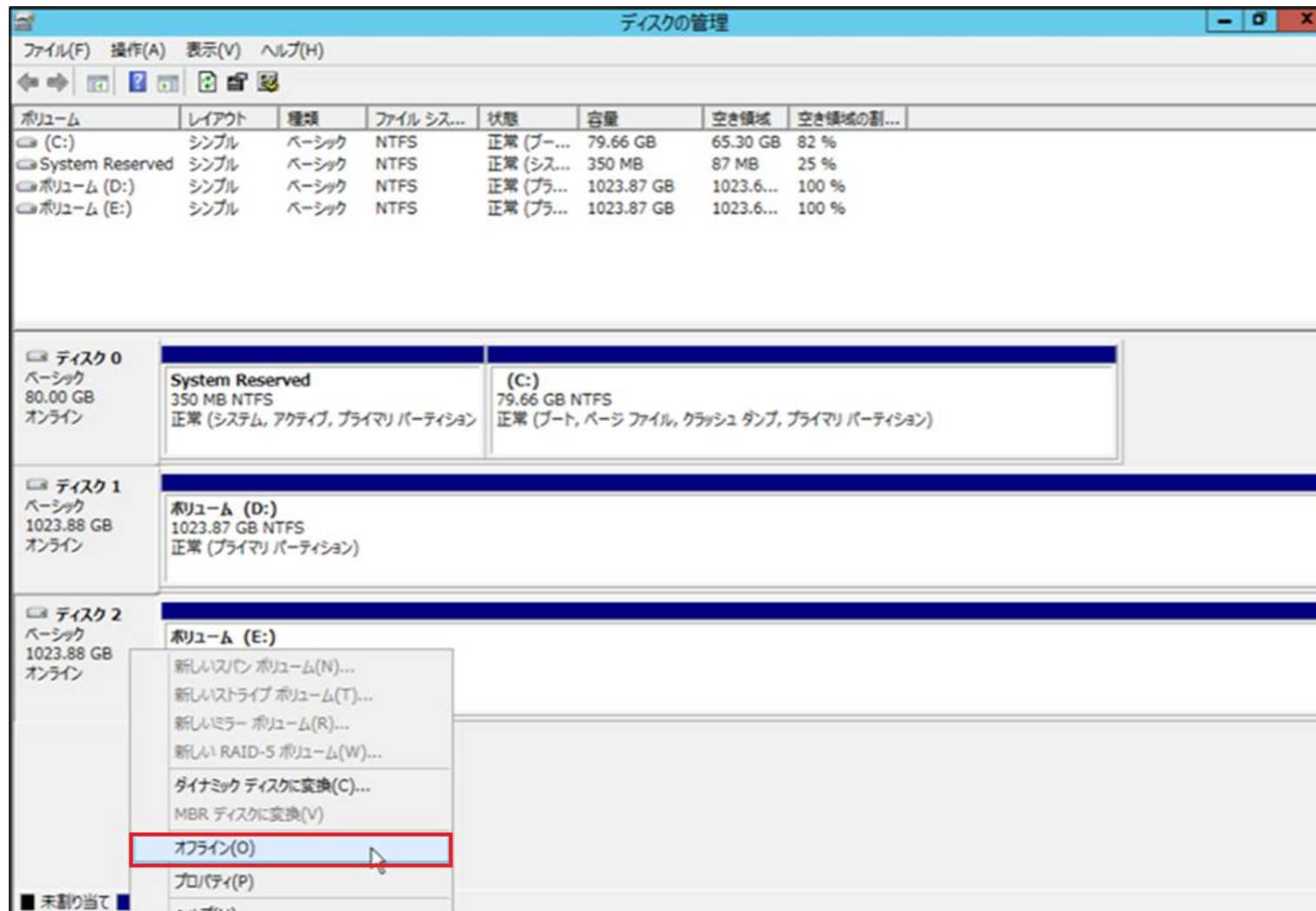
4. バックアップ作業

「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択します。
ジョブのエクスポートデータ保存先フォルダへ移動し、任意の名称で保存します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

移行元サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

※「接続の管理」からボリュームの切断（デタッチ）を行います。下記URL事象が発生する可能性があるため、デタッチ実施の際は、仮想サーバーインスタンスを停止した状態で実施してください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

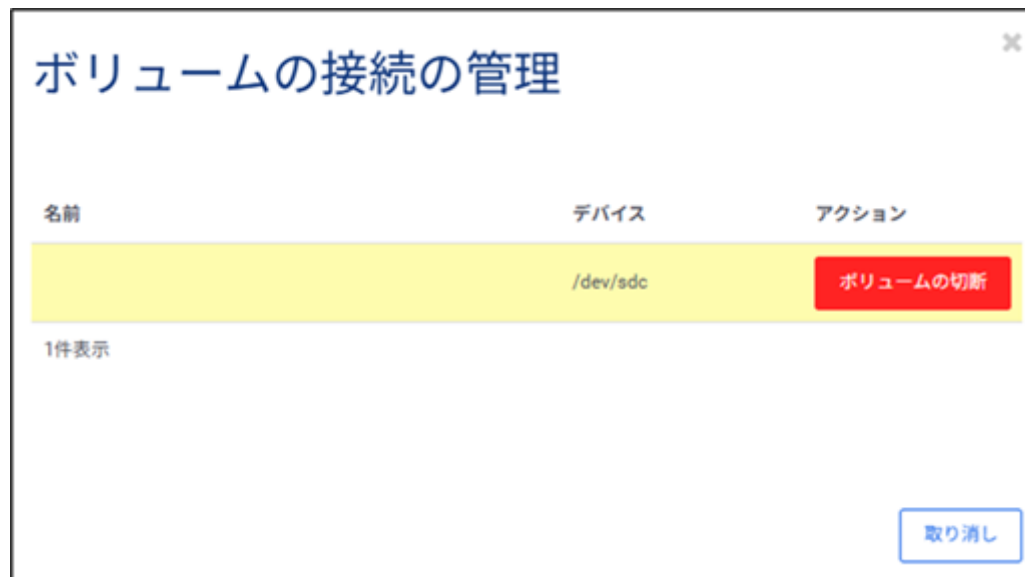
The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) management interface. The left sidebar contains navigation links for Tenant Information, Virtual Servers, Server Instances, Instances, Volumes, Image Management, Physical Servers, Hypervisors, Storage, Cloud/Server Local Network, Interconnection/Communication Services, Cloud/Server Network Security, and Cloud/Server Network Security. The main area displays a table of volumes.

名前	説明	ゾーン/グループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
☐	-	zone1-group	100GB	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
☐	-	zone1-group	80GB	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
☐	-	zone1-group	80GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
☐	-	zone1-group	1024GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
☐	-	zone1-group	1024GB	Type-B	/dev/sdaに接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
☐	-	zone1-group	1024GB	Type-B	/dev/sdaに接続中	いいえ	使用中	接続の管理
☐	-	zone1-group	1024GB	Type-B	/dev/sdaに接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断
☐	-	zone1-group	1024GB	Type-B	/dev/sdaに接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断

The '接続の管理' (Manage Connection) button is highlighted with a red box in the row where the status is '使用中' (In Use).

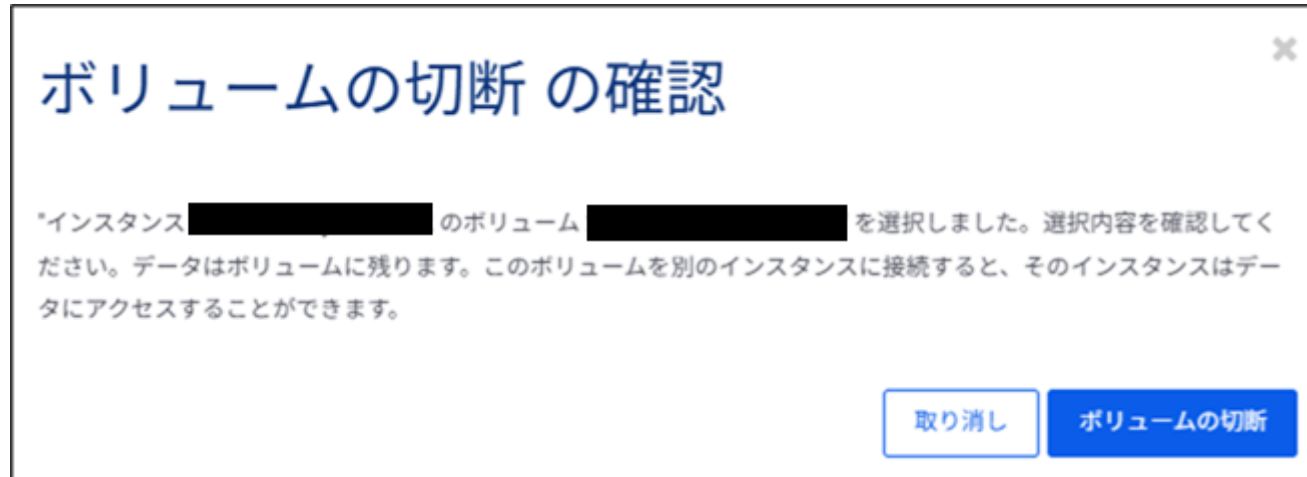
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの切断の確認」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。

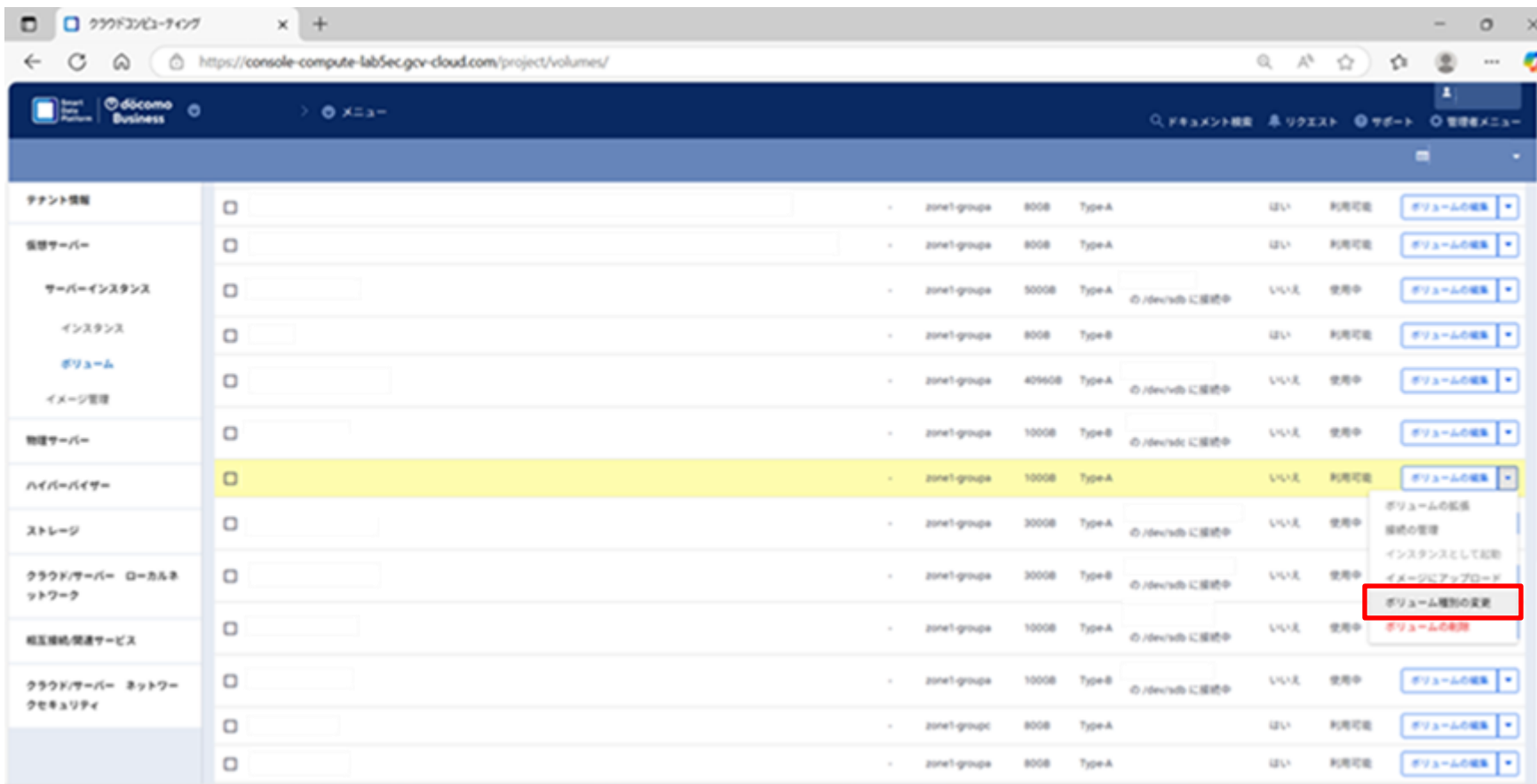


5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

先ほど作成したバックアップデータ保存用ボリュームを選択し、アクションリストから「ボリューム種別の変更」を選択します。



テナント情報	ボリューム名	ゾーン	サイズ	タイプ	接続先	ステータス	操作
テナント情報		zone1-groupa	800B	Type-A		はい 利用可能	ボリュームの拡張
仮想サーバー		zone1-groupa	800B	Type-A		はい 利用可能	ボリュームの拡張
サーバーインスタンス		zone1-groupa	5000B	Type-A	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
インスタンス		zone1-groupa	800B	Type-B		はい 利用可能	ボリュームの拡張
ボリューム		zone1-groupa	40960B	Type-A	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
イメージ管理		zone1-groupa	1000B	Type-B	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
物理サーバー		zone1-groupa	1000B	Type-A		いいえ 利用可能	ボリュームの拡張
ハイパーバイザー		zone1-groupa	1000B	Type-A		いいえ 利用可能	ボリュームの拡張
ストレージ		zone1-groupa	3000B	Type-A	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
クラウド/サーバー ローカルネットワーク		zone1-groupa	3000B	Type-B	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
相互接続/関連サービス		zone1-groupa	1000B	Type-A	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
クラウド/サーバー ネットワークセキュリティ		zone1-groupa	1000B	Type-B	の /dev/vdb に接続中	いいえ 使用中	ボリュームの拡張
		zone1-groupc	800B	Type-A		はい 利用可能	ボリュームの拡張
		zone1-groupa	800B	Type-A		はい 利用可能	ボリュームの拡張

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

ボリューム種別がType-Bになっていることを確認し、「ボリューム種別の変更」を選択します。

ボリューム種別の変更

ボリューム種別

Type-B

☐ ドライランモードを有効にする

取り消し

ボリューム種別の変更

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

バックアップデータ保存用ボリュームのタイプが“Type-B”になっていることを確認します。

クワッドコンピューティング

クワッドコンピューティング

+

https://console-compute-lab5ec.gcv-cloud.com/project/volumes/

NTT docomo Business

メニュー

ドキュメント検索

リクエスト

サポート

管理者メニュー

テナント情報

仮想サーバー

サーバーインスタンス

インスタンス

ボリューム

イメージ管理

物理サーバー

ハイパーバイザー

ストレージ

クラウド/サーバー ローカルネットワーク

☐

-

zone1-group

1000B

Type-A

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

800B

Type-A

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

800B

Type-A

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

3000B

Type-A

の /dev/vdb に接続中

いいえ

使用中

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

800B

Type-B

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

40960B

Type-A

の /dev/vdb に接続中

いいえ

使用中

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

1000B

Type-B

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

1000B

Type-B

はい

利用可能

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

3000B

Type-A

の /dev/vdb に接続中

いいえ

使用中

ボリュームの編集

☐

-

zone1-group

3000B

Type-B

の /dev/vdb に接続中

いいえ

使用中

ボリュームの編集

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

次に、バックアップデータ保存用ボリュームを移行先サーバーに接続します。
以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参考に実施します。

[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

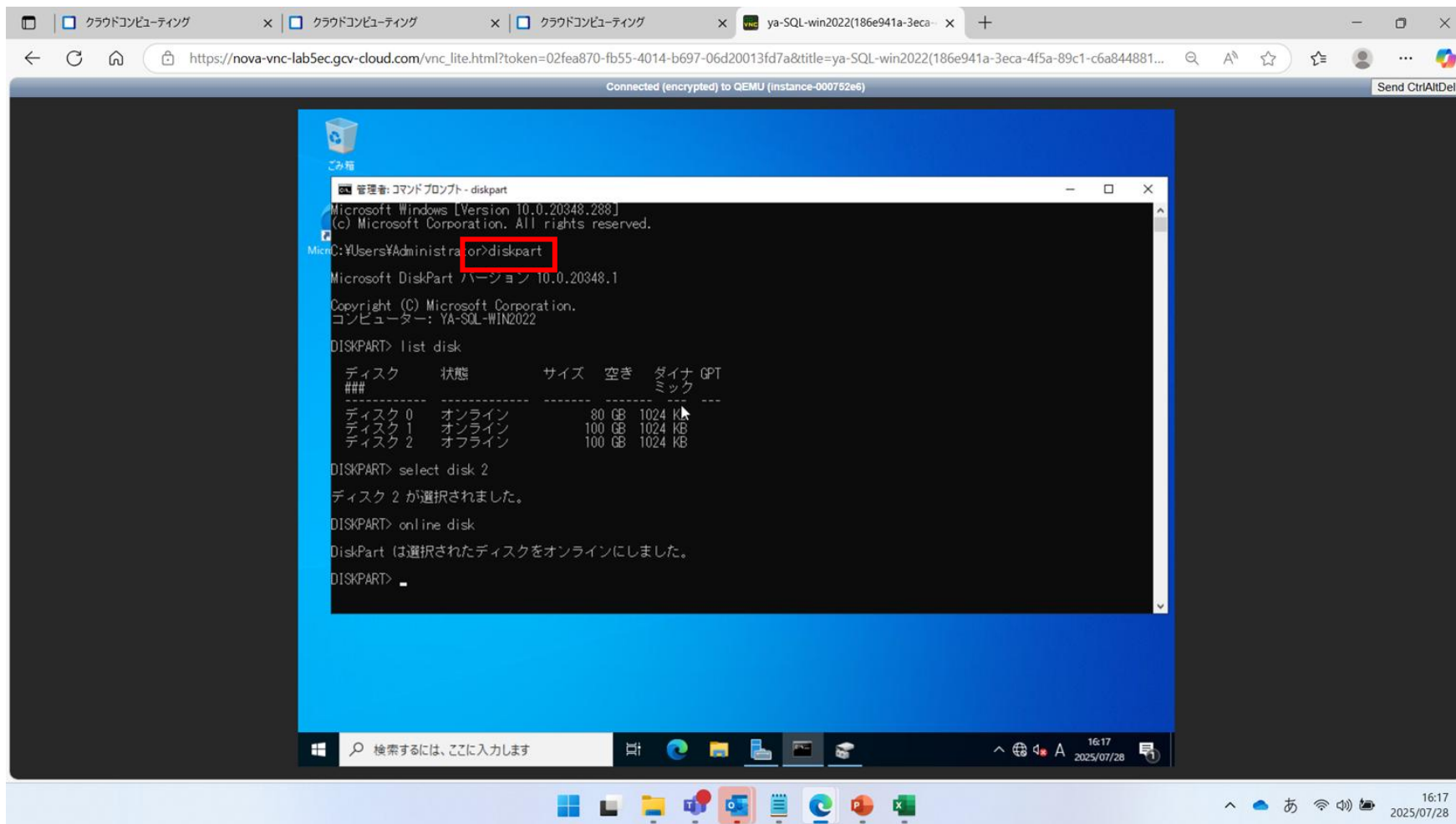
※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

コマンドプロンプトを開いて、下記のコマンドを実行します。

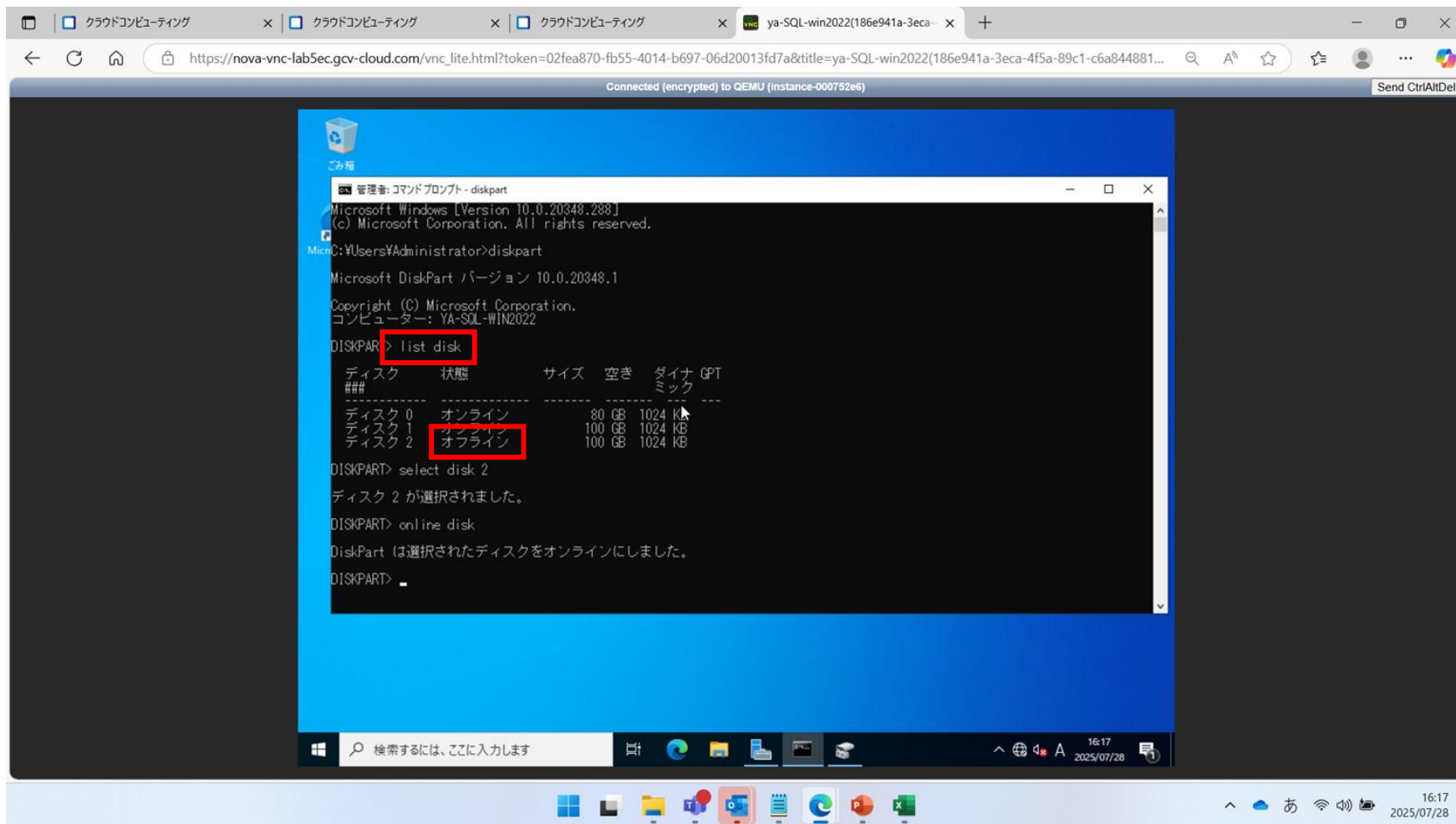
diskpart



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、オフライン状態になっているディスクが存在していることを確認します。

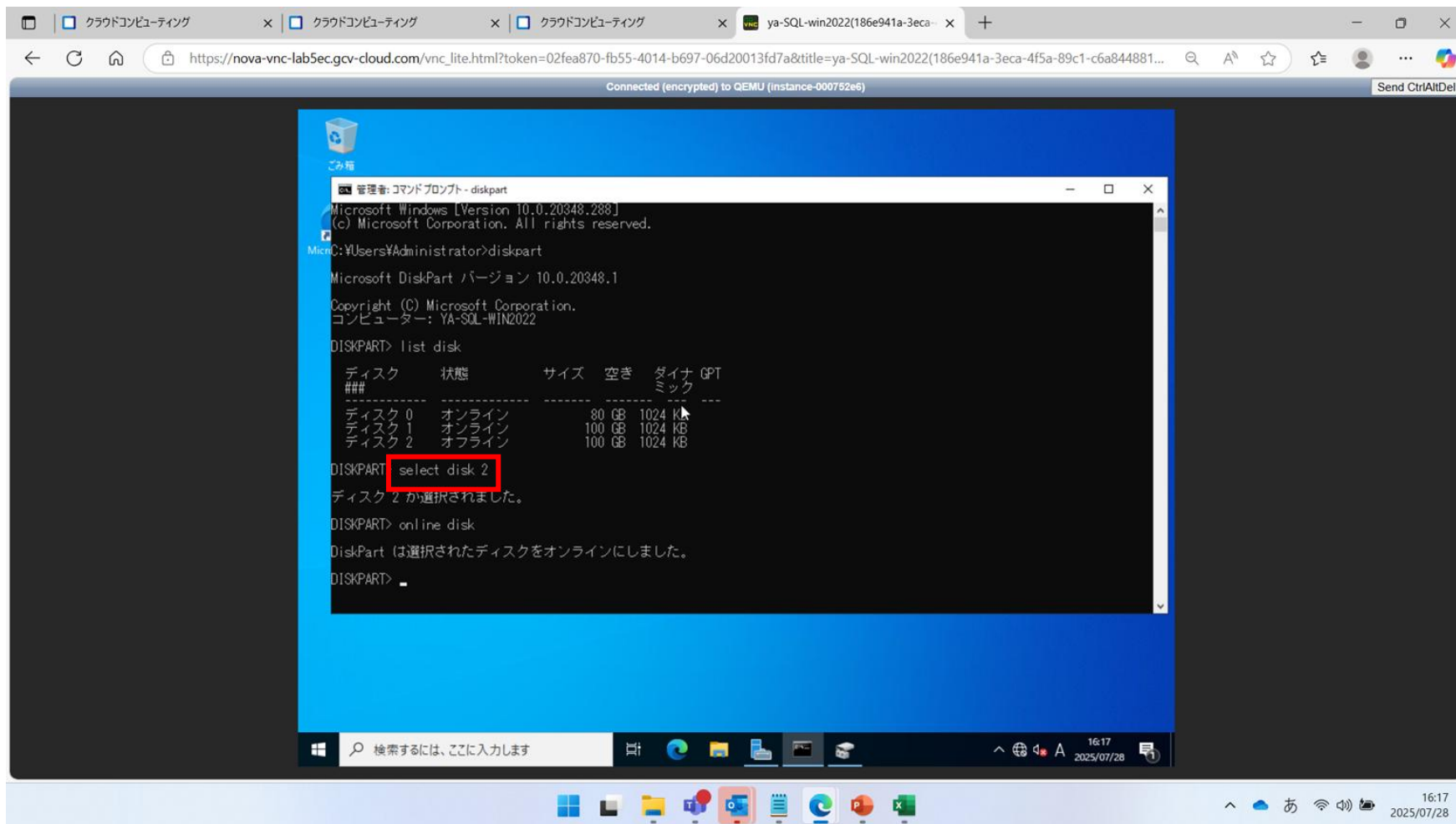
list disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、操作するディスクを選択します。

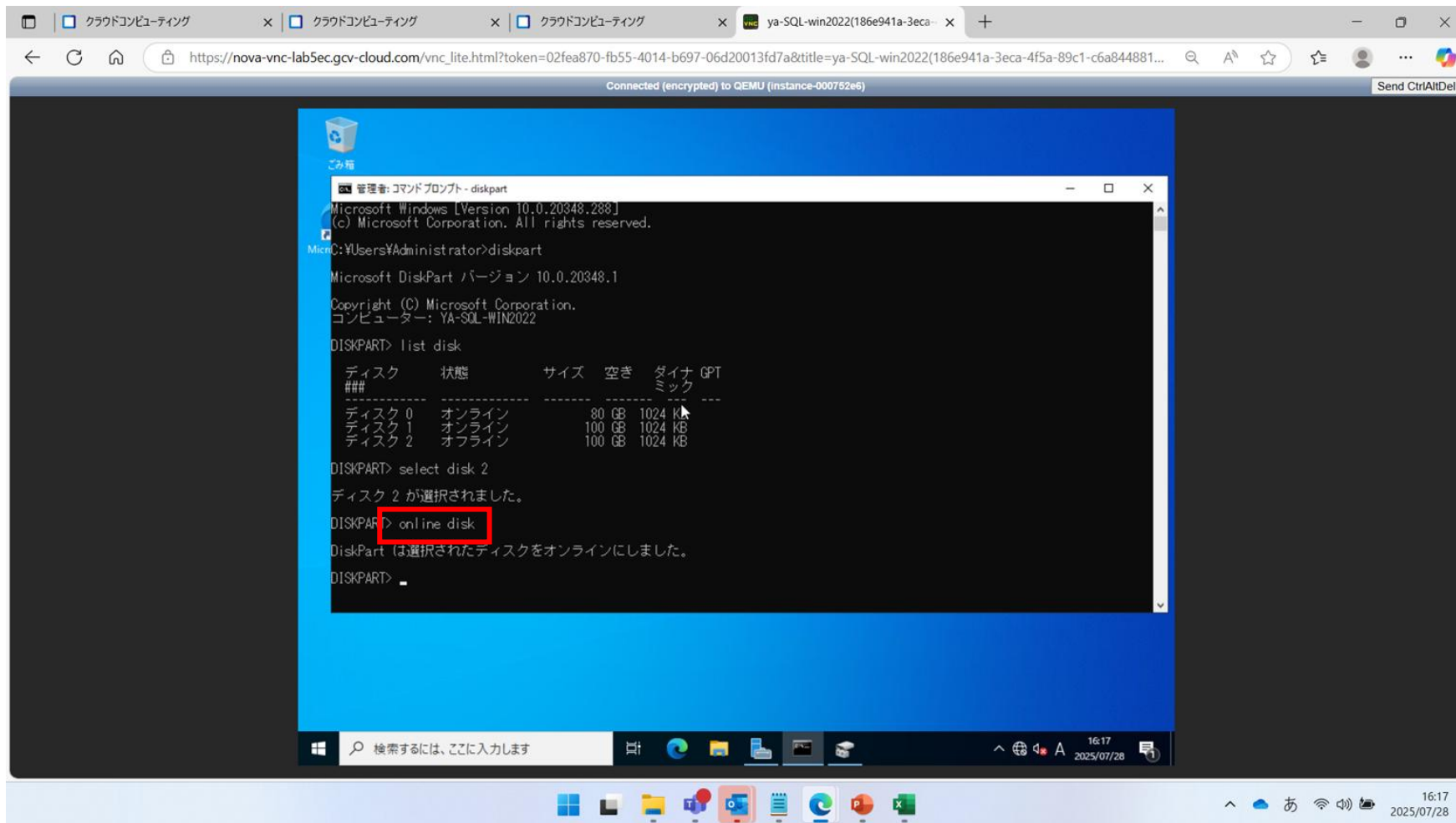
`select disk <対象ディスク番号>`



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、ディスクをオンライン状態に切り替えます。

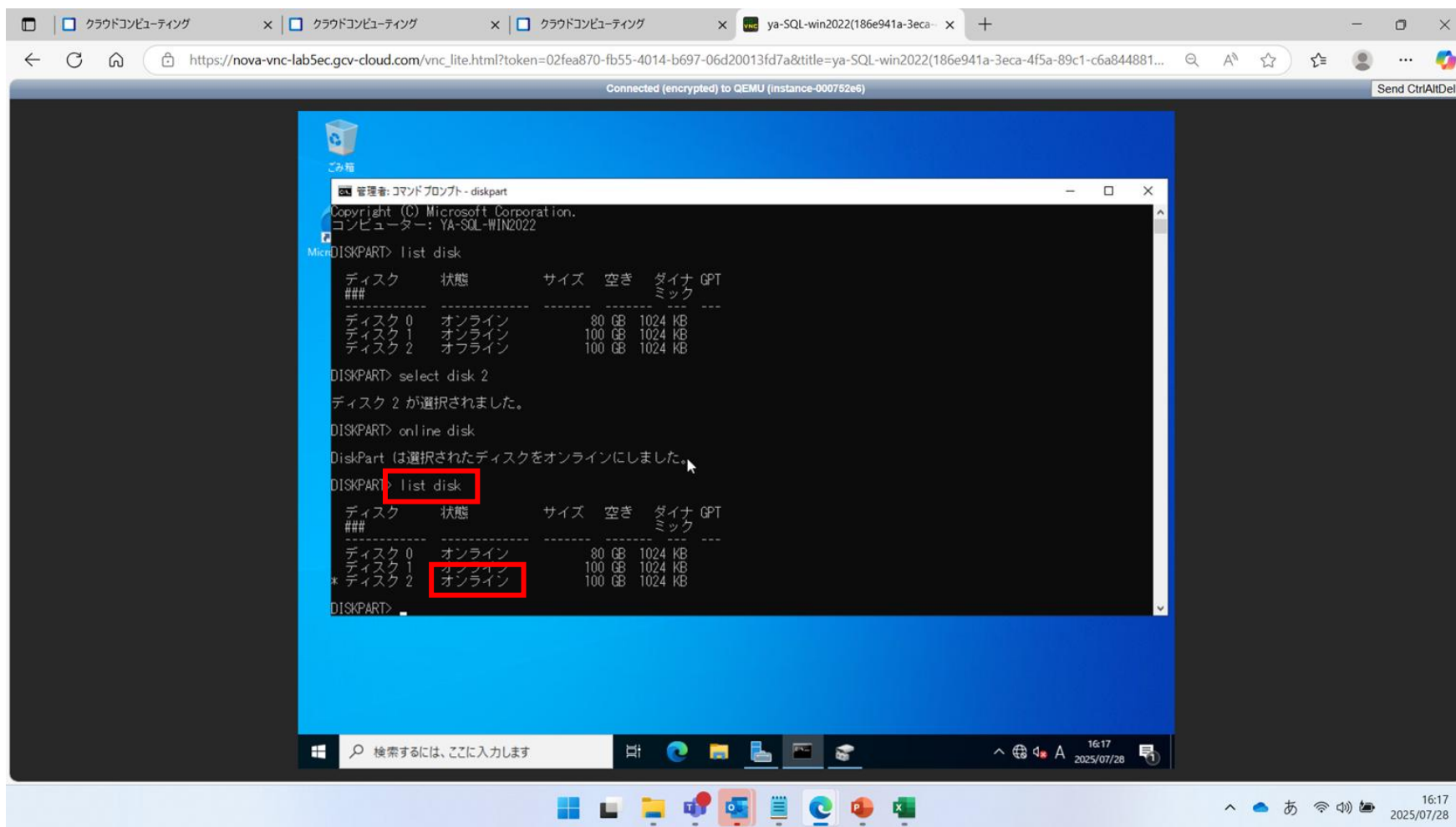
online disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

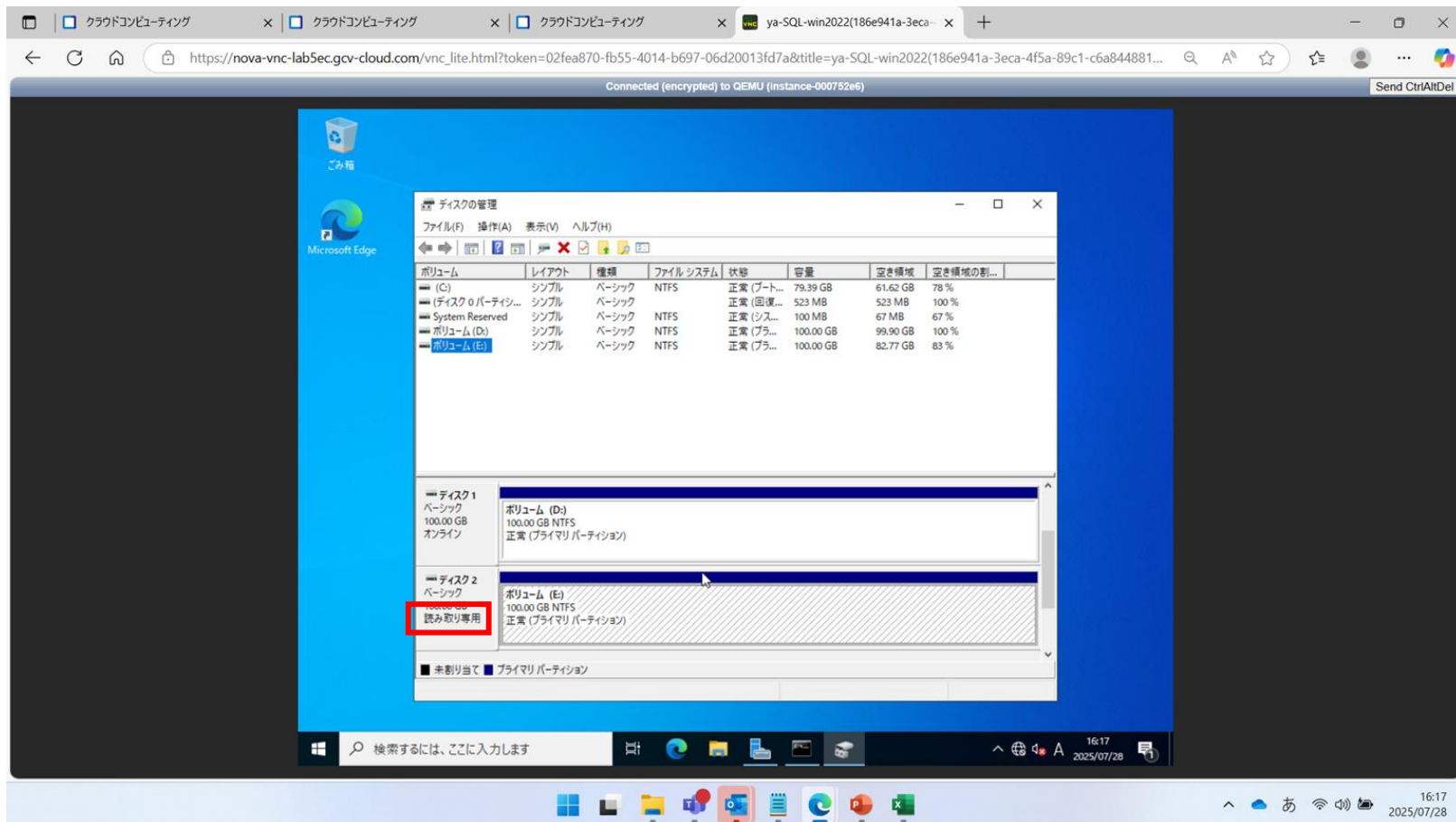
下記のコマンドを実行し、対象のディスクがオンライン状態になっていることを確認します。

list disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

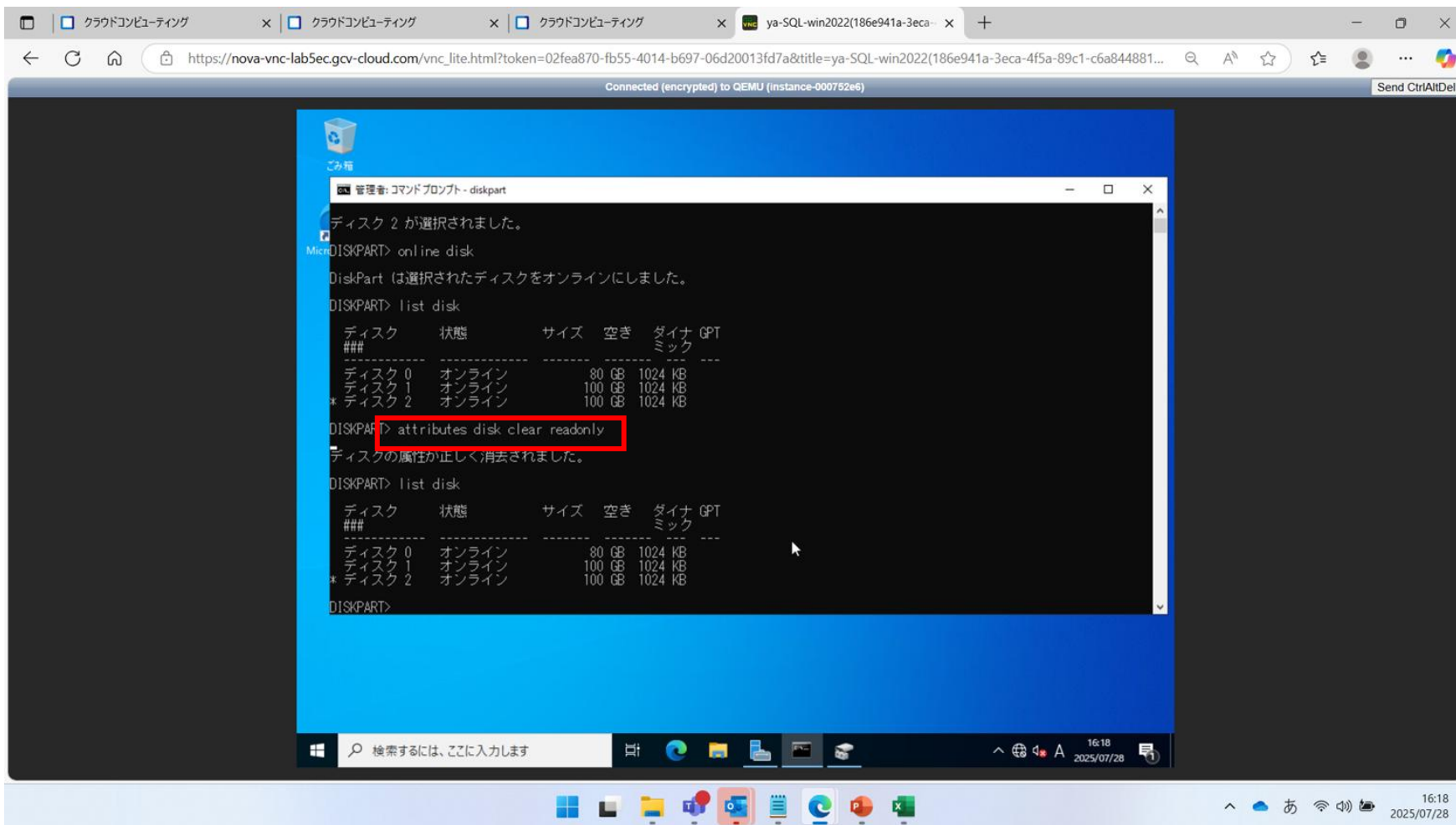
ディスクの状態を確認し、ディスクが表示されていることを確認します。
接続したバックアップデータ保存用ボリュームが「読み取り専用」と表示されている場合は以降の手順を実施します。
表示されている場合は6-1. DBインポート以降の手順を実施してください。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

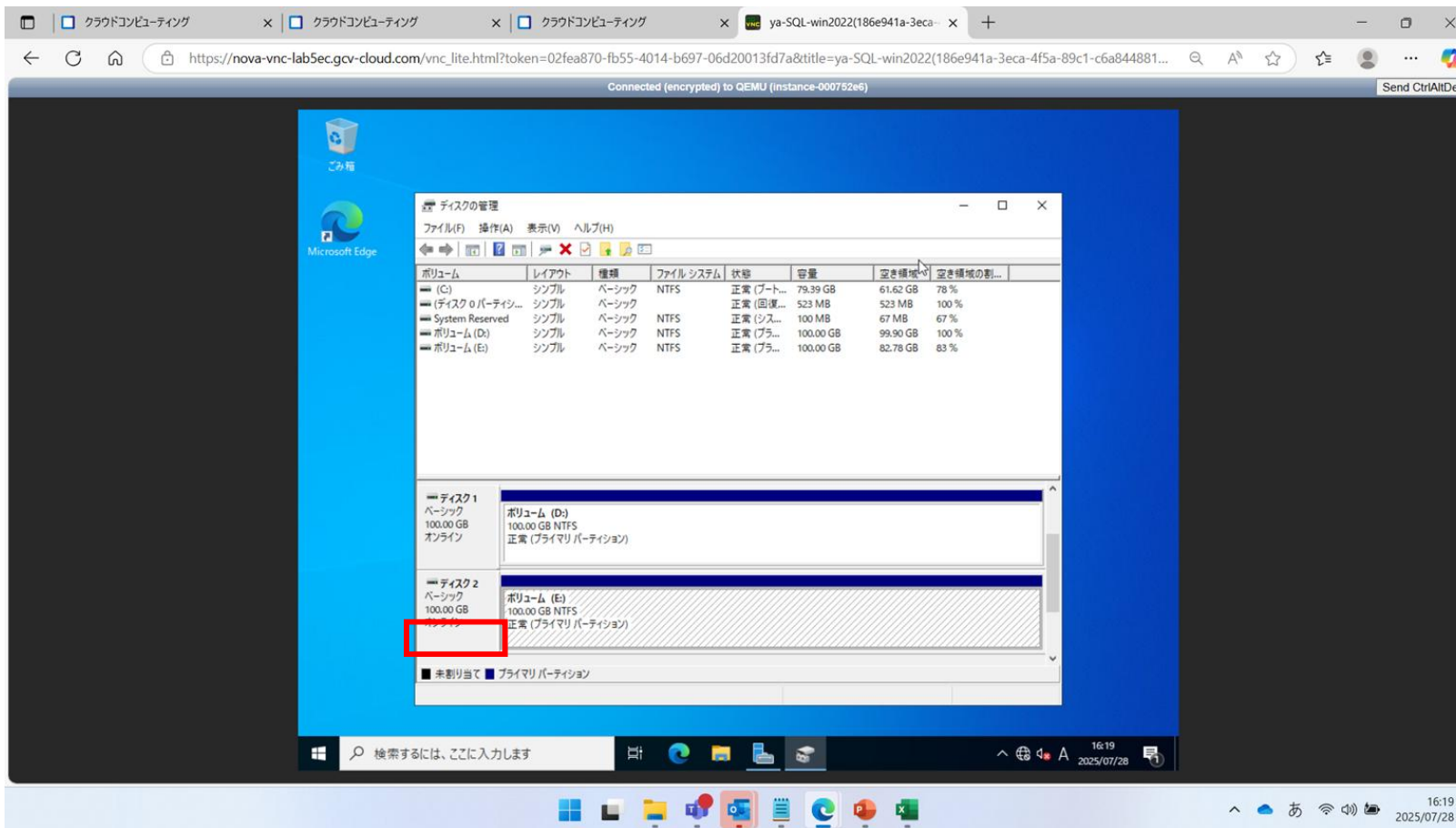
下記のコマンドを実行し、読み取り専用の属性を削除します。

attributes disk clear readonly



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

ディスクの状態を確認し、ディスクに読み取り専用と表示されていないことを確認します。



6. リストア作業

Windows serverの場合

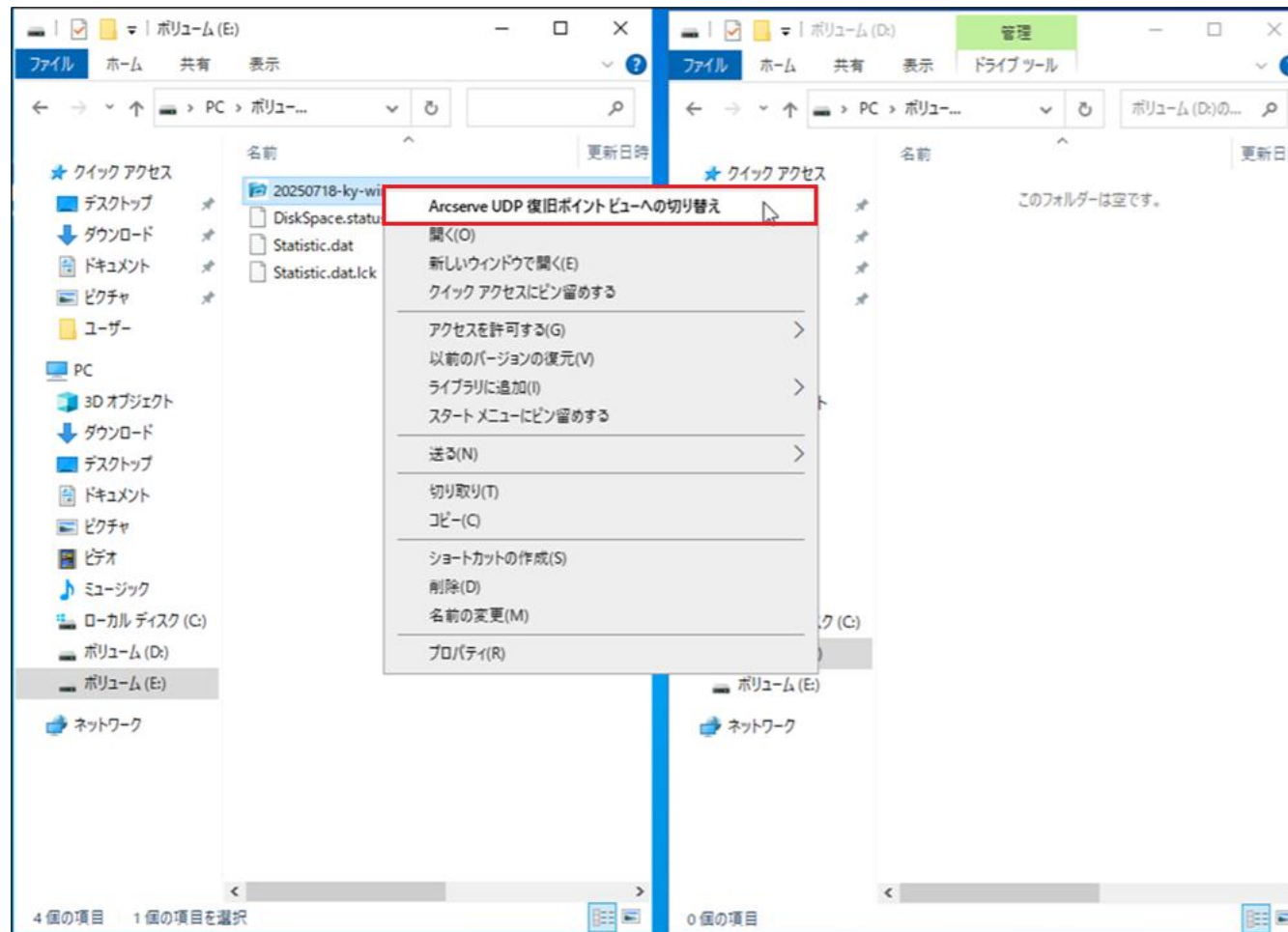
6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

docomo Business

移行先サーバへバックアップデータボリュームから必要なデータをリストアします。

バックアップファイルを選択し、右クリック>「Arcserve UDP復旧ポイントビューへの切り替え」を押下します。



対象の復旧ポイントを開きます。



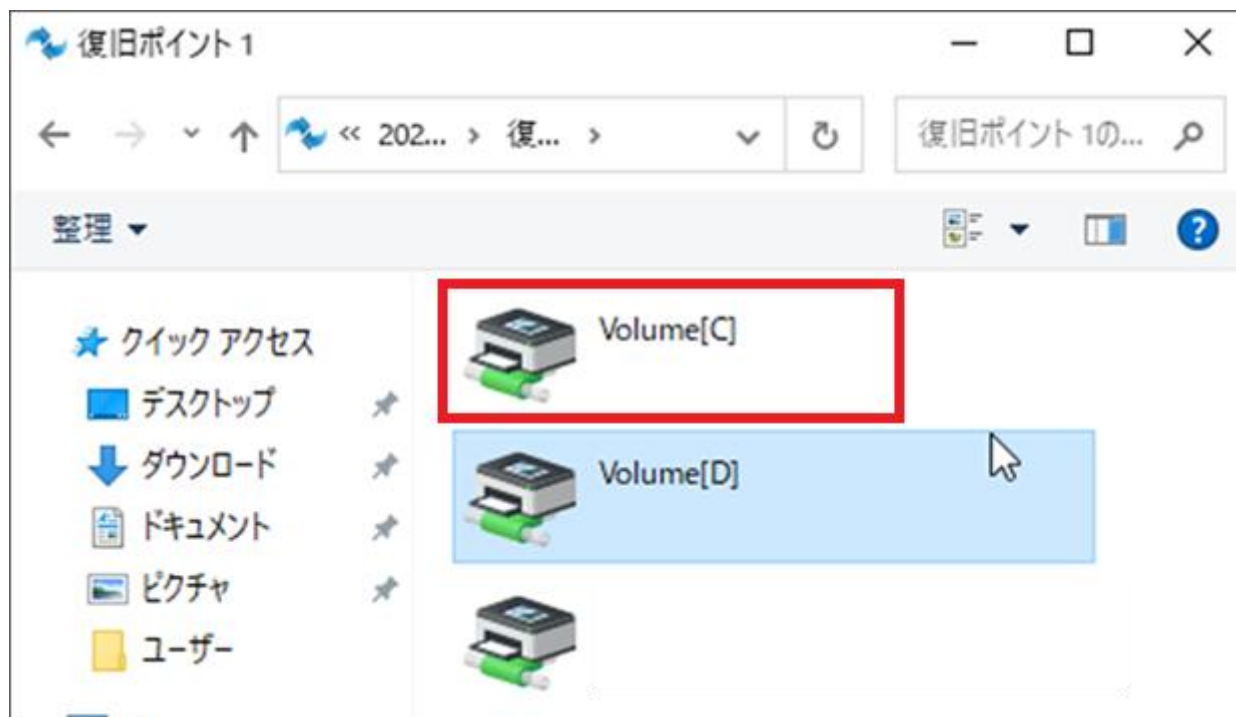
6. リストア作業

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

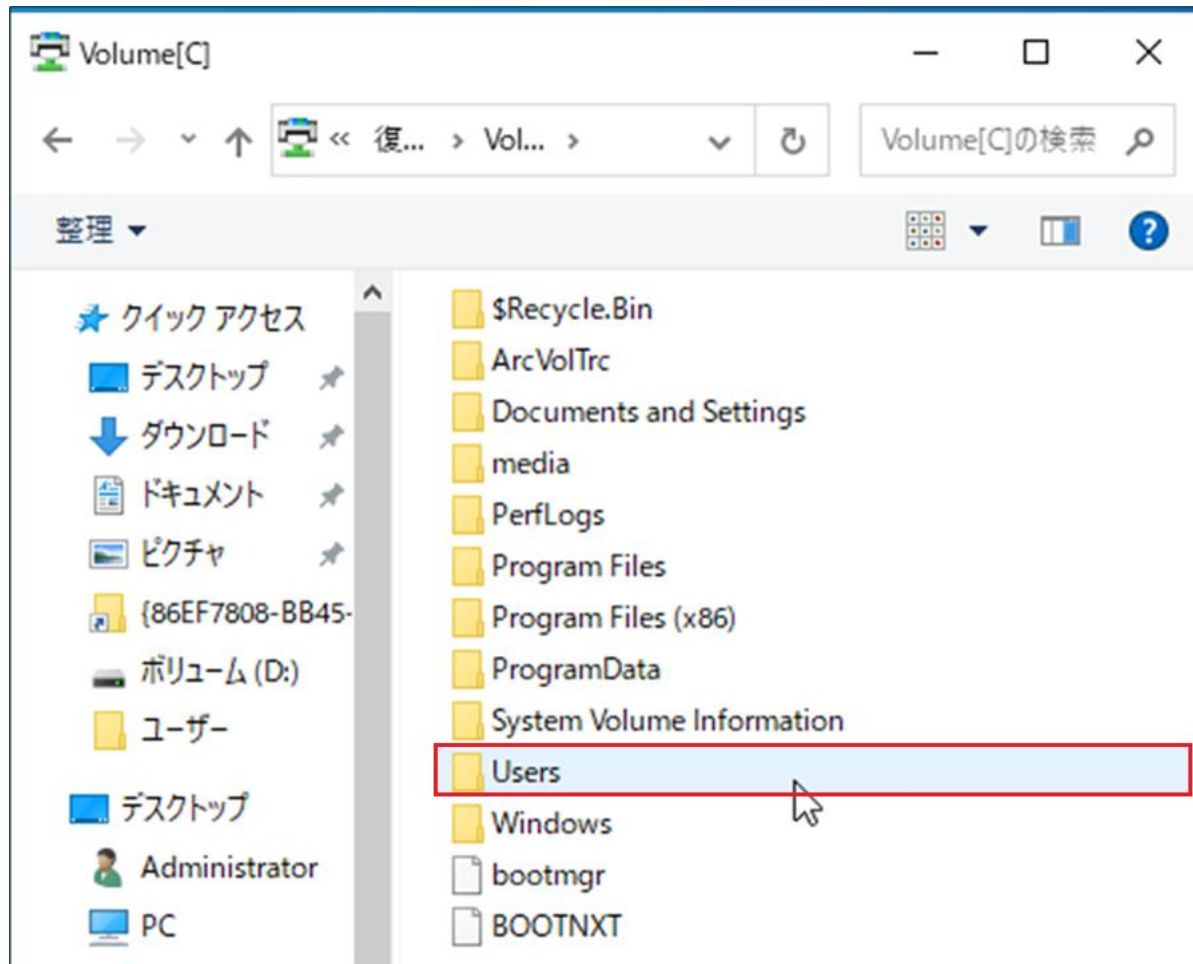
移行対象のデータが含まれるドライブを選択します。

※手順書では「Volume C」を選択し、ユーザデータ（デスクトップ上のファイル等）の移行手順を記載します。



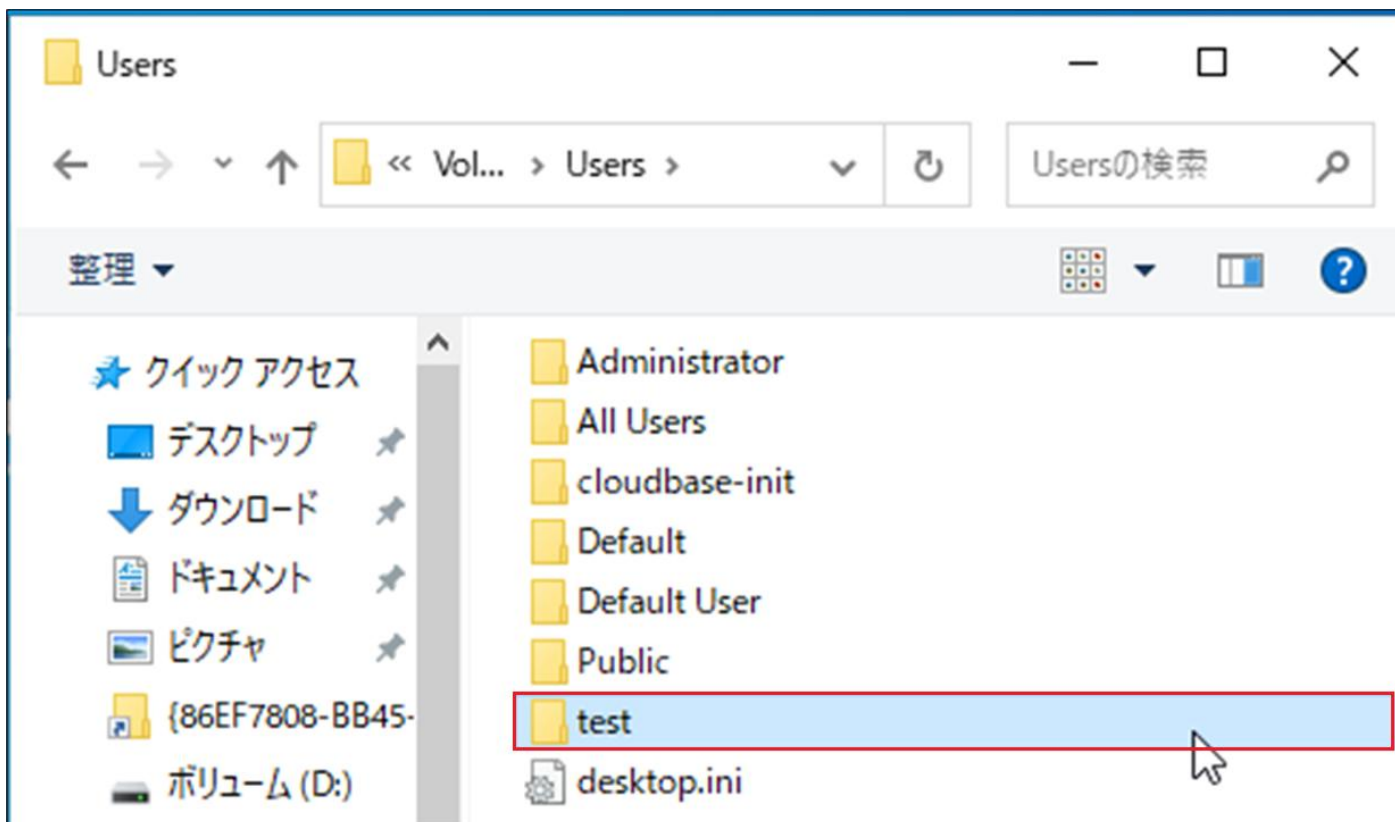
6. リストア作業

「Users」を選択します。



6. リストア作業

移行対象データが含まれるユーザのフォルダを選択します。



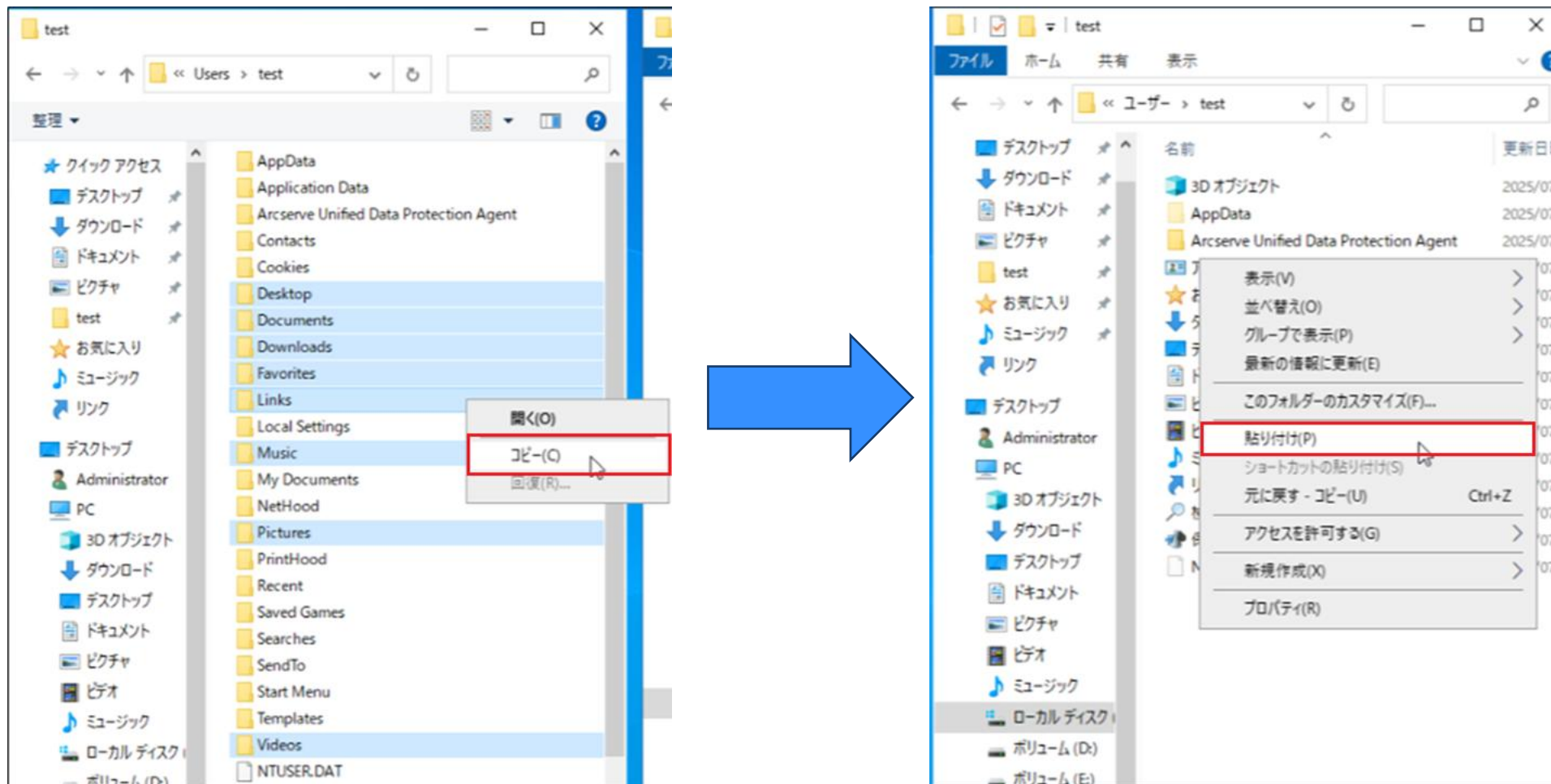
6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

移行対象データのフォルダをコピーし、移行先のフォルダへ貼り付けます。

※手順書では、Cドライブ上の同一名のユーザフォルダへデスクトップファイル等をコピーしています。

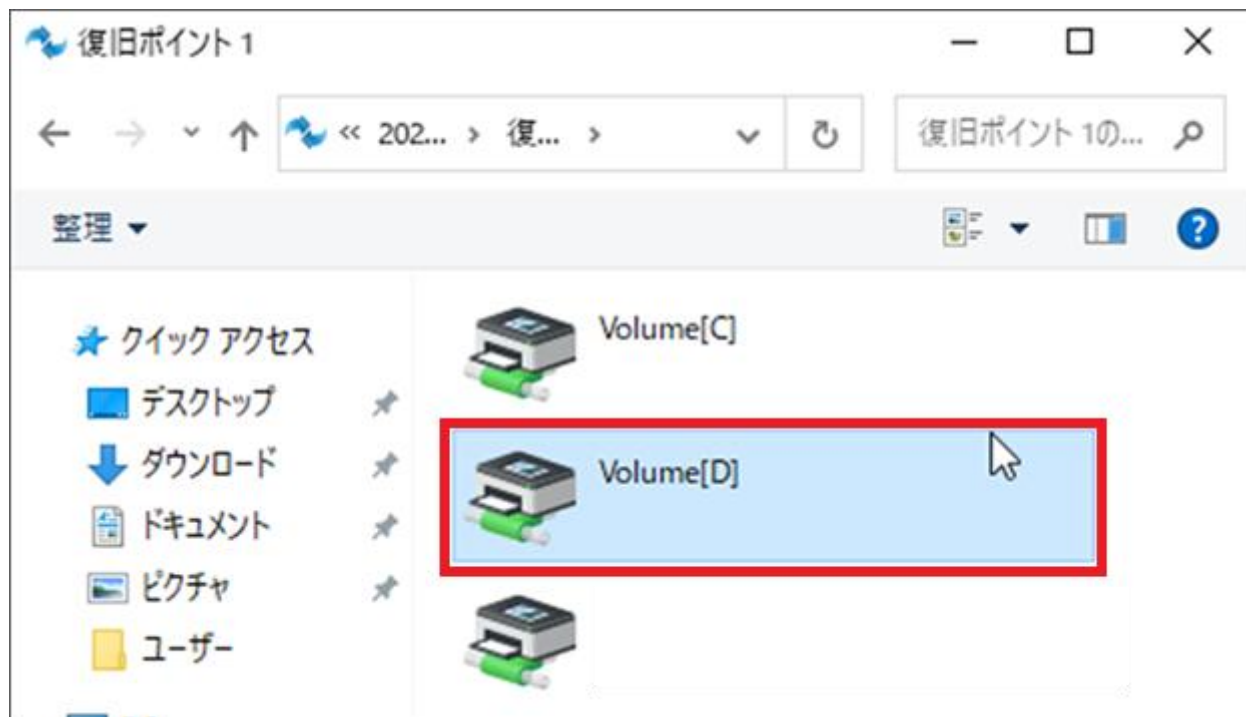


6. リストア作業

次に、Dドライブ等のデータが含まれるドライブを選択します。

※移行対象に、Dドライブ等のデータボリュームが含まれない場合、本手順は実施不要です。

手順書では「Volume D」を選択し、データ移行を行います。

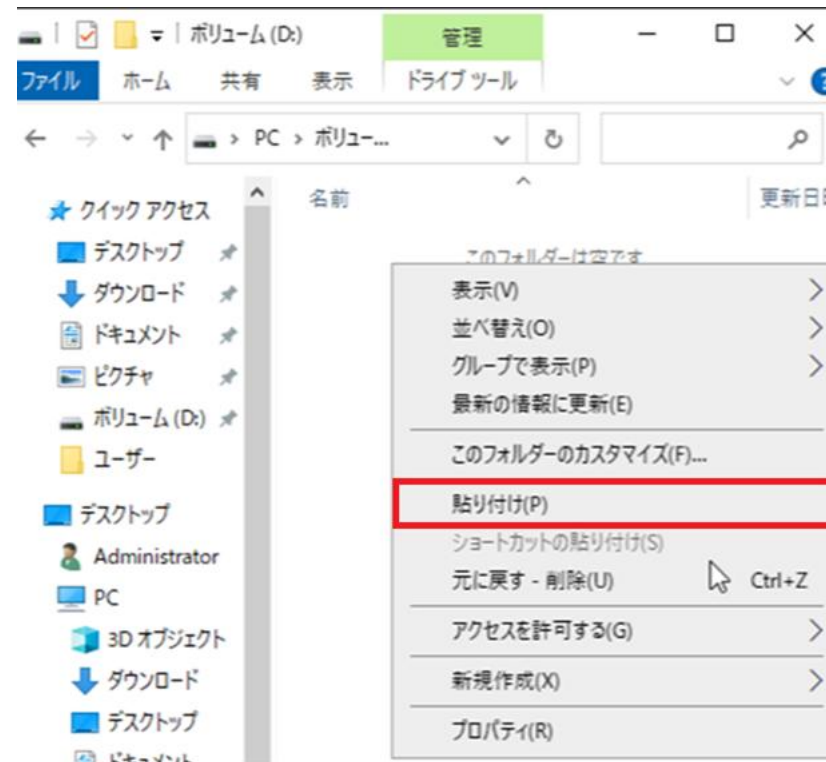
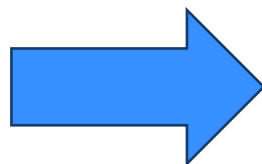
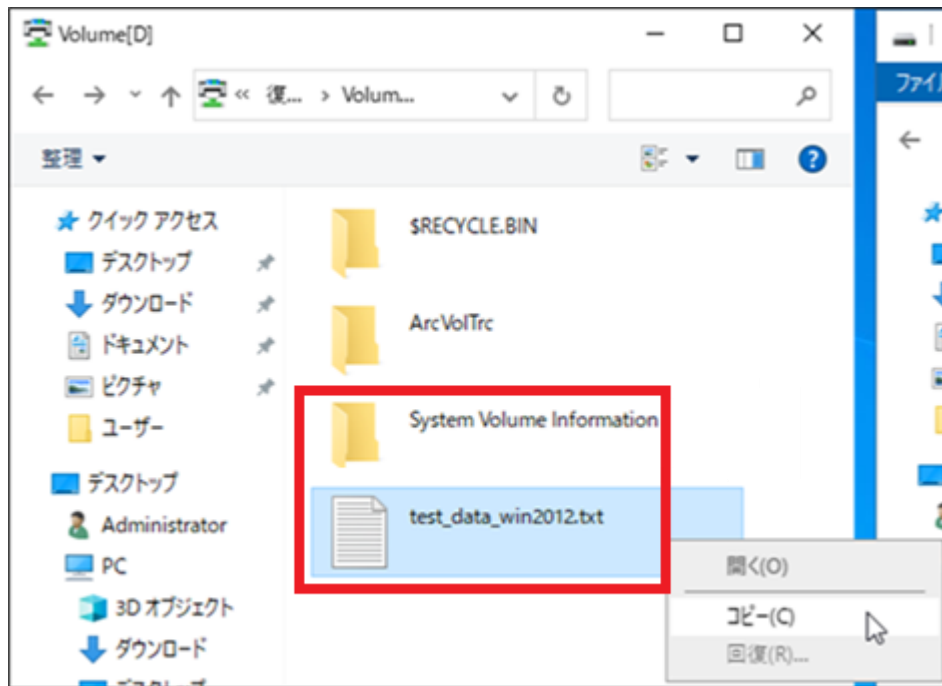


6. リストア作業

移行対象のデータをコピーし、移行先のフォルダに貼り付けます。

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

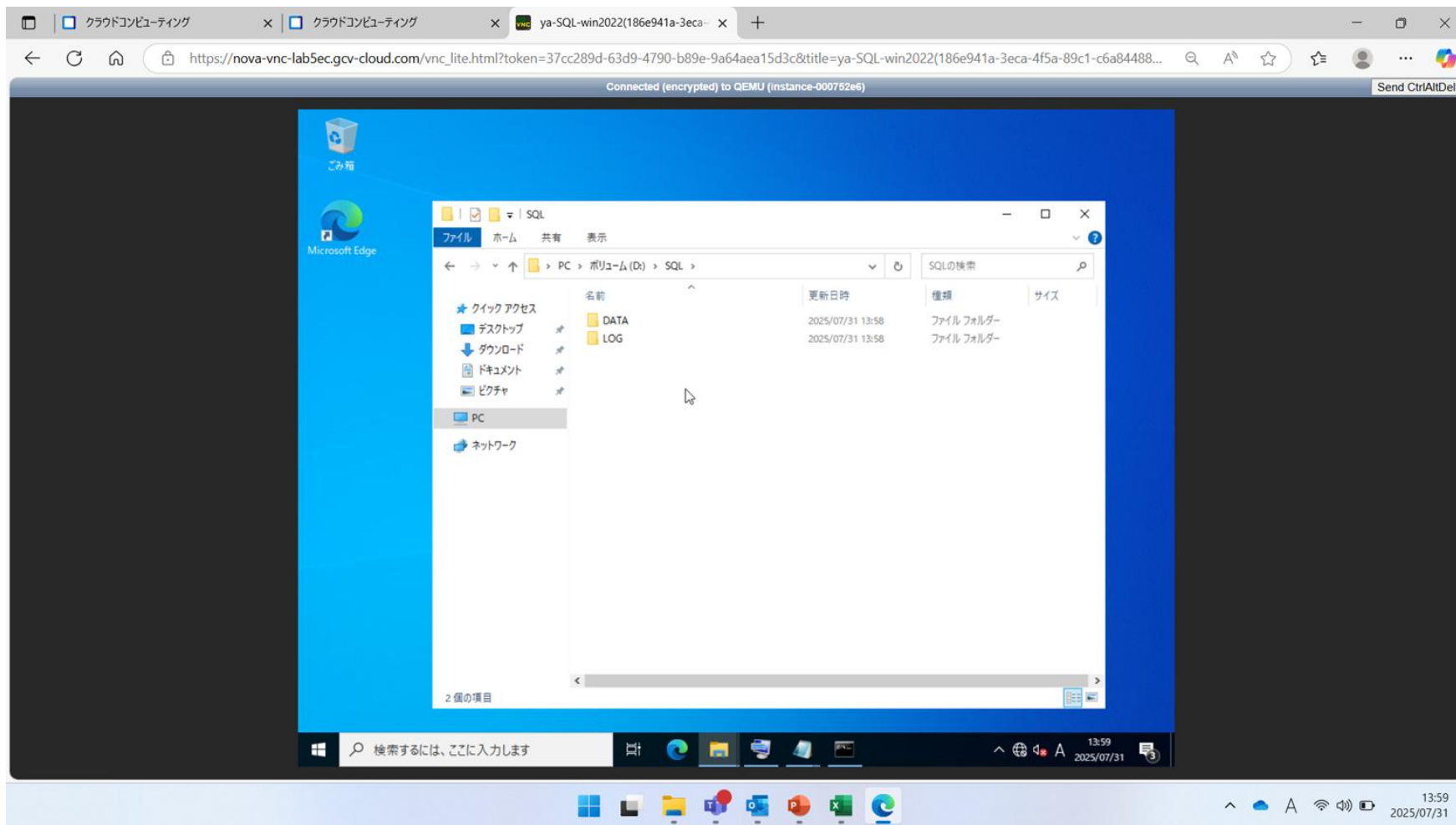


6. リストア作業

SQL Serverの場合

6. リストア作業

(必要に応じて)mdfファイルの格納先フォルダとldfファイルの格納先フォルダを作成します。

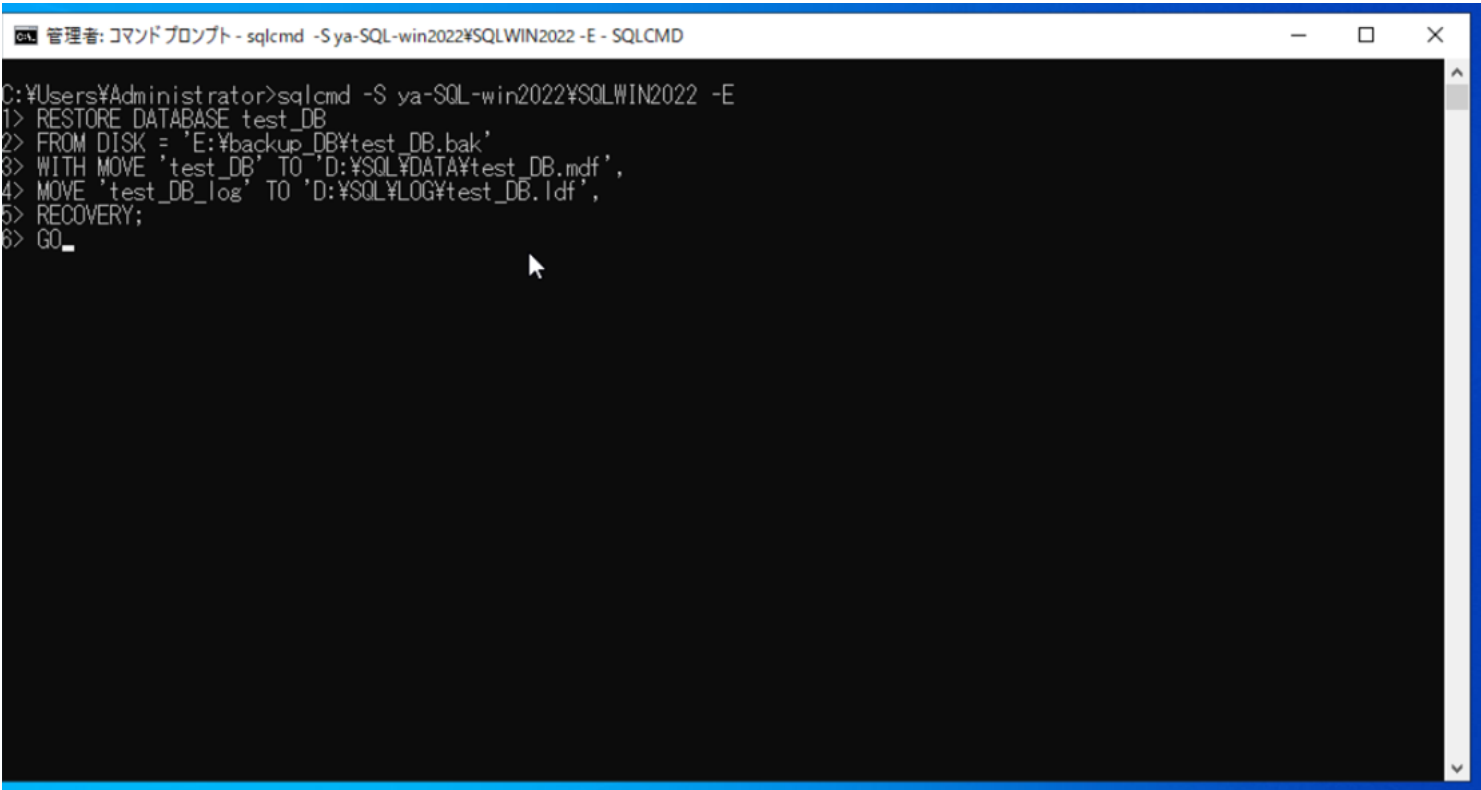


6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

下記のコマンドを実行し、DBをインポートします。

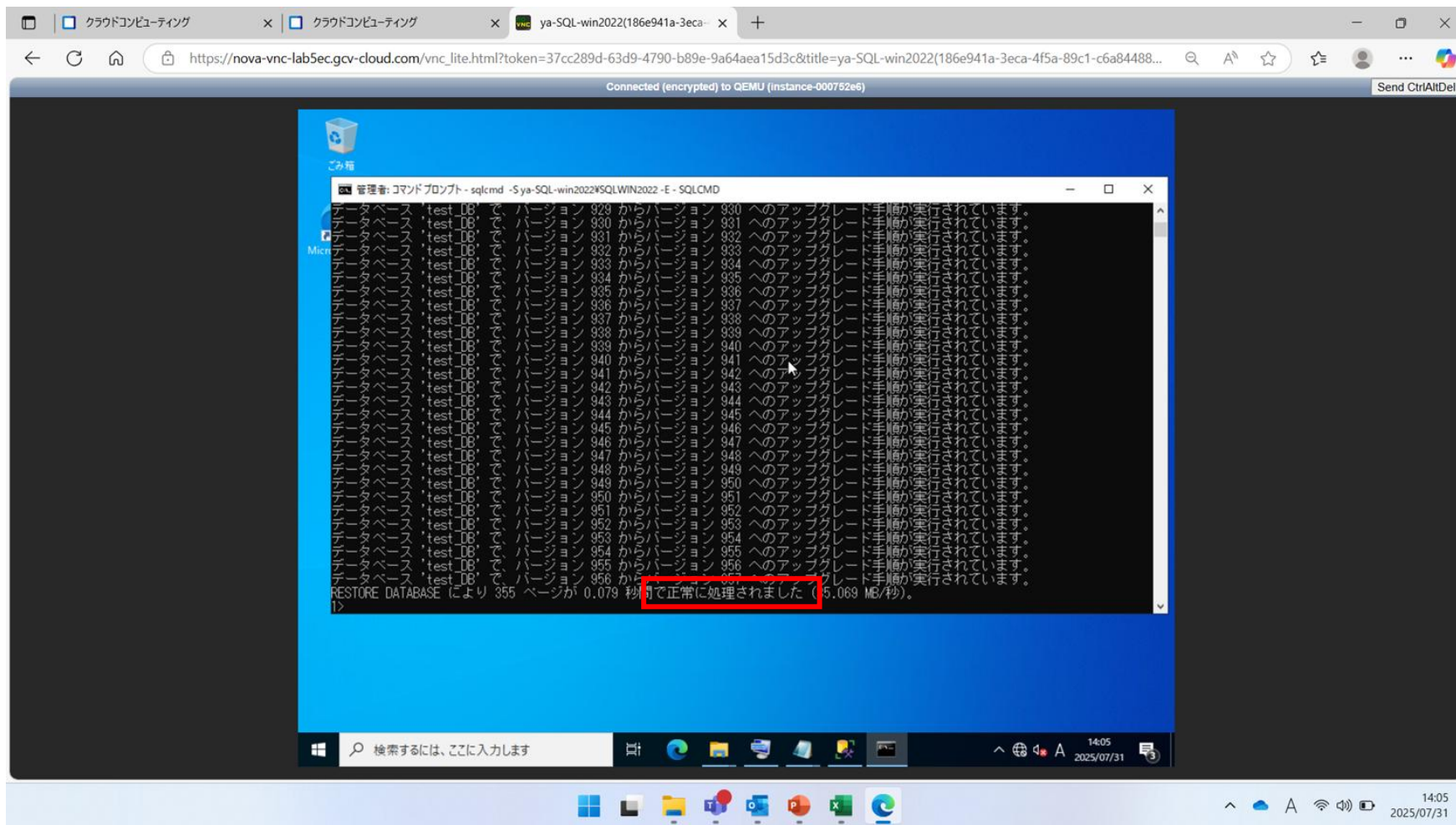
```
RESTORE DATABASE [DB名]
FROM DISK = '<DBエクスポートデータ保存先>¥DB名.bak'
WITH MOVE 'DB名' TO '<mdfファイル格納先>¥DB名.mdf',
MOVE 'DB名_log' TO '<mdfファイル格納先>¥DB名.ldf',
RECOVERY;
```



```
管理者: コマンドプロンプト - sqlcmd -S ya-SQL-win2022¥SQLWIN2022 -E - SQLCMD
C:\Users\Administrator>sqlcmd -S ya-SQL-win2022¥SQLWIN2022 -E
1> RESTORE DATABASE test_DB
2> FROM DISK = 'E:¥backup_DB¥test_DB.bak'
3> WITH MOVE 'test_DB' TO 'D:¥SQL¥DATA¥test_DB.mdf',
4> MOVE 'test_DB_log' TO 'D:¥SQL¥LOG¥test_DB.ldf',
5> RECOVERY;
6> GO_
```

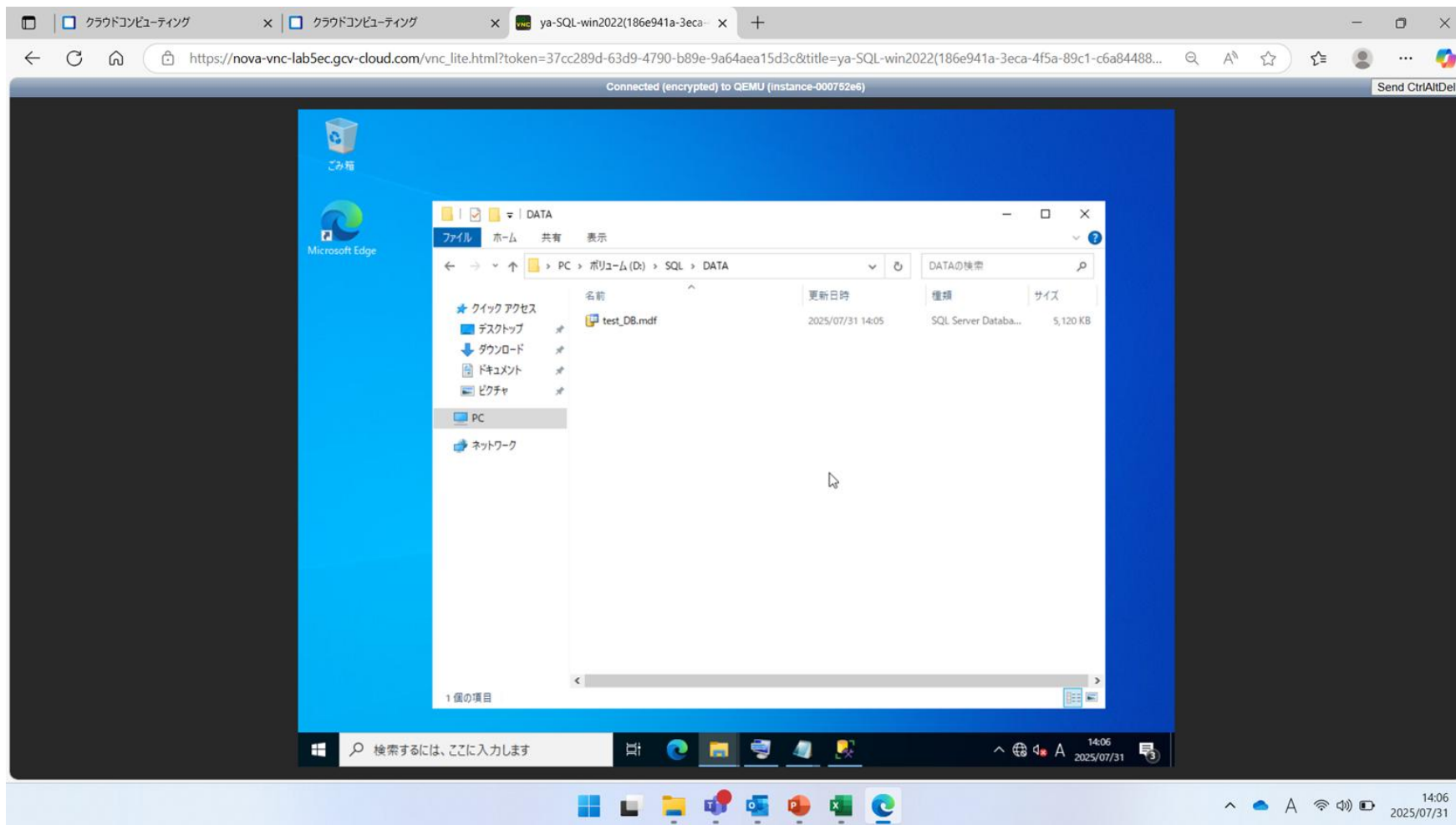
6. リストア作業

「正常に処理されました」のメッセージが表示されることを確認します。



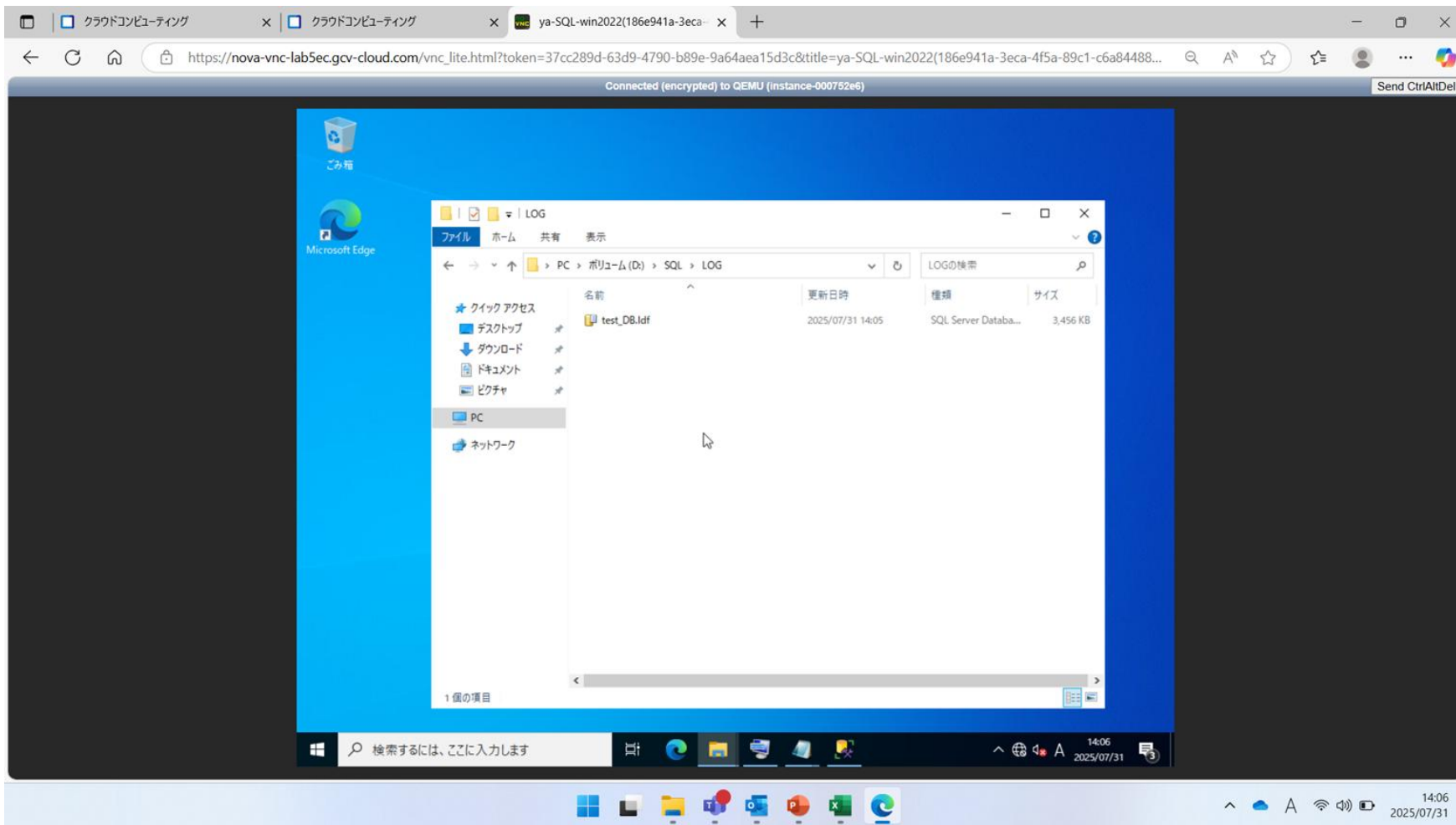
6. リストア作業

エクスプローラーからmdfファイルの格納先フォルダを確認し、mdfファイルが保存されていることを確認します。



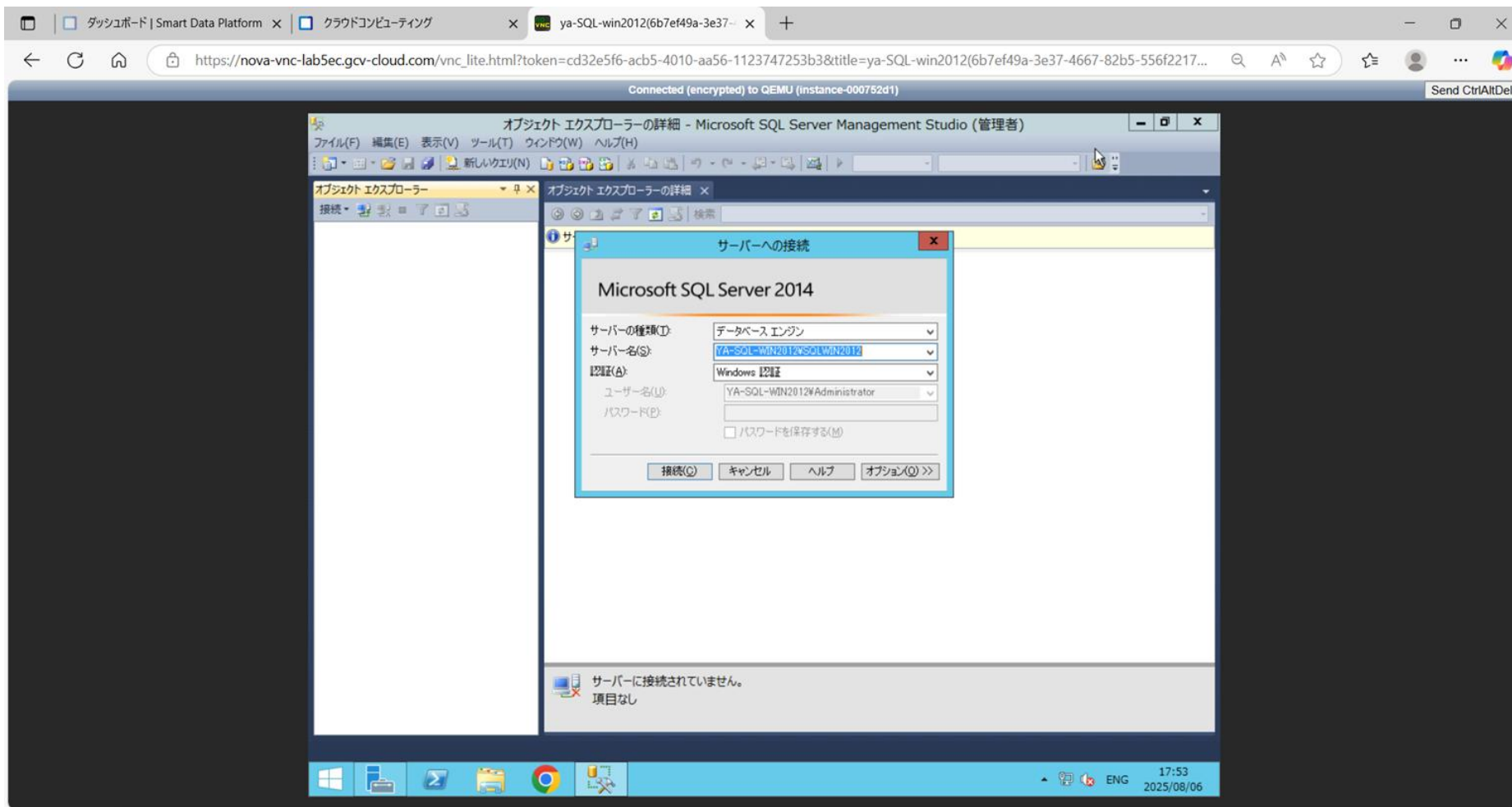
6. リストア作業

エクスプローラーからmdfファイルの格納先フォルダを確認し、ldfファイルが保存されていることを確認します。



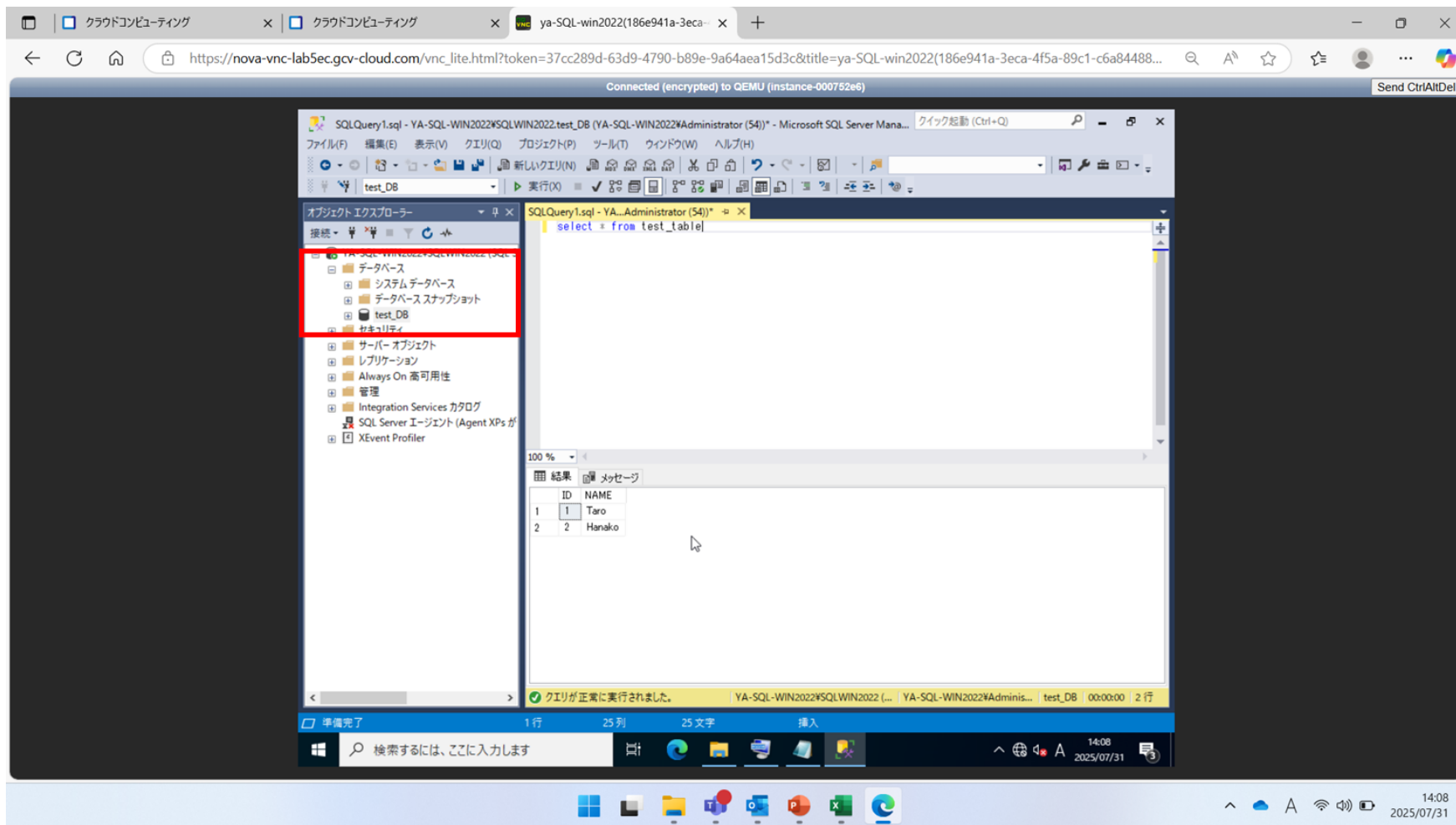
6. リストア作業

SQL Server Management Studioを起動し、必要な情報を入力し「接続」を選択する。



6. リストア作業

「データベース」から対象のDBがインポートされていることを確認します。

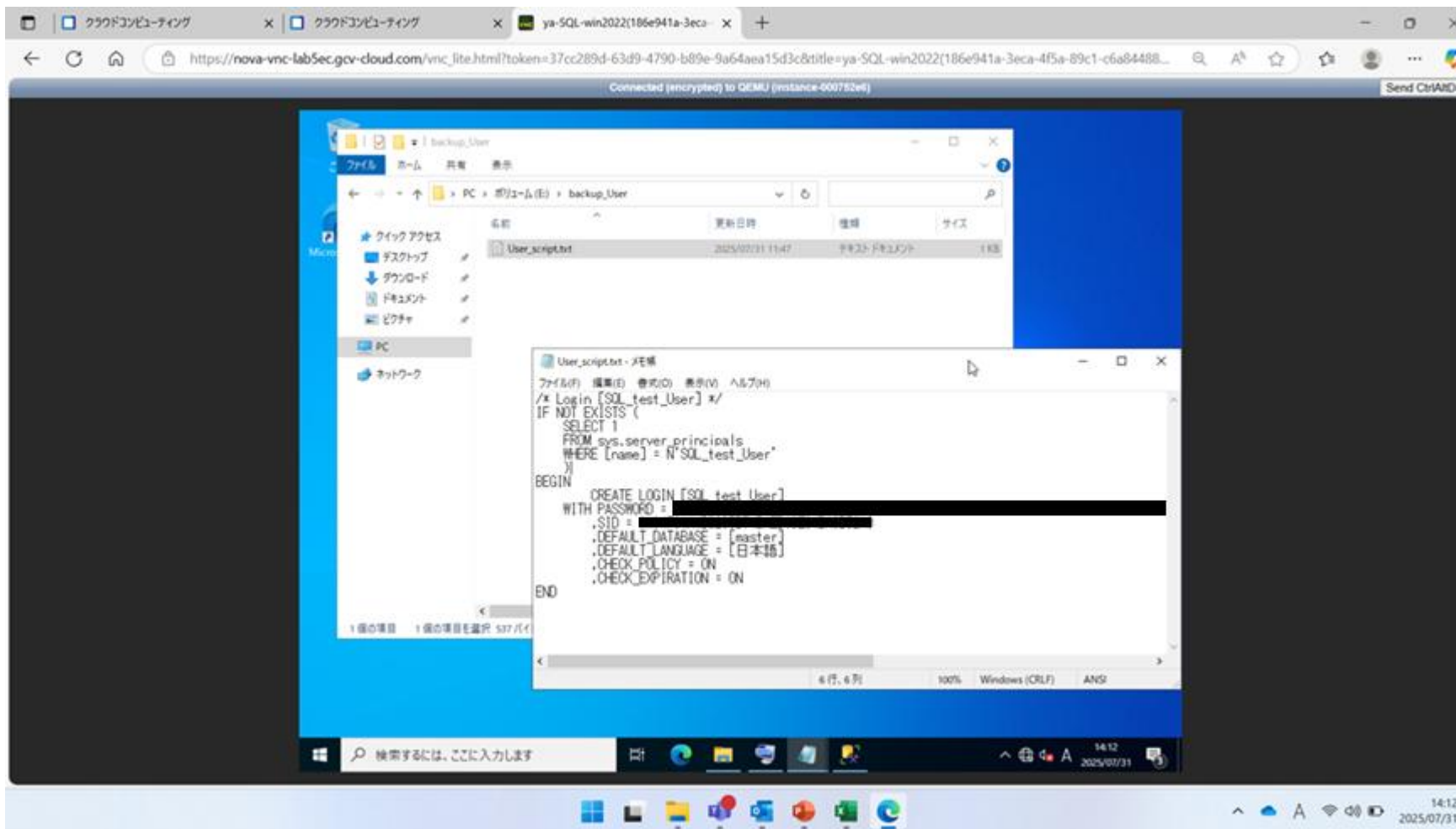


6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

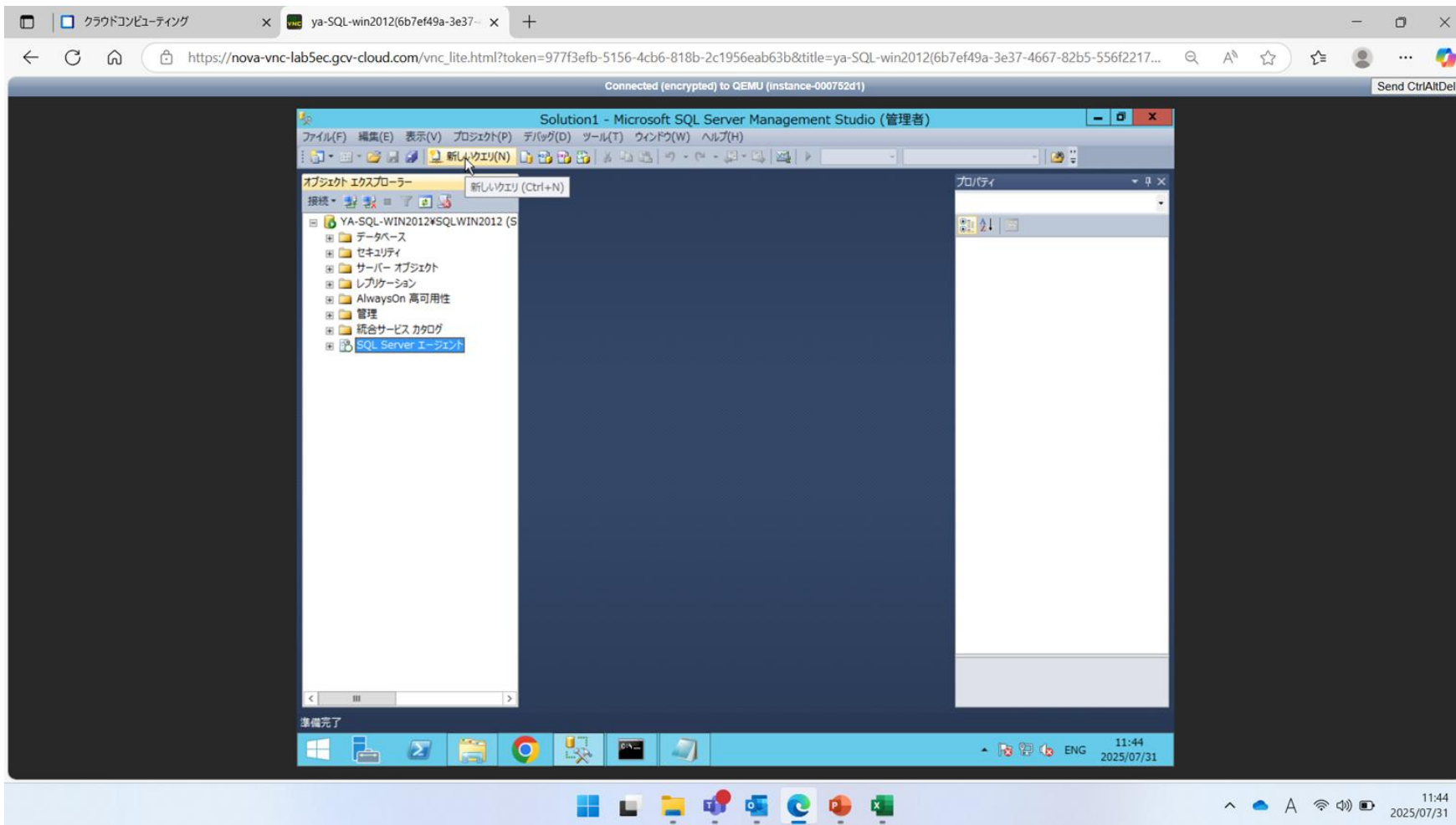
 **docomo Business**

ログイン情報のエクスポートデータ保存先フォルダに保存したテキストファイルをメモ帳等で開き、内容を全てコピーします。



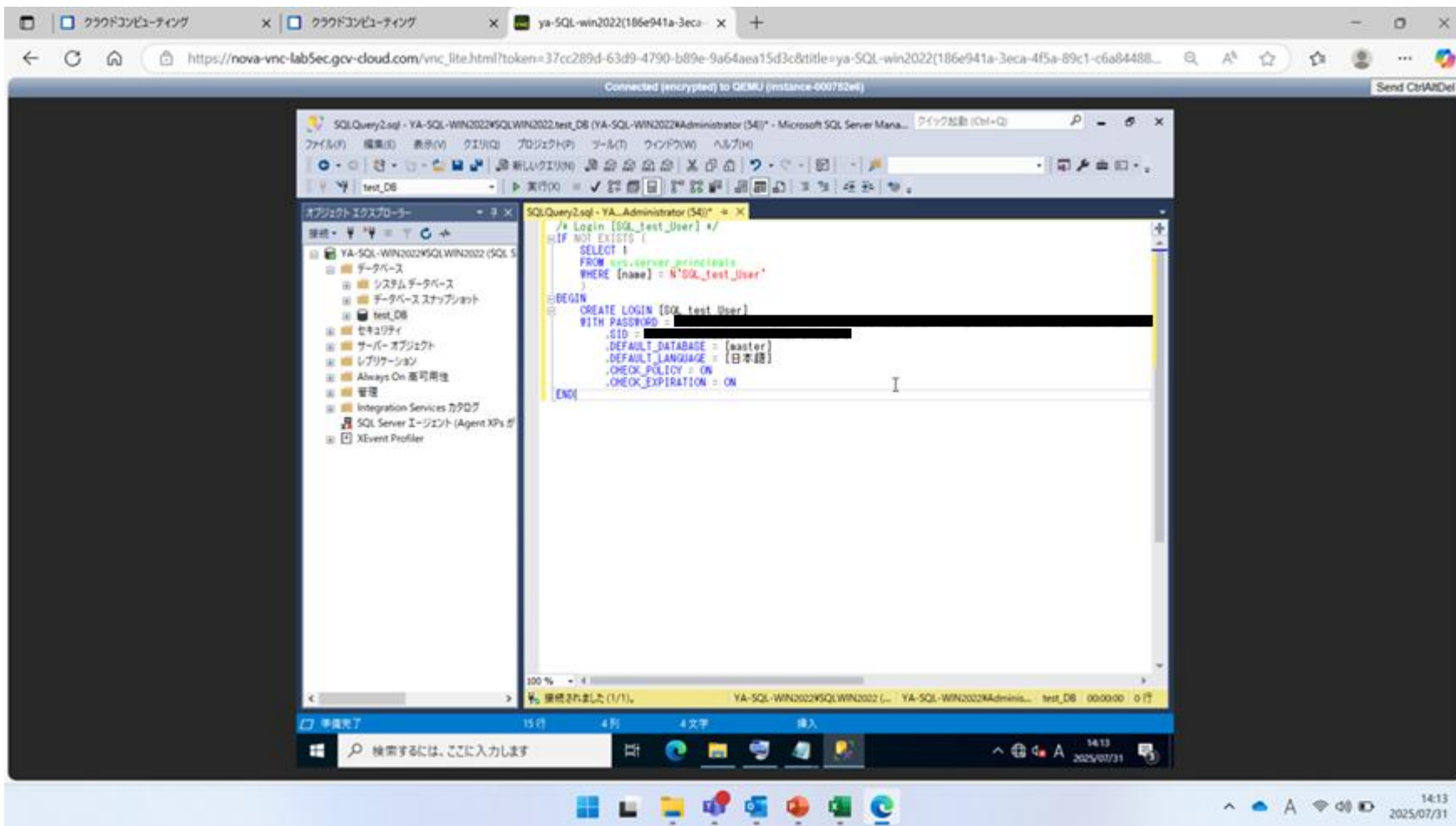
6. リストア作業

SQL Server Management Studioから「新しいクエリ」を選択する。



6. リストア作業

コピーした内容を全て貼り付け、「実行」を選択します。

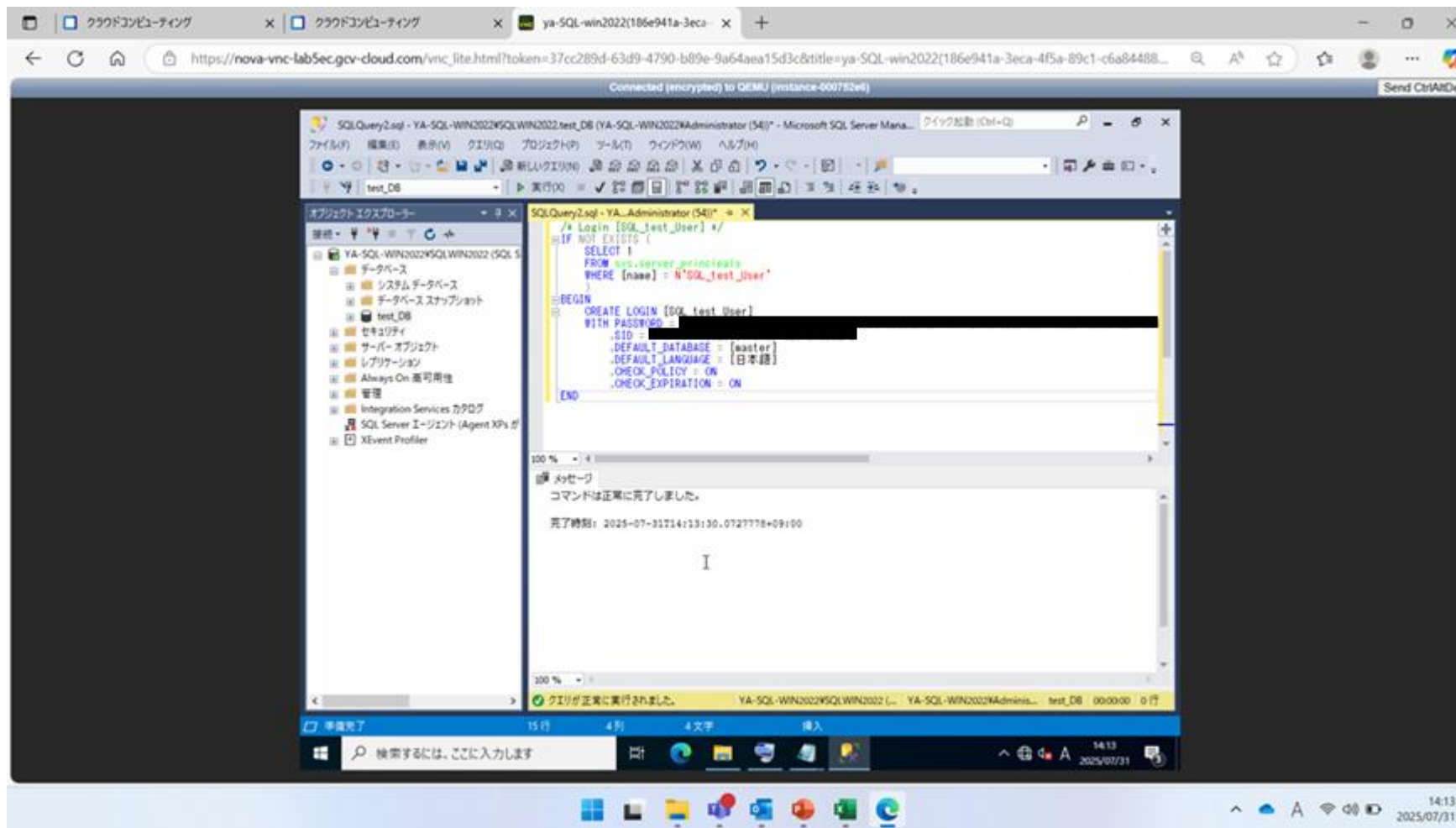


6. リストア作業

つながる。驚きを。幸せを。

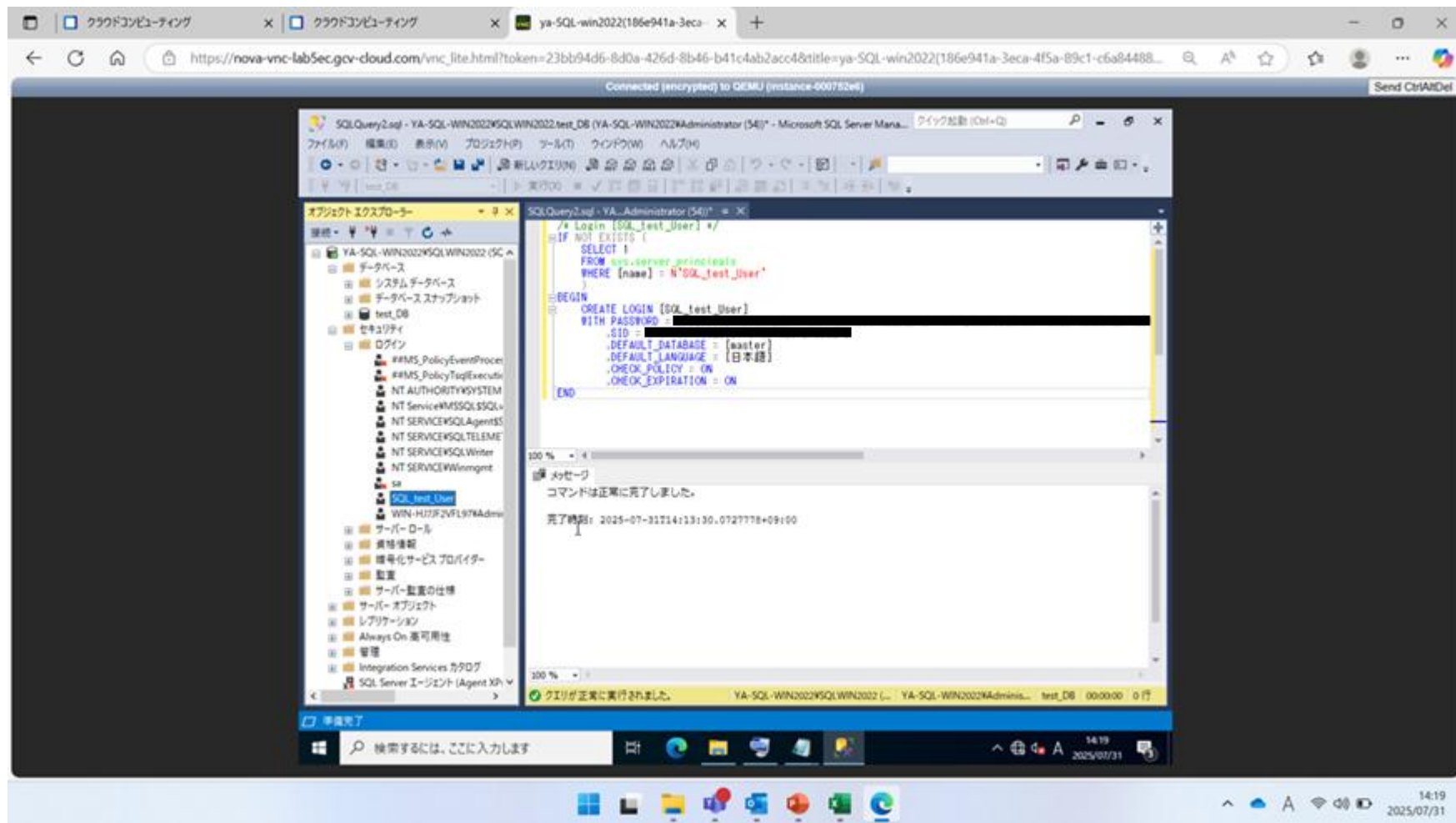
 **docomo Business**

「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。



6. リストア作業

「セキュリティ」→「ログイン」から対象のログイン情報がインポートされていることを確認します。

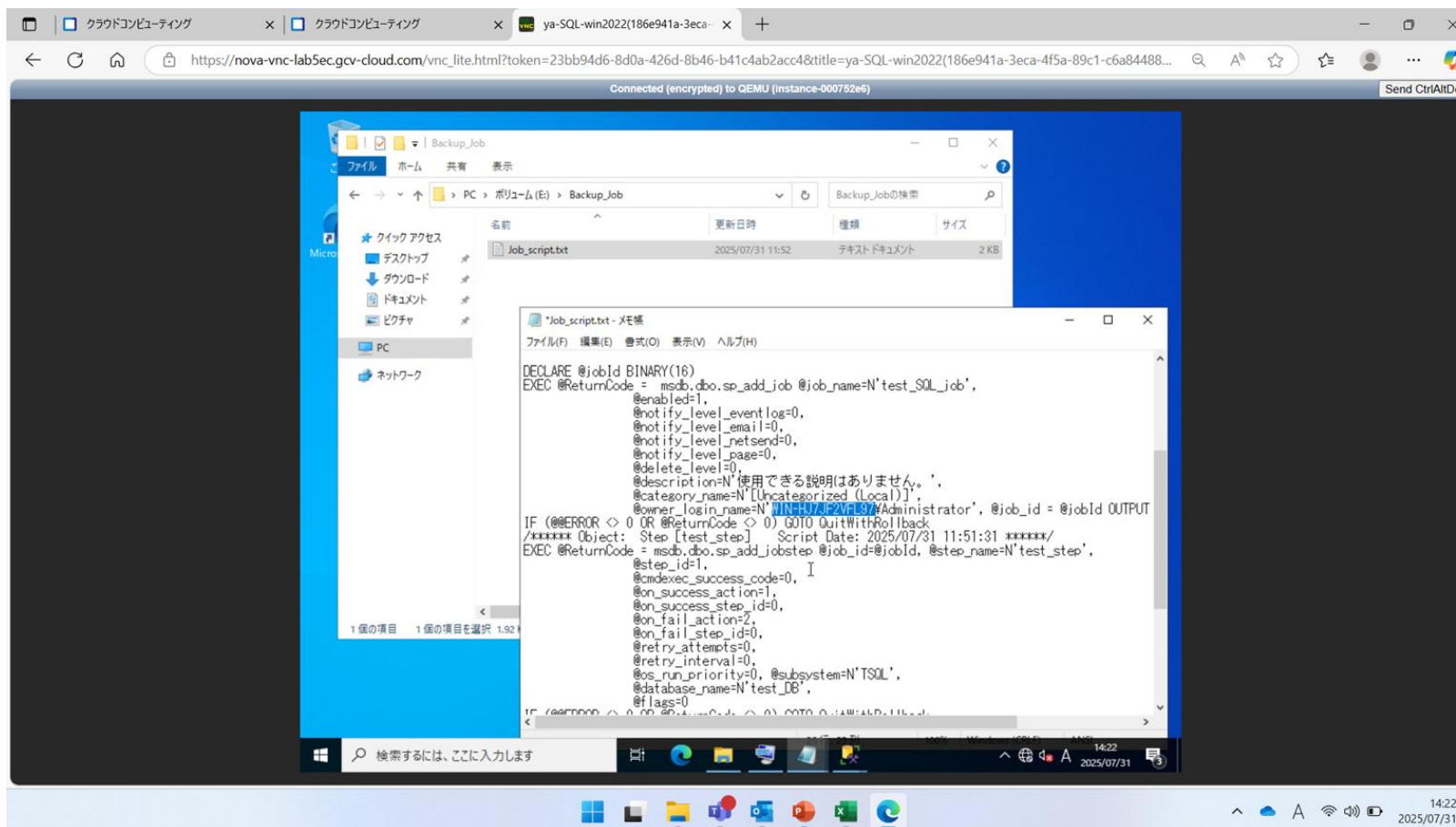


6. リストア作業

つながる。驚きを。幸せを。

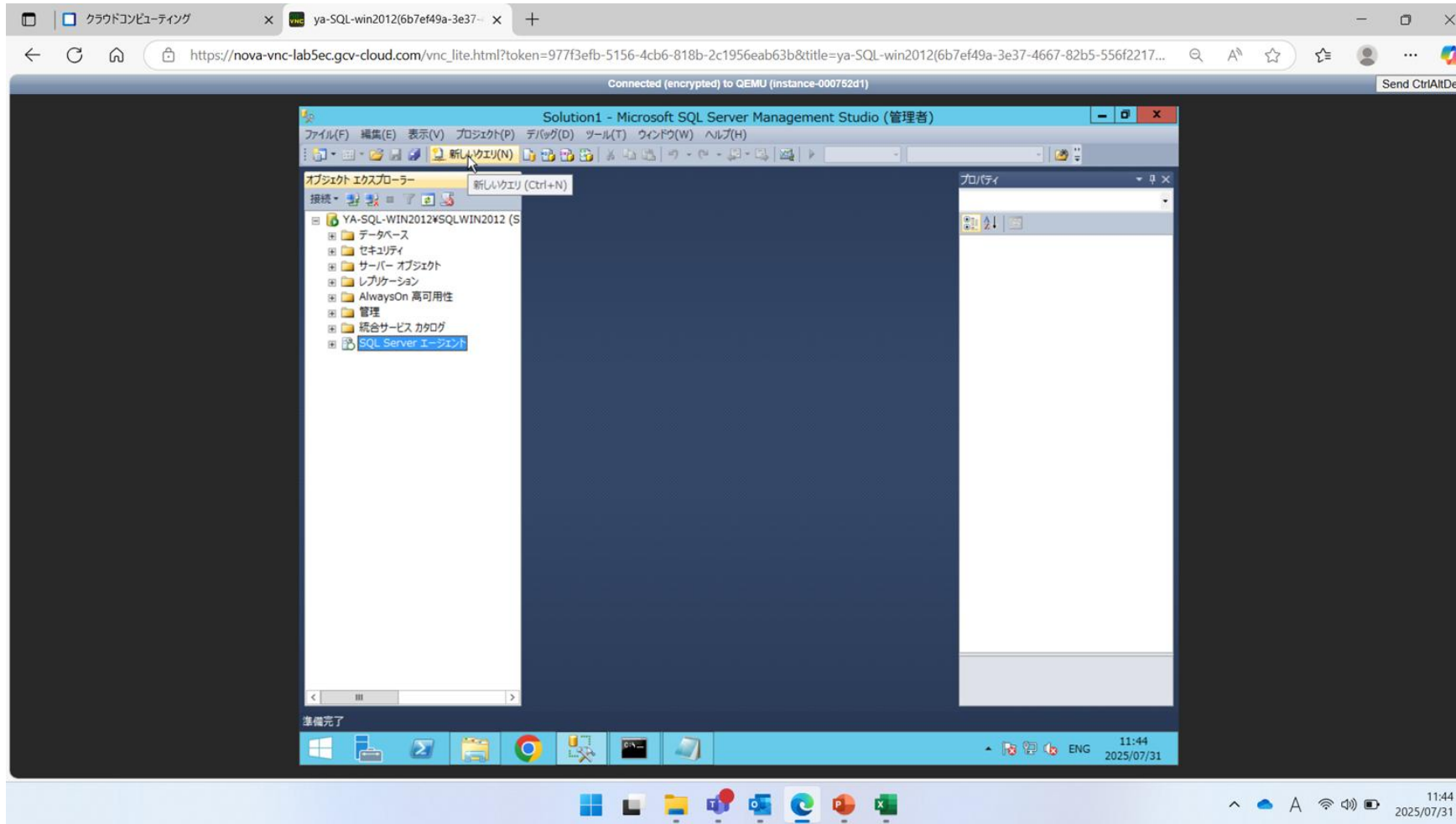
 **docomo Business**

ジョブのエクスポートデータ保存先フォルダに保存したテキストファイルをメモ帳等で開き、内容を全てコピーします。
(テキスト内に移行元のサーバーインスタンス名が含まれている場合は、移行先のサーバーインスタンス名で置換してからコピーを実施してください。)



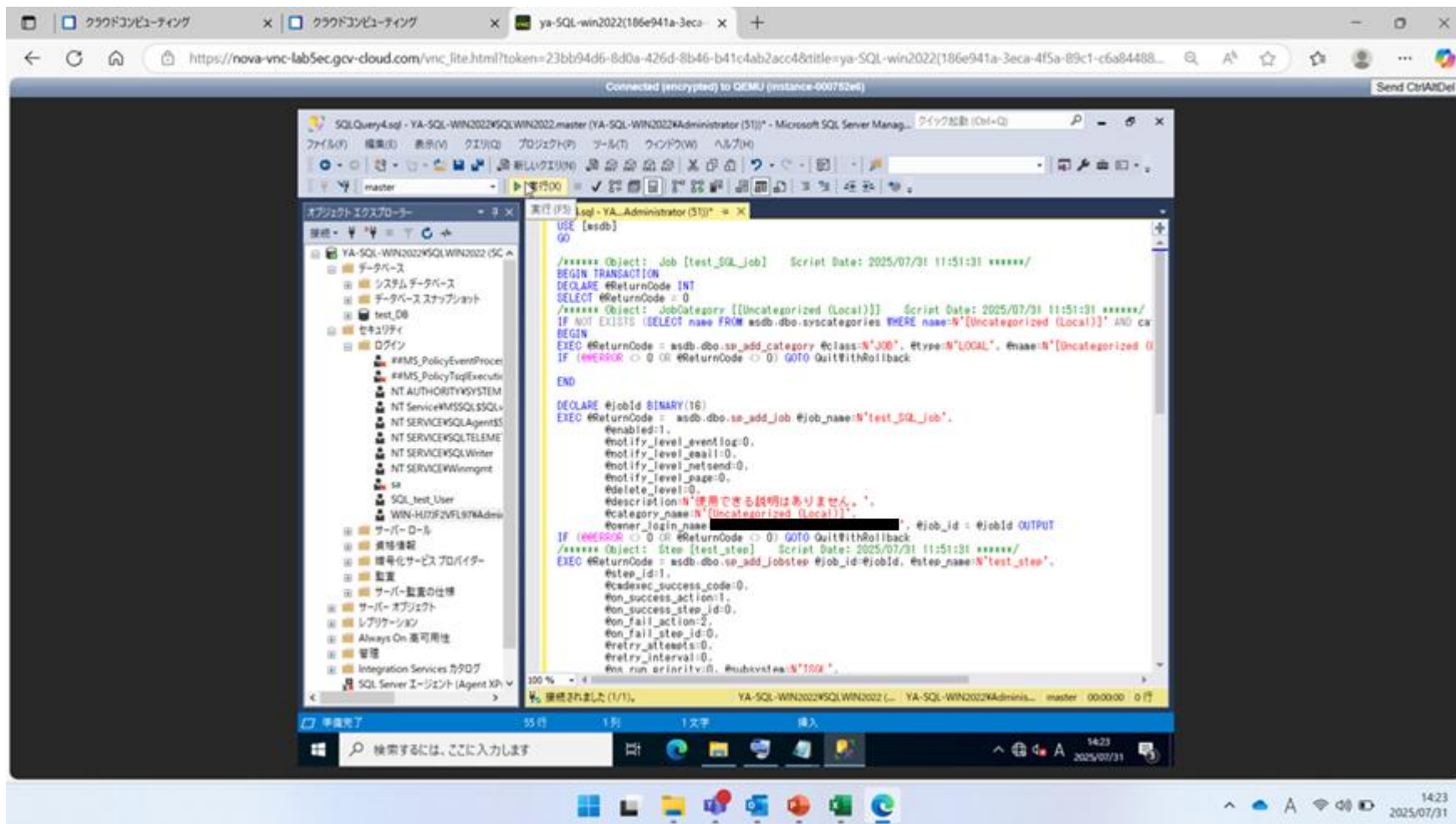
6. リストア作業

SQL Server Management Studioから「新しいクエリ」を選択する。



6. リストア作業

コピーした内容を全て貼り付け、「実行」を選択します。

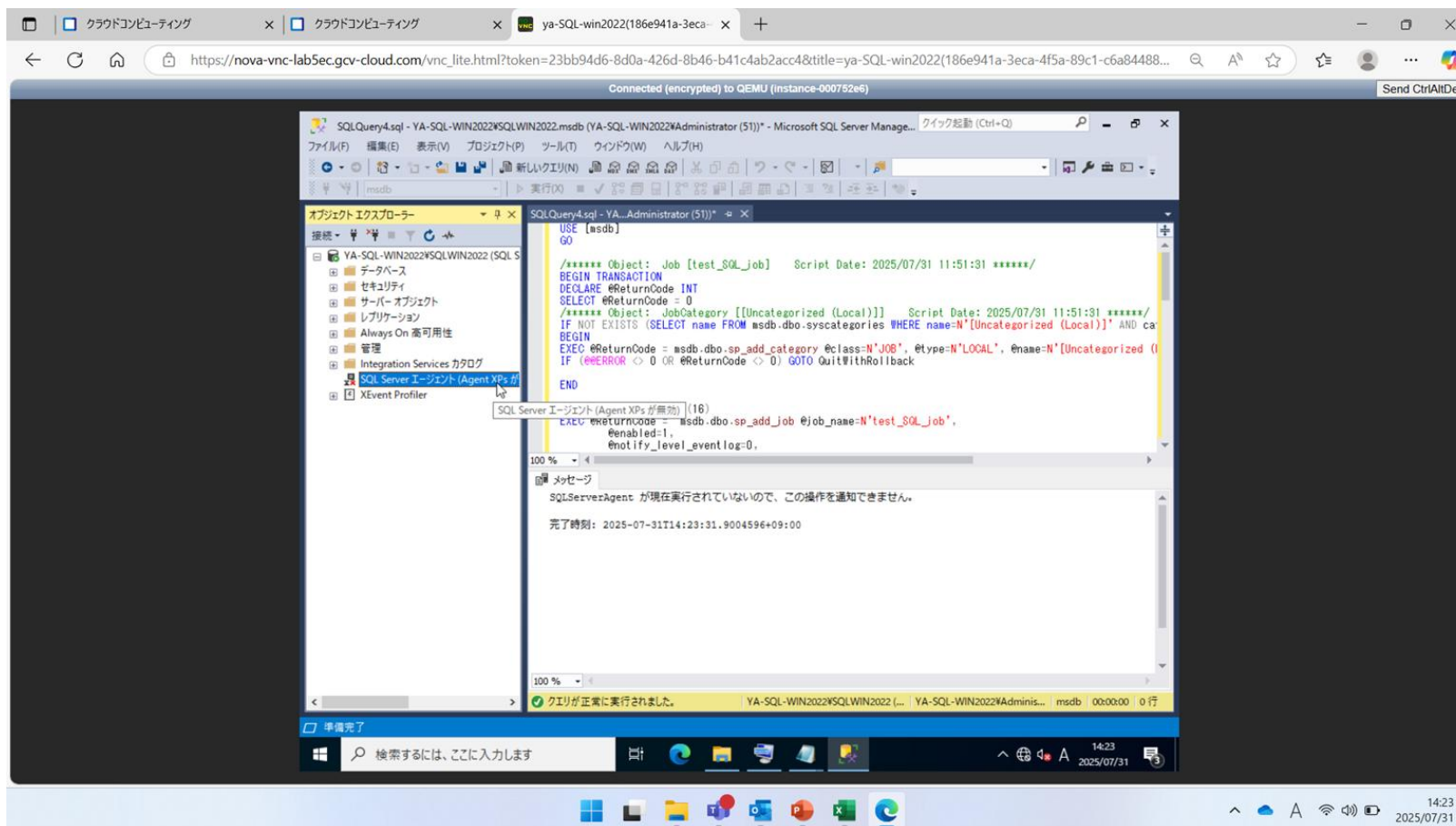


6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

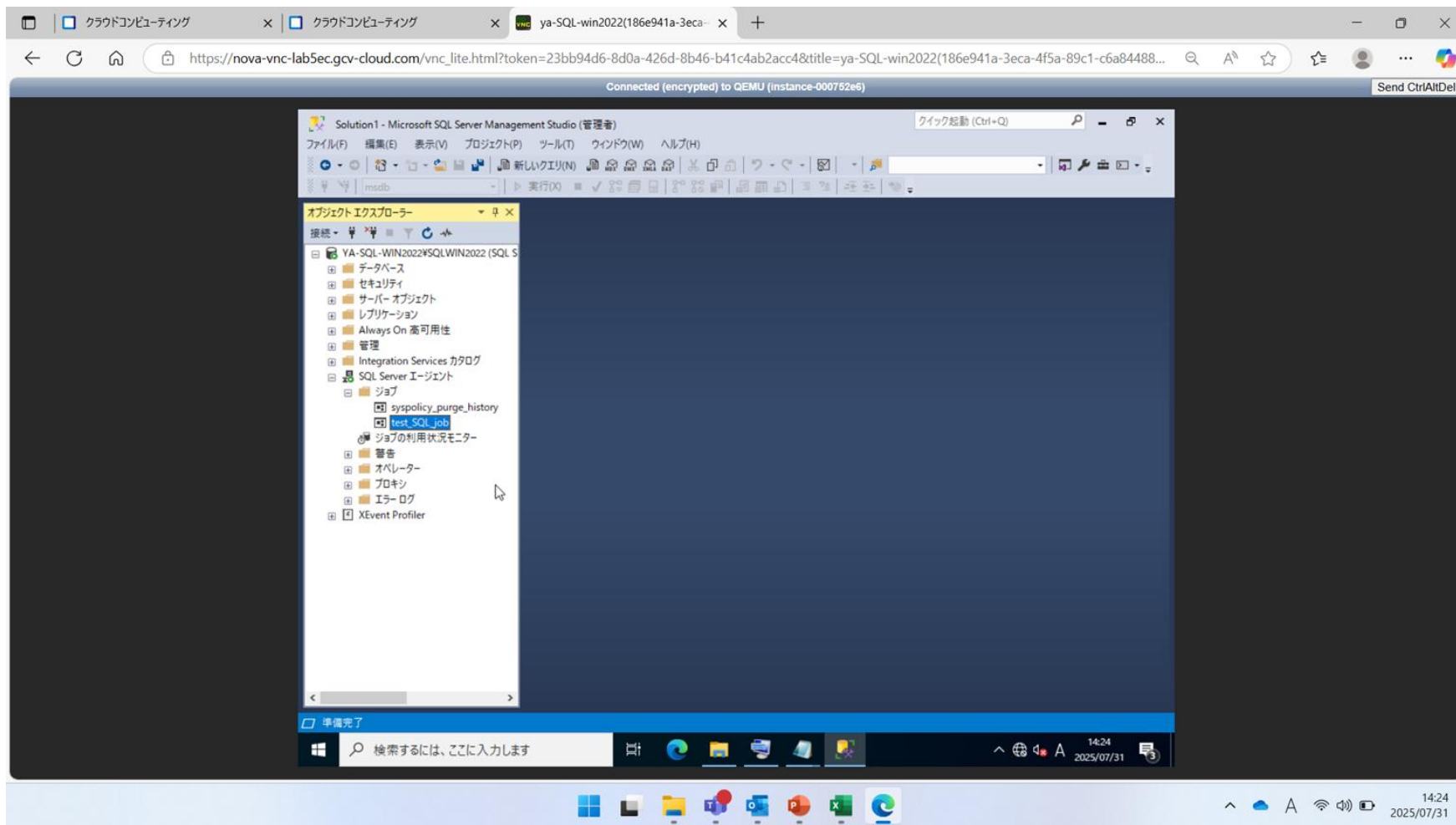
 docomo Business

「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。
SQL Server エージェントを事前に起動していない場合、「SQL Server Agentが～この操作を通知できません。」というメッセージが出力されることがありますが、インポート作業自体には影響ありません。



6. リストア作業

「SQL Server エージェント」 → 「ジョブ」 から対象のジョブがインポートされていることを確認します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

新環境へのデータ移行が完了し、アプリケーションが問題なく稼働することをご確認いただけたら、バックアップデータ保存用ボリュームと移行元サーバを削除していきます。

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

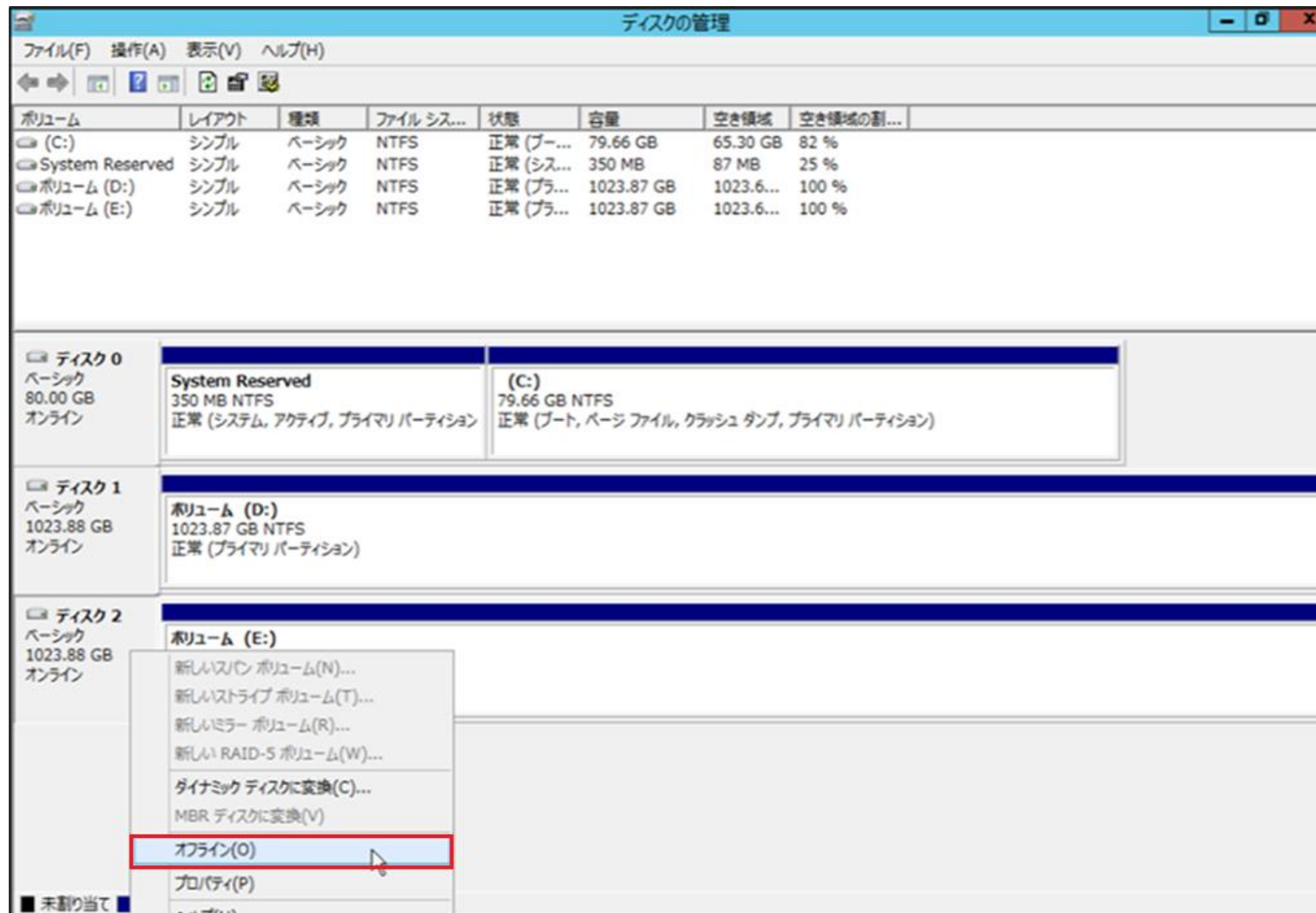
【ボリュームの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

移行先サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。

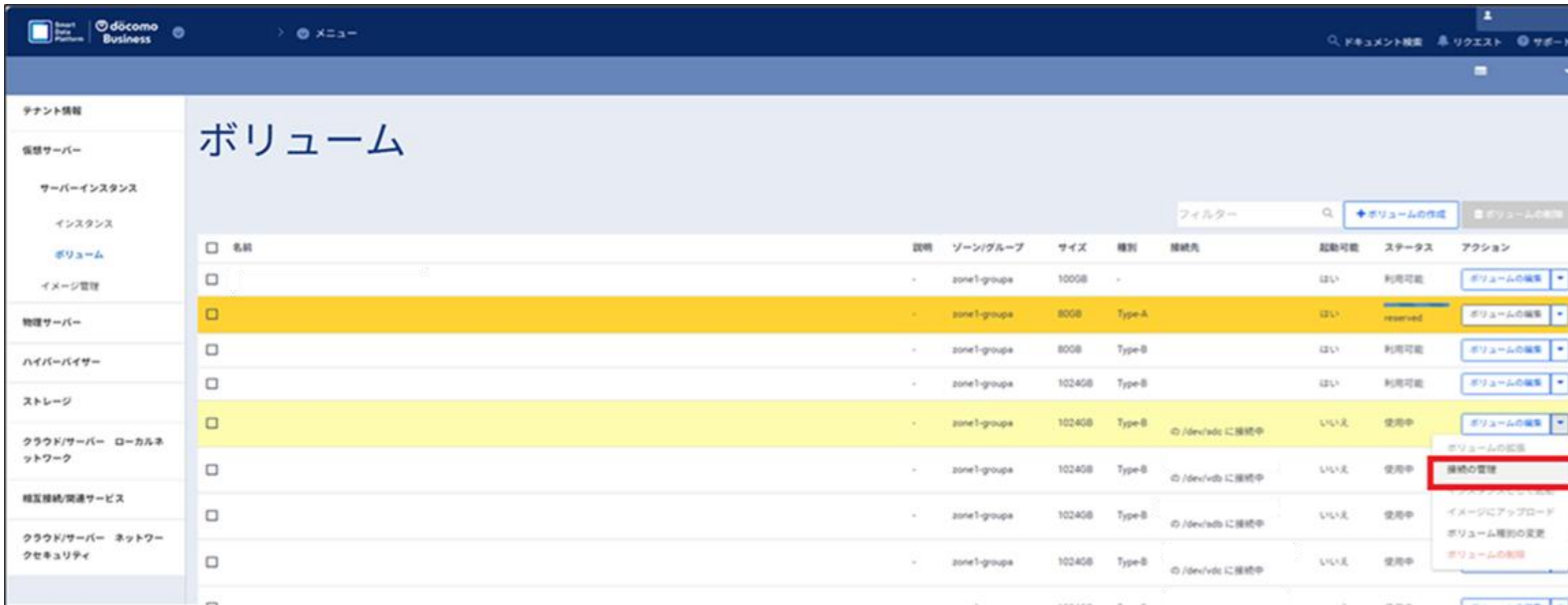


7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

つながろう。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。



The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) page in the NTT docomo Business SDPF portal. The left sidebar contains navigation links for Tenant Information, Virtual Servers, Server Instances, Instances, Volumes, Image Management, Physical Servers, Hypervisors, Storage, Cloud/Server Local Network, Interconnect/Communication Services, Cloud/Server Network Security, and Cloud/Server Network Security. The main content area displays a table of volumes. The table has columns for Name, Description, Zone Group, Size, Type, Connection, Startable, Status, and Action. A red box highlights the '接続の管理' (Manage Connection) option in the dropdown menu for a selected volume.

名前	説明	ゾーングループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-groupa	100GB	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	80GB	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	80GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	1024GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	1024GB	Type-B	/dev/vdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	1024GB	Type-B	/dev/vdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	1024GB	Type-B	/dev/vdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-groupa	1024GB	Type-B	/dev/vdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



「ボリュームの切断の確認」画面が表示されるので、「ボリュームの切断」を押下します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

以下を参照して、コントロールパネルのボリューム一覧画面から、削除したいボリュームを選択し、「ボリュームの削除」を実行します。

ボリュームの削除方法

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

【移行元サーバの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

以下を参照して、移行元サーバを削除します。
インスタンスの削除

1.1.4 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server+SQL Server）データ移行手順

- APIを利用した移行作業内容および詳細
 - APIを利用した手順について、現時点での準備はございません。

■ 切り戻し方法

- 「手順7. 移行元サーバの削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順7. 移行元サーバの削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下手順を参考にサーバーインスタンスのスナップショット作成やバックアップの取得をご検討ください。

[2.6. インスタンスのスナップショットを作成する - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[5.2. ボリュームをイメージ管理へアップロードする - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[4. Arcserve UDP 10.0を用いたSmart Data Platform でのバックアップリストア運用例](#)

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

つながろう。驚きを。幸せを。



■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。
お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

Incident Submission	:	故障・不具合に関するお問い合わせ
General Inquiry	:	設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ